

## 第1章

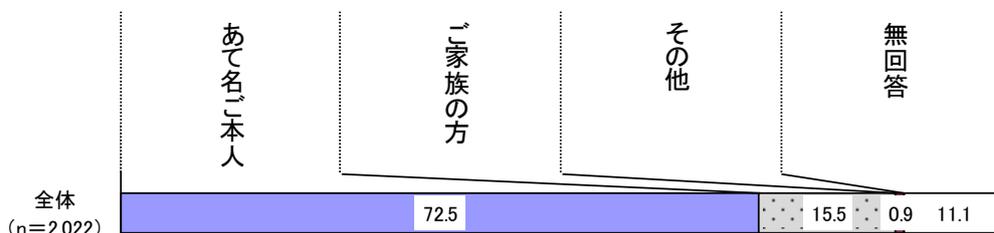
### 在宅の方を対象にした調査



# 1 本人について

## (1) 調査票の回答者

問1 この調査票に回答していただく方はどなたですか。(〇はひとつ)。



調査の回答者は、「あて名ご本人」が72.5%と7割を超えており、「ご家族の方」は15.5%となっています。

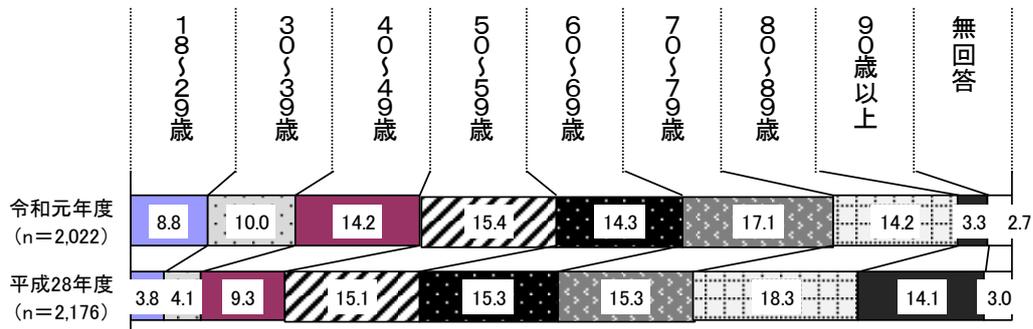
### 【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	あて名ご本人	ご家族の方	その他	無回答
全体	2022	72.5	15.5	0.9	11.1
肢体不自由	338	67.8	19.8	1.2	11.2
音声・言語・そしゃく機能障害	87	47.1	39.1	1.1	12.6
視覚障害	145	56.6	29.7	2.8	11.0
聴覚・平衡機能障害	158	72.2	15.8	0.0	12.0
内部障害	334	76.3	11.4	0.3	12.0
知的障害	235	29.8	59.6	3.4	7.2
発達障害	150	58.7	32.7	0.0	8.7
精神障害	425	79.1	7.3	1.2	12.5
高次脳機能障害	31	48.4	35.5	3.2	12.9
難病(特定疾病)	606	82.3	8.1	0.5	9.1
その他	24	45.8	41.7	0.0	12.5

障害別にみると、“知的障害”を除くいずれの障害も「あて名ご本人」が最も高くなっています。“知的障害”では「ご家族の方」が59.6%と約6割を占め、他の障害に比べ突出して高くなっています。

## (2) 年齢

問2 あなたの年齢をお聞きます。令和元年10月1日現在の満年齢をお書きください。



障害者本人の年齢は、「70～79歳」が17.1%と最も高く、次いで「50～59歳」が15.4%、「60～69歳」が14.3%、「80～89歳」が14.2%と続いています。

平成28年度と比較すると、「18～29歳」、「30～39歳」、「40～49歳」がいずれも上がっており、各年代が比較的バランスのいい割合となっています。

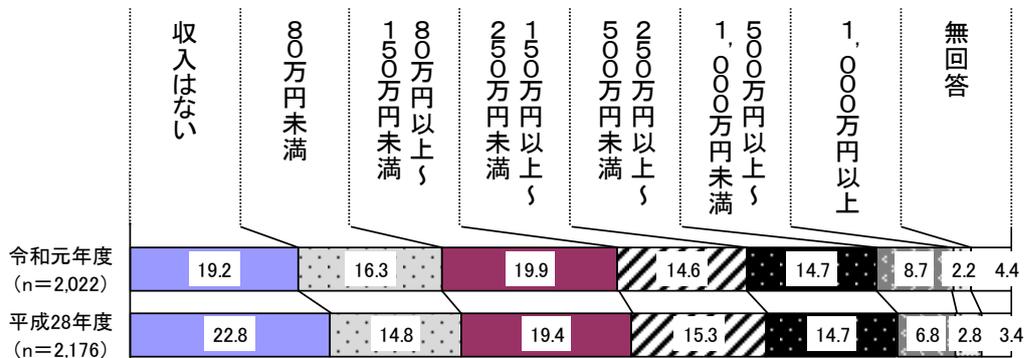
### 【クロス集計】障害別

(単位: %)	n	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~89歳	90歳以上	無回答
全体	2022	8.8	10.0	14.2	15.4	14.3	17.1	14.2	3.3	2.7
障害別										
肢体不自由	338	3.8	3.6	5.0	8.9	14.5	31.1	23.1	6.5	3.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	3.4	10.3	12.6	6.9	12.6	32.2	16.1	4.6	1.1
視覚障害	145	2.8	8.3	12.4	8.3	12.4	20.0	25.5	9.0	1.4
聴覚・平衡機能障害	158	5.1	3.2	6.3	7.0	7.6	20.9	31.6	16.5	1.9
内部障害	334	2.7	4.2	7.2	7.5	16.2	23.4	29.0	7.8	2.1
知的障害	235	34.5	20.0	21.7	11.5	3.8	4.7	0.9	0.9	2.1
発達障害	150	43.3	22.7	16.0	10.0	4.7	0.0	0.0	0.0	3.3
精神障害	425	7.1	16.5	22.4	29.6	14.8	5.6	0.7	0.2	3.1
高次脳機能障害	31	0.0	6.5	16.1	12.9	29.0	29.0	3.2	3.2	0.0
難病(特定疾病)	606	5.8	9.2	14.7	20.6	17.8	17.8	10.7	1.2	2.1
その他	24	4.2	16.7	12.5	4.2	12.5	25.0	16.7	8.3	0.0

障害別にみると、「知的障害」と「発達障害」では「18～29歳」の若年層が最も高くなっています。「精神障害」と「難病(特定疾病)」では「50～59歳」が2割台で最も高くなっています。「高次脳機能障害」では「60～69歳」と「70～79歳」がともに29.0%と約3割で高くなっています。それ以外の障害では「70～79歳」と「80～89歳」の高齢者層で最も高くなっています。

(3) 年収

問3 **あなたご本人**の年収額をお聞きします。税金等を差し引く前の額でお答えください。  
(〇はひとつ)



障害者本人の年収は、「80万円以上～150万円未満」が19.9%と最も高く、次いで「収入はない」が19.2%といずれも約2割を占め高くなっています。

平成28年度と比較すると、「収入はない」が3.6ポイント下がっています。

【クロス集計】年代別

(単位：%)		n	収入はない	80万円未満	80万円以上～150万円未満	150万円以上～250万円未満	250万円以上～500万円未満	500万円以上～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答
全体		2022	19.2	16.3	<b>19.9</b>	14.6	14.7	8.7	2.2	4.4
年代別	18歳以上～40歳未満	379	20.8	18.5	<b>21.9</b>	12.7	11.9	11.3	1.1	1.8
	40歳以上～65歳未満	743	<b>23.8</b>	17.8	16.3	11.2	12.8	11.7	3.9	2.6
	65歳以上～75歳未満	318	14.8	13.5	<b>24.8</b>	19.2	16.7	5.7	1.6	3.8
	75歳以上	527	14.0	15.4	<b>21.1</b>	18.8	19.4	5.3	1.1	4.9

年代別にみると、“40歳以上～65歳未満”では「収入はない」が23.8%と2割を超えて最も高く、それ以外の年代では「80万円以上～150万円未満」が2割台で最も高くなっています。

## 【クロス集計】障害別

(単位:%)		収入は ない	80万円 未満	80万円 以上～ 150万円 未満	150万円 以上～ 250万円 未満	250万円 以上～ 500万円 未満	500万円 以上～ 1,000万 円未満	1,000万 円以上	無回答	
	n									
全体	2022	19.2	16.3	<b>19.9</b>	14.6	14.7	8.7	2.2	4.4	
障害別	肢体不自由	338	16.9	16.6	<b>19.2</b>	18.0	13.6	6.8	1.5	7.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	12.6	16.1	<b>21.8</b>	20.7	12.6	4.6	4.6	6.9
	視覚障害	145	13.8	12.4	17.2	16.6	<b>20.7</b>	11.0	2.1	6.2
	聴覚・平衡機能障害	158	15.2	12.0	20.3	12.7	<b>20.9</b>	7.6	1.3	10.1
	内部障害	334	12.0	12.3	17.4	16.5	<b>21.6</b>	12.6	3.3	4.5
	知的障害	235	17.9	24.7	<b>35.3</b>	14.5	2.6	0.4	0.0	4.7
	発達障害	150	24.7	18.0	<b>26.7</b>	14.7	6.7	4.0	0.7	4.7
	精神障害	425	<b>29.2</b>	25.2	21.4	10.8	7.1	2.8	0.2	3.3
	高次脳機能障害	31	16.1	9.7	<b>29.0</b>	12.9	9.7	9.7	0.0	12.9
	難病（特定疾病）	606	16.7	11.6	14.9	14.4	<b>20.0</b>	14.7	5.0	3.0
	その他	24	<b>33.3</b>	12.5	<b>33.3</b>	12.5	4.2	0.0	0.0	4.2

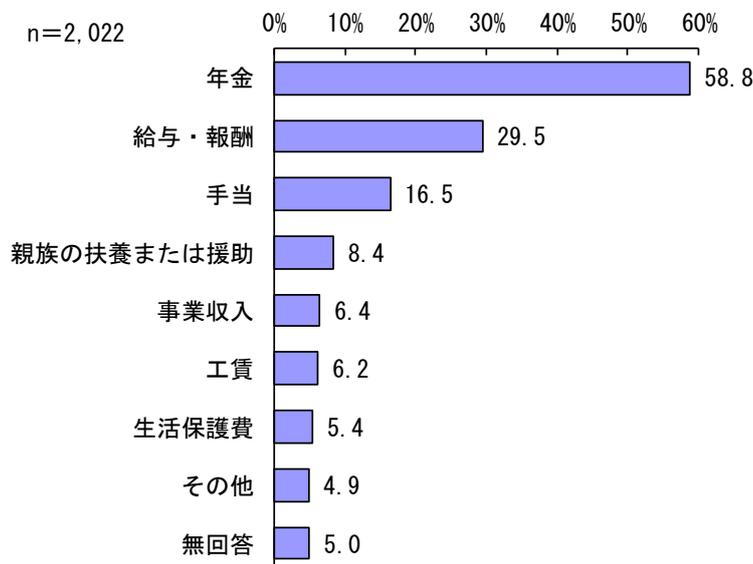
障害別にみると、「視覚障害」、「聴覚・平衡機能障害」、「内部障害」、「難病（特定疾病）」では「250万円以上～500万円未満」が2割を超えて最も高くなっています。

“精神障害”では「収入はない」が約3割で最も高くなっています。

それ以外の障害では「80万円以上～150万円未満」が最も高くなっています。

### （４）収入内訳

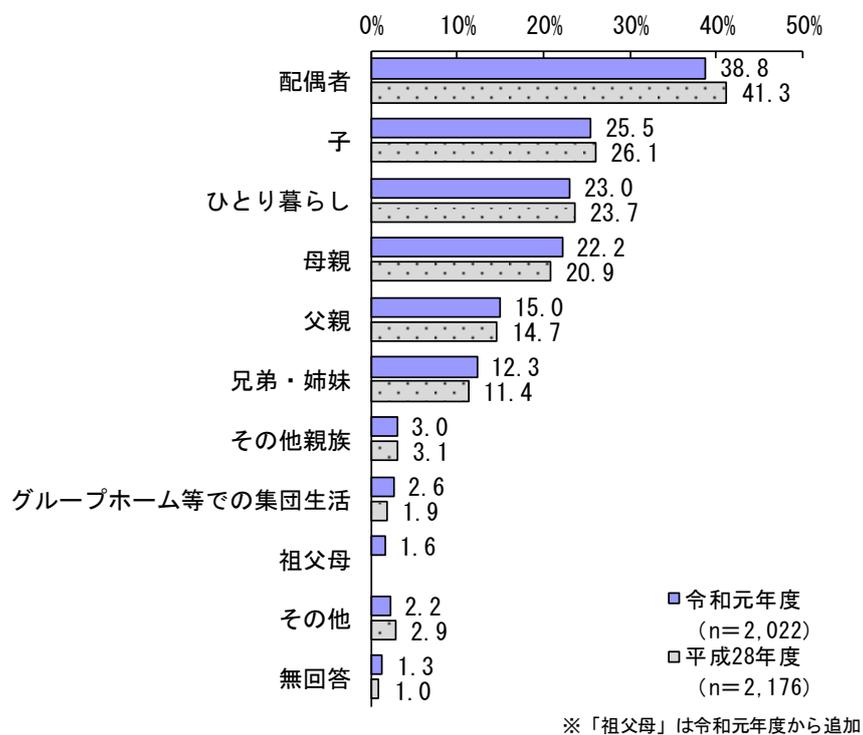
問４ あなたの主な収入の内訳をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）



収入の内訳は、「年金」が58.8%と6割近くで最も高く、次いで「給与・報酬」が29.5%と約3割、「手当」が16.5%と続いています。

## (5) 同居家族

問5 あなたの同居家族をお聞きます。(あてはまるものすべてに○)



同居している家族は、「配偶者」が38.8%と4割近くで最も高く、次いで「子」が25.5%、「ひとり暮らし」が23.0%、「母親」が22.2%と2割台が続いています。

平成28年度と比較すると、「配偶者」が2.5ポイント下がっていますが、全体の傾向にあまり変化はありません。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	父親	母親	配偶者	子	兄弟・姉妹	祖父母
年代別	全体	2022	15.0	22.2	<b>38.8</b>	25.5	12.3	1.6
	18歳以上～40歳未満	379	49.6	<b>60.2</b>	18.2	10.0	34.3	7.1
	40歳以上～65歳未満	743	14.8	27.2	<b>36.6</b>	25.2	11.4	0.7
	65歳以上～75歳未満	318	0.3	3.8	<b>55.7</b>	23.9	5.0	0.0
	75歳以上	527	0.4	0.0	<b>48.0</b>	39.7	2.8	0.0
障害別	肢体不自由	338	8.3	11.8	<b>44.7</b>	32.2	7.1	0.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	14.9	24.1	<b>39.1</b>	19.5	12.6	2.3
	視覚障害	145	6.2	13.1	<b>42.8</b>	31.7	8.3	1.4
	聴覚・平衡機能障害	158	5.1	8.2	<b>44.3</b>	28.5	3.8	0.0
	内部障害	334	3.3	7.2	<b>47.0</b>	30.2	3.9	0.3
	知的障害	235	55.7	<b>74.5</b>	3.0	0.4	40.9	5.5
	発達障害	150	50.7	<b>67.3</b>	8.7	5.3	33.3	3.3
	精神障害	425	22.4	<b>33.6</b>	21.6	16.7	16.5	3.1
	高次脳機能障害	31	9.7	16.1	<b>45.2</b>	29.0	9.7	6.5
	難病(特定疾病)	606	6.6	11.6	<b>56.4</b>	33.3	7.1	0.2
	その他	24	16.7	25.0	16.7	20.8	4.2	0.0

(単位:%)		n	その他親族	ひとり暮らし	グループホーム等での集団生活	その他	無回答
年代別	全体	2022	3.0	23.0	2.6	2.2	1.3
	18歳以上～40歳未満	379	1.8	13.7	4.0	2.6	0.0
	40歳以上～65歳未満	743	1.5	26.0	2.7	0.9	0.1
	65歳以上～75歳未満	318	1.9	29.9	1.3	2.5	0.3
	75歳以上	527	6.5	22.4	2.1	3.4	0.6
障害別	肢体不自由	338	5.9	23.4	2.4	1.8	2.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	4.6	17.2	6.9	4.6	1.1
	視覚障害	145	6.2	24.1	2.8	2.8	1.4
	聴覚・平衡機能障害	158	5.1	27.2	0.6	4.4	2.5
	内部障害	334	3.9	27.8	1.5	3.3	1.8
	知的障害	235	2.6	3.4	13.6	0.0	1.3
	発達障害	150	2.7	16.0	1.3	2.0	2.0
	精神障害	425	0.9	30.4	3.1	2.1	1.2
	高次脳機能障害	31	0.0	19.4	3.2	3.2	0.0
	難病(特定疾病)	606	2.3	21.3	1.0	1.2	0.8
	その他	24	0.0	<b>33.3</b>	4.2	8.3	0.0

年代別にみると、“18歳以上～40歳未満”では「母親」が60.2%と6割に達し最も高く、「父親」、「兄弟姉妹」といった家族も、他の年代に比べ高くなっています。

それ以外の年代ではいずれも「配偶者」が最も高くなっています。

障害別にみると、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”では「母親」が最も高くなっています。

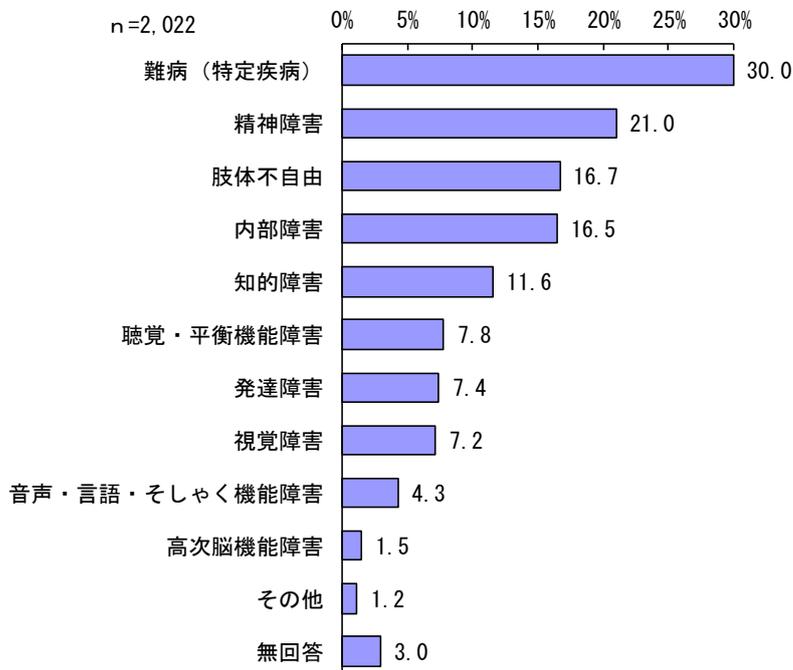
“その他”では「ひとり暮らし」が3割を超えて最も高くなっています。

それ以外の障害では「配偶者」が最も高くなっています。

## 2 障害と健康について

### (1) 障害の種別

問6 あなたには、次の障害等がありますか。(あてはまるものすべてに○)

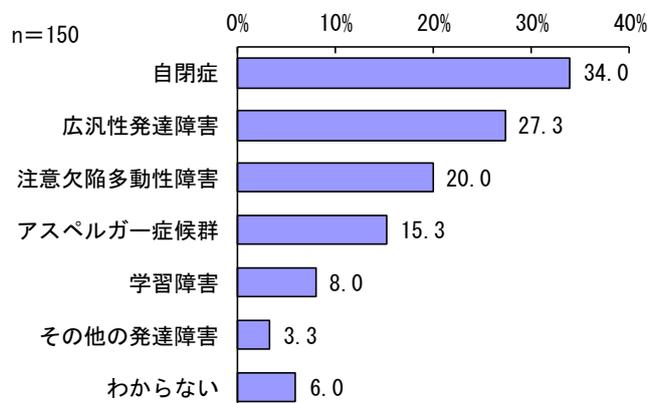


障害の種類は、「難病 (特定疾病)」が 30.0%と 3割で最も高く、次いで「精神障害」が 21.0%、「肢体不自由」が 16.7%、「内部障害」が 16.5%、「知的障害」が 11.6%と続いています。

### (2) 発達障害診断名

問6で「発達障害 (自閉症、アスペルガー症候群等)」と回答された方にお聞きします。

問6-1 発達障害の診断名をお答え下さい。



発達障害の診断名は、「自閉症」が 34.0%と 3割を超えて最も高く、次いで「広汎性発達障害」が 27.3%、「注意欠陥多動性障害」が 20.0%と続いています。

### (3) 難病疾病名

問6で「難病（特定疾病）」と回答された方にお聞きします

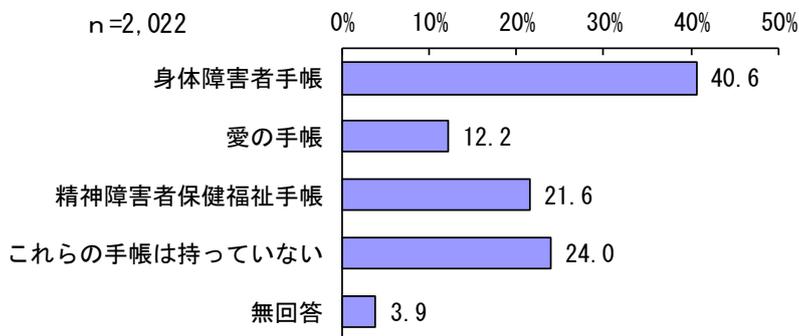
問6-2 病名（東京都発行の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名）等をお答え下さい。

難病の疾病名は、「潰瘍性大腸炎」が85件と最も多く、次いで「パーキンソン病」が52件、「全身性エリテマトーデス」が47件と続いています。その他の件数は下表の通りです。

疾病名	件数	疾病名	件数
潰瘍性大腸炎	85	脊髄小脳変性症	5
パーキンソン病	52	特発性血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病	5
全身性エリテマトーデス	47	顕微鏡的多発血管炎	5
IgA腎症、慢性腎不全	30	肥大型心筋症	5
クローン病	27	先天性血液凝固因子欠乏症	4
多発性硬化症、視神経脊髄炎	18	膠原病	3
強皮症	17	原発性硬化性胆管炎	3
下垂体性ADH分泌異常症、下垂体性PRL分泌亢進症、下垂体前葉機能低下症	17	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	3
皮膚筋炎、多発性筋炎	17	筋ジストロフィー	3
シェーグレン症候群	17	筋萎縮性側索硬化症	3
原発性胆汁性胆管炎	17	原発性免疫不全症候群	3
重症筋無力症	16	肺高血圧症	3
後縦靭帯骨化症	13	巨細胞性動脈炎	3
混合性結合組織病	13	もやもや病	2
網膜色素変性症	12	天疱瘡	2
ベーチェット病	11	黄色靭帯骨化症	2
特発性大腿骨頭壊死症	11	ミトコンドリア病	2
特発性拡張型心筋症	11	IgG4関連疾患	2
サルコイドーシス	10	クッシング病	2
多発性嚢胞腎	8	バージャー病	2
再生不良性貧血	8	多系統委縮症	2
自己免疫性肝炎	8	再発性多発軟骨炎	2
一次性ネフローゼ症候群	8	結節性硬化症	2
特発性間質性肺炎	6	高安動脈炎	2
悪性関節リウマチ	6	全身性アミロイドーシス	2
成人スチル病	6	慢性炎症性脱髄性多発神経炎、多単性運動ニューロパチー	2
好酸球性副鼻腔炎	6	マルファン症候群	2
進行性核上性麻痺	6	閉塞性細気管支炎	2
		その他（1件のみの難病疾病）	19

#### (4) 手帳の種類

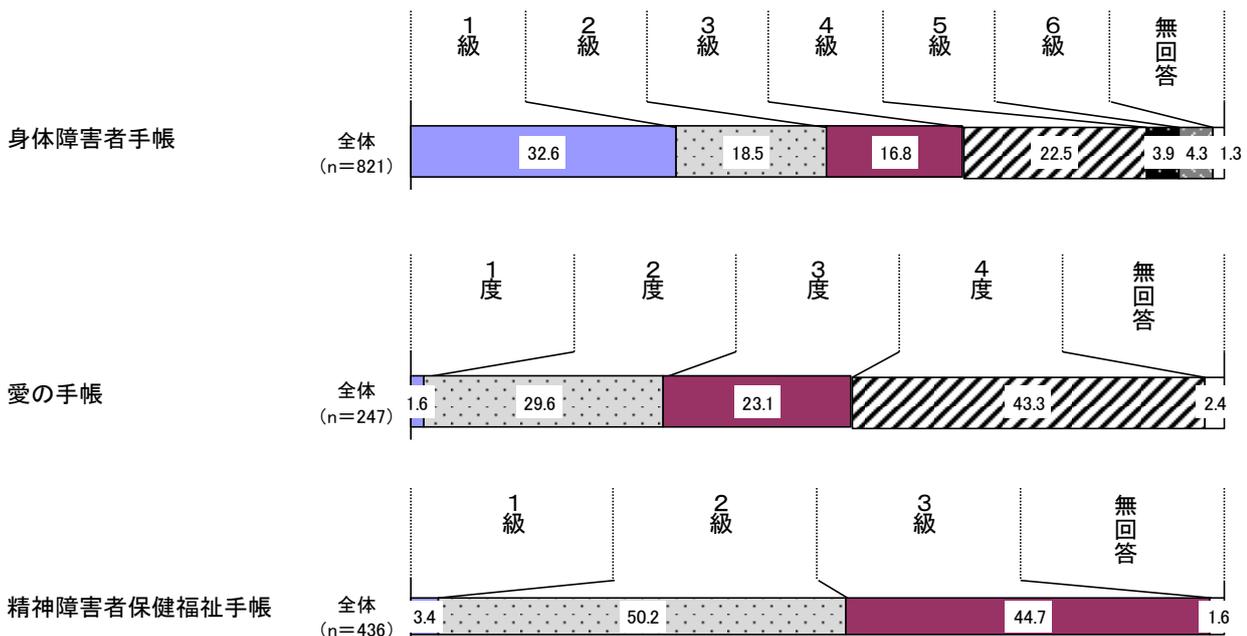
問7 あなたが持っている手帳の種類をお聞きします。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



手帳の所持状況は、「身体障害者手帳」が40.6%と4割で最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」が21.6%、「愛の手帳」が12.2%と続いています。

一方、「これらの手帳は持っていない」は24.0%と全体の4分の1近くを占めます。

#### 【各等級別】



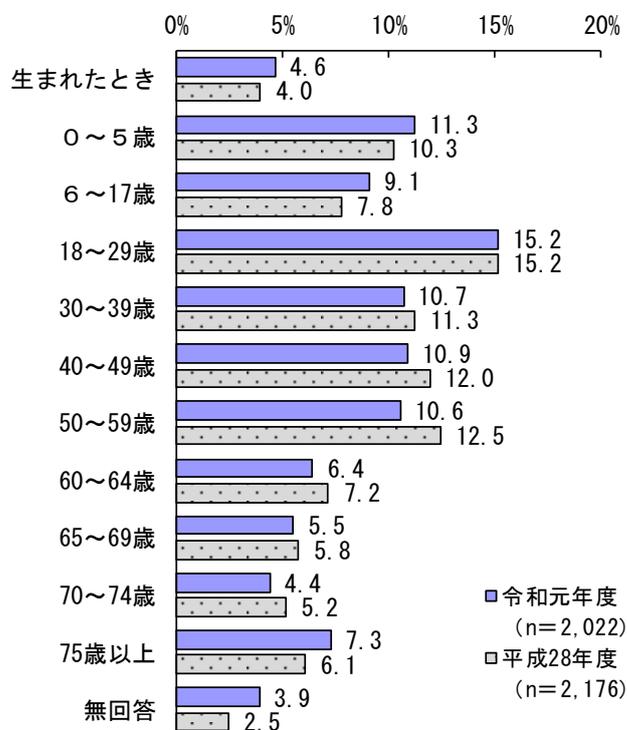
身体障害者手帳の等級は、「1級」が32.6%と最も高く、次いで「4級」が22.5%、「2級」が18.5%と続いています。

愛の手帳の等級は、「4度」が43.3%と最も高く、次いで「2度」が29.6%、「3度」が23.1%と続いています。

精神障害者保健福祉手帳は、「2級」が50.2%と最も高く、次いで「3級」が44.7%、「1級」が3.4%と続いています。

### (5) 障害に最初に気づいた時期

問8 あなたの障害や心身の不調について、あなたやご家族の方などが最初に気づいた時期をお聞きます。(〇はひとつ)



本人や家族が障害に気づいた時期は、「18～29歳」が15.2%と最も高く、次いで「0～5歳」が11.3%、「40～49歳」が10.9%、「30～39歳」が10.7%、「50～59歳」が10.6%と1割台が続いています。

平成28年度と比較すると、「18～29歳」が15.2%と同じ割合で最も高くなっています。また、18歳未満の項目ではいずれも、平成28年度よりも高くなっています。

【クロス集計】障害別

(単位：%)	n	生まれたとき	0～5歳	6～17歳	18～29歳	30～39歳	40～49歳
全体	2022	4.6	11.3	9.1	<b>15.2</b>	10.7	10.9
障害別							
肢体不自由	338	5.0	11.5	3.8	5.6	8.0	11.2
音声・言語・そしゃく機能障害	87	11.5	14.9	1.1	5.7	2.3	4.6
視覚障害	145	11.0	8.3	7.6	11.7	6.9	9.0
聴覚・平衡機能障害	158	8.2	<b>15.2</b>	10.1	8.2	7.0	5.1
内部障害	334	1.8	3.3	4.2	7.5	7.2	9.3
知的障害	235	21.3	<b>55.7</b>	15.3	3.0	0.4	0.4
発達障害	150	2.7	<b>48.7</b>	12.7	17.3	8.0	6.0
精神障害	425	1.6	5.6	15.3	<b>35.8</b>	17.9	13.2
高次脳機能障害	31	0.0	0.0	9.7	6.5	19.4	12.9
難病（特定疾病）	606	0.3	2.8	6.4	15.3	15.0	<b>16.2</b>
その他	24	8.3	16.7	8.3	8.3	8.3	4.2

(単位：%)	n	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
全体	2022	10.6	6.4	5.5	4.4	7.3	3.9
障害別							
肢体不自由	338	<b>15.1</b>	11.5	7.4	8.3	8.9	3.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	<b>17.2</b>	10.3	11.5	9.2	10.3	1.1
視覚障害	145	<b>13.8</b>	7.6	5.5	7.6	7.6	3.4
聴覚・平衡機能障害	158	7.6	5.1	4.4	5.7	19.0	4.4
内部障害	334	16.2	11.7	9.6	8.7	<b>17.4</b>	3.3
知的障害	235	1.7	0.0	0.0	0.0	0.9	1.3
発達障害	150	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	2.0
精神障害	425	6.4	1.2	0.7	1.2	0.7	0.5
高次脳機能障害	31	<b>25.8</b>	9.7	6.5	6.5	3.2	0.0
難病（特定疾病）	606	15.7	6.9	6.9	3.3	5.4	5.6
その他	24	8.3	4.2	8.3	4.2	<b>20.8</b>	0.0

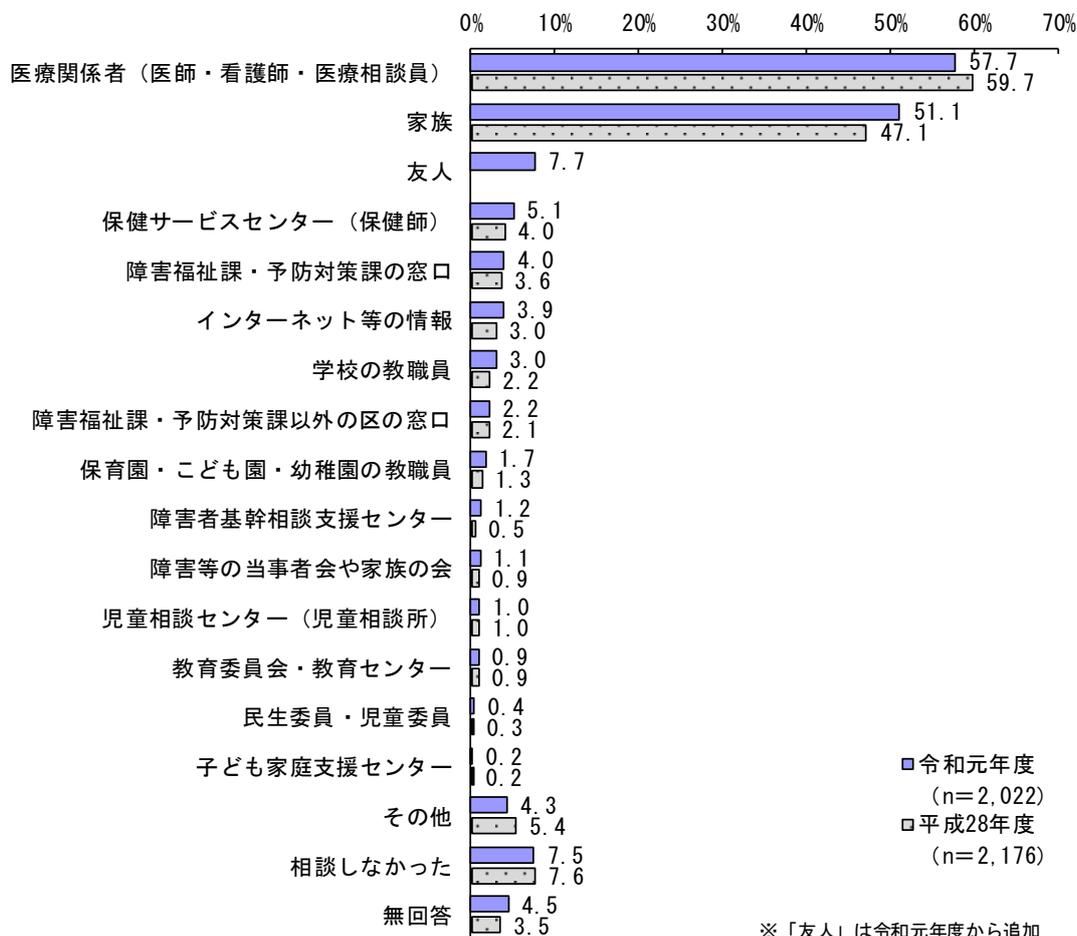
障害別にみると、“聴覚・平衡機能障害”、“知的障害”、“発達障害”、では「0～5歳」の幼年期が最も高くなっており、“知的障害”では「生まれたとき」も他の障害に比べて高くなっています。

“精神障害”では「18～29歳」の青年期で3割半ばを占め最も高くなっています。

それ以外の障害では40歳以降で気づく割合が高く、特に「50～59歳」で気づくことが多くなっています。

## (6) 障害に気づいたときの相談相手

問9 障害や心身の不調に気づいたとき、誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)



障害に気づいたときの相談相手は、「医療関係者 (医師・看護師・医療相談員)」が 57.7%と 5 割後半で最も高く、次いで「家族」が 51.1%と 5 割を超えて続いています。それ以外の項目はいずれも 1 割を切っています。

平成 28 年度と比較すると、「医療関係者 (医師・看護師・医療相談員)」が 2.0 ポイント下がって、「家族」が 4.0 ポイント上がっていますが、全体的な傾向はあまり変化ありません。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	家族	友人	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会
全体	2022	51.1	7.7	3.0	1.7	0.4	1.1
障害別							
肢体不自由	338	49.1	7.7	0.3	0.3	0.9	0.9
音声・言語・そしゃく機能障害	87	<b>55.2</b>	10.3	1.1	0.0	0.0	1.1
視覚障害	145	54.5	3.4	1.4	0.7	0.7	0.0
聴覚・平衡機能障害	158	<b>57.0</b>	7.6	3.2	0.6	1.3	0.0
内部障害	334	43.1	4.2	0.0	0.0	0.6	0.0
知的障害	235	<b>51.1</b>	5.1	9.4	11.9	0.4	6.0
発達障害	150	50.0	12.0	9.3	10.7	0.7	2.7
精神障害	425	53.4	12.0	4.7	0.9	1.2	0.5
高次脳機能障害	31	<b>54.8</b>	9.7	3.2	0.0	0.0	3.2
難病(特定疾病)	606	53.6	8.1	1.7	0.2	0.0	0.5
その他	24	33.3	0.0	4.2	0.0	4.2	0.0

(単位:%)	n	医療関係者(医師・看護師・看護師)	障害福祉課・予防対策課の窓口	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター(保健師)	障害者基幹相談支援センター	子ども家庭支援センター
全体	2022	<b>57.7</b>	4.0	2.2	5.1	1.2	0.2
障害別							
肢体不自由	338	<b>60.7</b>	3.8	2.7	3.3	0.6	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	87	50.6	5.7	4.6	5.7	1.1	0.0
視覚障害	145	<b>58.6</b>	5.5	2.1	2.1	1.4	0.0
聴覚・平衡機能障害	158	54.4	6.3	6.3	4.4	2.5	0.6
内部障害	334	<b>65.0</b>	2.7	2.1	1.5	0.3	0.0
知的障害	235	<b>51.1</b>	6.4	3.0	16.2	3.4	0.4
発達障害	150	<b>58.0</b>	11.3	4.0	14.7	6.0	0.7
精神障害	425	<b>54.4</b>	5.2	2.6	10.6	0.7	0.7
高次脳機能障害	31	48.4	12.9	9.7	9.7	3.2	0.0
難病(特定疾病)	606	<b>65.3</b>	1.3	0.7	2.5	0.5	0.0
その他	24	<b>62.5</b>	0.0	16.7	12.5	4.2	0.0

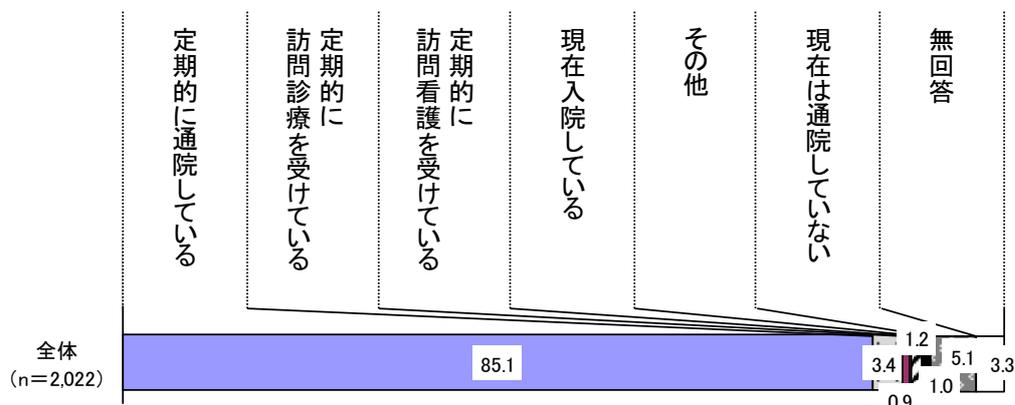
(単位:%)	n	教育委員会・教育センター	児童相談センター(児童相談所)	インターネット等の情報	その他	相談しなかった	無回答
全体	2022	0.9	1.0	3.9	4.3	7.5	4.5
障害別							
肢体不自由	338	0.0	0.0	0.6	6.5	5.0	5.3
音声・言語・そしゃく機能障害	87	1.1	1.1	2.3	6.9	5.7	3.4
視覚障害	145	0.0	0.0	1.4	3.4	5.5	4.8
聴覚・平衡機能障害	158	0.0	0.6	1.9	3.8	3.8	8.2
内部障害	334	0.0	0.0	3.0	3.9	9.6	3.3
知的障害	235	6.4	6.0	3.4	8.1	4.3	3.4
発達障害	150	7.3	6.7	8.0	5.3	10.0	2.7
精神障害	425	0.2	0.9	4.9	4.7	11.3	0.2
高次脳機能障害	31	0.0	0.0	3.2	3.2	6.5	3.2
難病(特定疾病)	606	0.0	0.0	6.1	2.3	6.6	4.5
その他	24	0.0	0.0	0.0	4.2	8.3	0.0

障害別にみると、いずれの障害でも「医療関係者(医師・看護師・医療相談員)」と「家族」が他の項目よりも高くなっており、「音声・言語・そしゃく機能障害」、「聴覚・平衡機能障害」、「高次脳機能障害」では「家族」が最も高くなっています。

「知的障害」では「医療関係者(医師・看護師・医療相談員)」と「家族」がともに51.1%と同じ割合となっています。

## (7) 受診状況

問10 あなたの受診状況等（歯科医療も含む）をお聞きます。（○はひとつ）



医療機関への受診状況は、「定期的に通院している」が85.1%と8割半ばを占めて最も高くなっています。

一方「現在は通院していない」が5.1%となっています。

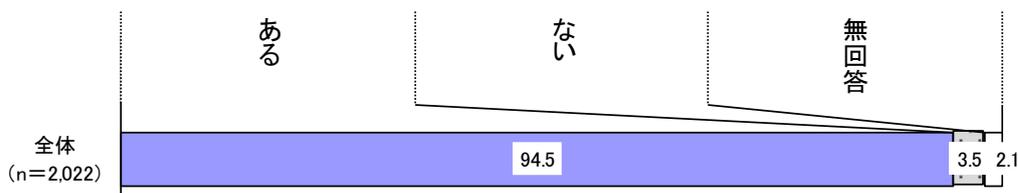
### 【クロス集計】障害別

(単位: %)		n	定期的に通院している	定期的に訪問診療を受けている	定期的に訪問看護を受けている	現在入院している	その他	現在は通院していない	無回答
全体		2022	85.1	3.4	0.9	1.2	1.0	5.1	3.3
障害別	肢体不自由	338	71.0	10.9	2.7	1.5	0.9	8.9	4.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	70.1	12.6	4.6	3.4	0.0	5.7	3.4
	視覚障害	145	71.0	5.5	2.8	1.4	2.1	9.7	7.6
	聴覚・平衡機能障害	158	71.5	5.7	1.3	1.3	1.9	13.9	4.4
	内部障害	334	89.5	3.3	1.8	2.1	1.2	1.2	0.9
	知的障害	235	78.7	3.8	0.0	2.1	1.3	11.1	3.0
	発達障害	150	86.0	2.0	0.7	0.7	2.0	6.0	2.7
	精神障害	425	90.6	2.4	0.5	3.1	0.7	0.9	1.9
	高次脳機能障害	31	74.2	12.9	3.2	3.2	3.2	0.0	3.2
	難病（特定疾病）	606	92.9	2.6	0.7	0.3	0.3	1.0	2.1
その他	24	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

障害別にみると、いずれの障害でも「定期的に通院している」が7割以上で最も高くなっています。「現在は通院していない」は“聴覚・平衡機能障害”と“知的障害”で1割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

### (8) かかりつけ医療機関の有無

問11 あなたはかかりつけの医療機関がありますか。(〇はひとつ)

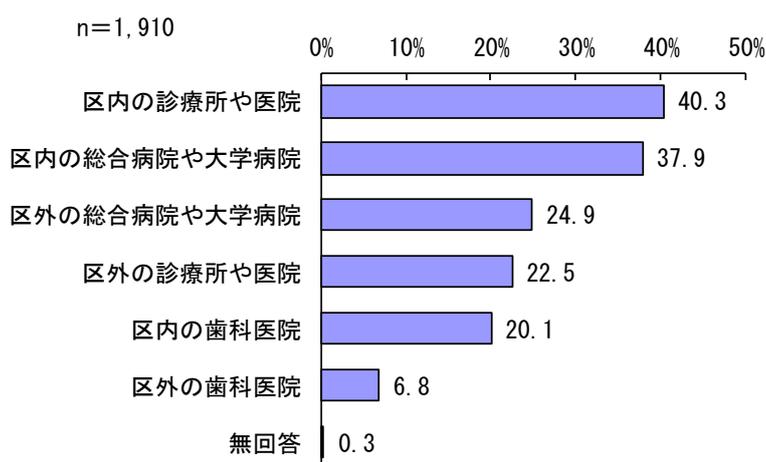


かかりつけ医療機関の有無は、「ある」が94.5%と9割半ばを占めており、「ない」が3.5%となっています。

### (9) 受診している医療機関

問11 でかかりつけ医療機関が「ある」と回答された方にお聞きします。

問12 どのような医療機関ですか。(あてはまるものすべてに〇)



かかりつけの医療機関は、「区内の診療所や医院」が40.3%と4割で最も高く、次いで「区内の総合病院や大学病院」が37.9%、「区外の総合病院や大学病院」が24.9%と続いています。

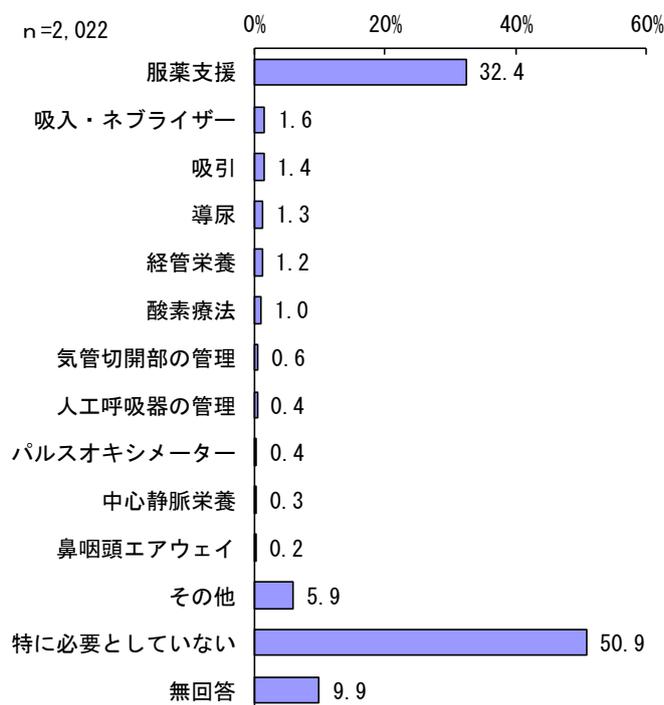
## 【クロス集計】障害別

	n	区内の診療所や医院	区内の歯科医院	区内の総合病院や大学病院	区外の診療所や医院	区外の歯科医院	区外の総合病院や大学病院	無回答
(単位:%)								
全体	1910	<b>40.3</b>	20.1	37.9	22.5	6.8	24.9	0.3
肢体不自由	315	<b>52.1</b>	23.5	41.9	17.1	9.8	23.8	1.0
音声・言語・そしゃく機能障害	80	<b>42.5</b>	30.0	36.3	21.3	15.0	26.3	2.5
視覚障害	131	<b>48.9</b>	24.4	35.9	25.2	6.1	29.8	0.0
聴覚・平衡機能障害	142	<b>57.7</b>	23.9	35.9	16.9	8.5	19.0	0.7
内部障害	330	33.9	19.7	<b>49.1</b>	16.4	3.9	32.4	0.6
知的障害	209	<b>49.8</b>	30.6	16.3	34.9	17.7	22.0	0.5
発達障害	144	<b>54.9</b>	25.0	12.5	44.4	11.1	11.1	0.0
精神障害	411	<b>44.8</b>	16.8	23.4	38.2	4.6	16.5	0.0
高次脳機能障害	29	<b>41.4</b>	10.3	<b>41.4</b>	24.1	6.9	31.0	0.0
難病(特定疾病)	593	25.3	14.0	<b>53.5</b>	12.5	4.7	34.6	0.2
その他	24	33.3	12.5	<b>37.5</b>	20.8	12.5	29.2	0.0

障害別にみると、“内部障害”、“高次脳機能障害”、“難病(特定疾病)”、“その他”では、「区内の総合病院や大学病院」が最も高くなっており、それ以外の障害では「区内の診療所や医院」が最も高くなっています。

## (10) 必要な医療的ケア

問 13 あなたが必要とする医療的ケアをお聞きます。(あてはまるものすべてに○)



必要とする医療的ケアは、「服薬支援」が32.4%と3割を超えて最も高く、それ以外の項目はいずれも1割を切っています。

一方、「特に必要としていない」は50.9%と5割を占めています。

### 【クロス集計】年代別

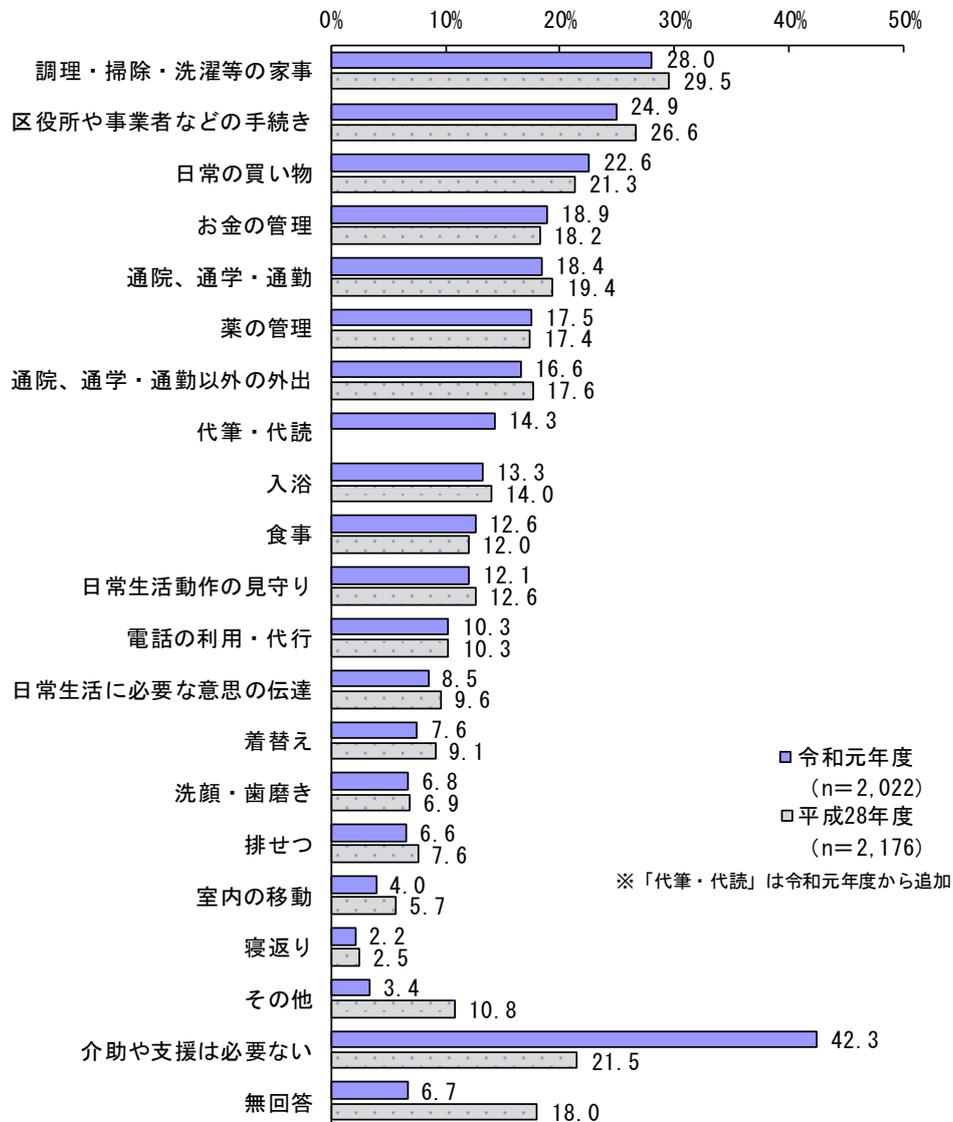
(単位:%)		n	服薬支援	吸引	吸入・ネブライザー	経管栄養	中心静脈栄養	導尿	酸素療法
全体	2022	32.4	1.4	1.6	1.2	0.3	1.3	1.0	
年代別	18歳以上～40歳未満	379	33.2	1.3	2.6	0.8	0.0	0.5	0.5
	40歳以上～65歳未満	743	33.6	0.7	1.9	1.2	0.4	0.8	0.7
	65歳以上～75歳未満	318	24.5	2.5	0.6	1.6	0.0	1.6	1.3
	75歳以上	527	34.2	1.7	1.1	1.1	0.6	2.5	1.7

(単位:%)		n	鼻咽喉頭エアウェイ	パルスオキシメーター	気管切開部の管理	人工呼吸器の管理	その他	特に必要としない	無回答
全体	2022	0.2	0.4	0.6	0.4	5.9	50.9	9.9	
年代別	18歳以上～40歳未満	379	0.5	0.3	0.5	0.0	3.4	58.3	4.5
	40歳以上～65歳未満	743	0.3	0.4	0.7	0.3	5.5	53.2	7.0
	65歳以上～75歳未満	318	0.3	0.6	0.9	0.3	4.7	53.1	14.8
	75歳以上	527	0.0	0.2	0.4	0.9	9.1	43.6	13.1

年代別にみると、いずれの年代も“特に必要としない”と“服薬支援”が高くなっています。

## (11) 日常生活に必要な介助や支援

問 14 あなたは、毎日の生活の中で、どのような介助や支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)



日常生活に必要な介助や支援は、「調理・掃除・洗濯等の家事」が28.0%と最も高く、次いで「区役所や事業者などの手続き」が24.9%、「日常の買い物」が22.6%と2割台が続いています。

一方、「介助や支援は必要ない」は42.3%と4割を超えています。

平成28年度と比較すると、「介助や支援は必要ない」が20.8ポイント大きく上がっています。それ以外では割合下がっている項目が多いものの、大きな差はなく、全体的な傾向はあまり変化ありません。

【クロス集計】障害別

(単位：%)		食事	排せつ	入浴	寝返り	着替え	調理・掃除・洗濯等の家事	室内の移動
	n							
全体	2022	12.6	6.6	13.3	2.2	7.6	<b>28.0</b>	4.0
障害別	肢体不自由	338	21.6	18.3	32.5	8.3	<b>42.6</b>	14.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	33.3	28.7	41.4	10.3	41.4	13.8
	視覚障害	145	17.2	9.7	14.5	2.8	13.1	35.9
	聴覚・平衡機能障害	158	11.4	5.1	13.3	1.9	5.1	24.7
	内部障害	334	13.8	7.2	14.1	3.0	8.1	26.0
	知的障害	235	31.5	20.9	33.6	2.6	22.1	61.3
	発達障害	150	19.3	8.0	18.0	0.0	9.3	<b>50.0</b>
	精神障害	425	12.2	2.6	7.8	1.4	3.3	<b>33.6</b>
	高次脳機能障害	31	38.7	25.8	41.9	9.7	25.8	<b>61.3</b>
	難病（特定疾病）	606	6.8	5.4	10.6	2.0	5.8	17.2
その他	24	16.7	16.7	29.2	4.2	8.3	<b>45.8</b>	

(単位：%)		洗顔・歯磨き	代筆・代読	電話の利用・代行	お金の管理	日常の買い物	通院、通学・通勤	通院、通学・通勤以外の外出
	n							
全体	2022	6.8	14.3	10.3	18.9	22.6	18.4	16.6
障害別	肢体不自由	338	13.9	18.3	13.6	21.0	36.4	27.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	31.0	41.4	35.6	41.4	39.1	34.5
	視覚障害	145	9.0	<b>48.3</b>	17.2	20.0	41.4	31.7
	聴覚・平衡機能障害	158	4.4	17.1	27.2	13.3	19.6	21.5
	内部障害	334	5.1	9.3	7.5	13.2	22.5	18.9
	知的障害	235	29.8	50.6	37.9	69.8	51.9	48.5
	発達障害	150	14.7	28.7	25.3	<b>50.0</b>	36.7	30.0
	精神障害	425	4.2	8.5	6.1	22.4	19.3	16.2
	高次脳機能障害	31	19.4	41.9	19.4	48.4	41.9	25.8
	難病（特定疾病）	606	3.6	5.9	3.6	7.4	15.5	10.6
その他	24	12.5	16.7	8.3	37.5	37.5	20.8	

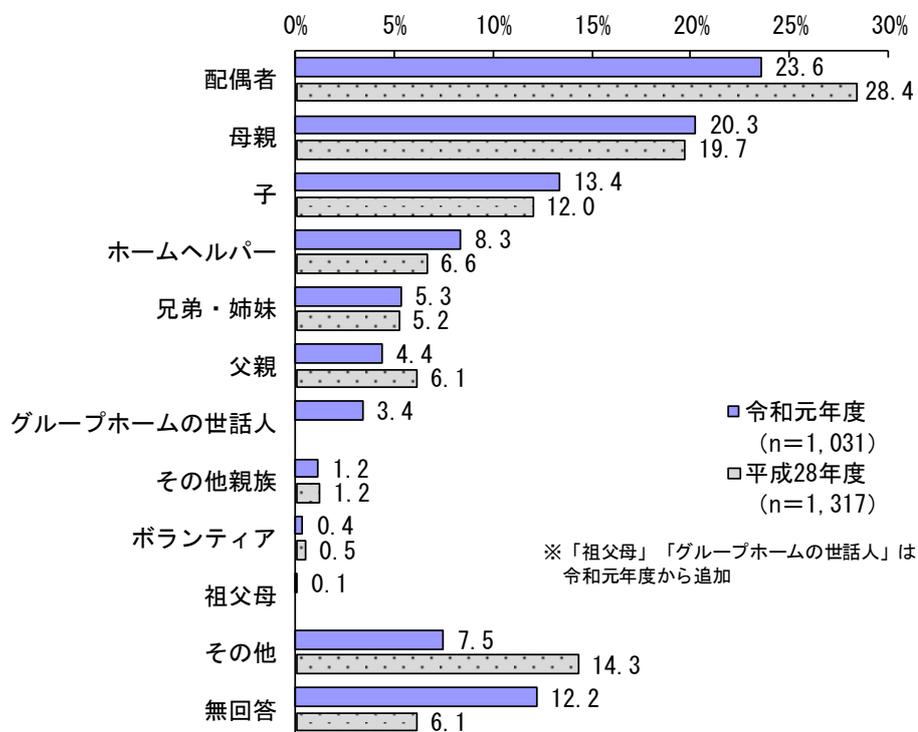
(単位：%)		日常生活に必要な意思の伝達	日常生活動作の見守り	薬の管理	区役所や事業者などの手続き	その他	介助や支援は必要ない	無回答
	n							
全体	2022	8.5	12.1	17.5	24.9	3.4	42.3	6.7
障害別	肢体不自由	338	8.3	17.8	21.9	31.7	4.4	26.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	32.2	32.2	42.5	<b>48.3</b>	1.1	17.2
	視覚障害	145	6.9	13.1	22.1	40.7	4.1	17.2
	聴覚・平衡機能障害	158	8.2	10.8	19.6	25.9	2.5	<b>33.5</b>
	内部障害	334	5.1	10.8	13.8	19.5	1.8	<b>46.7</b>
	知的障害	235	40.9	42.1	56.2	<b>70.6</b>	3.8	10.2
	発達障害	150	30.7	28.7	36.7	45.3	4.0	24.7
	精神障害	425	7.8	11.5	21.9	24.0	6.1	32.9
	高次脳機能障害	31	25.8	29.0	51.6	58.1	0.0	12.9
	難病（特定疾病）	606	2.1	5.9	8.3	13.2	3.0	<b>66.5</b>
その他	24	4.2	25.0	29.2	37.5	8.3	20.8	

障害別にみると、“視覚障害”では「代読・代筆」、「発達障害」では「お金の管理」、「音声・言語・そしゃく機能障害」と“知的障害”では「区役所や事業者などの手続き」が最も高くなっています。

## (12) 主な介助者・支援者

問 14 で「介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。

問 15 あなたを主に介助・支援している人はどなたですか。(○はひとつ)



主な介助者・支援者は、「配偶者」が 23.6%と 2 割を超えて最も高く、次いで「母親」が 20.3%、「子」が 13.4%と続いています。

平成 28 年度と比較すると、「配偶者」が 4.8 ポイント下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	父親	母親	配偶者	子	兄弟・姉妹	祖父母
年代別	全体	1031	4.4	20.3	<b>23.6</b>	13.4	5.3	0.1
	18歳以上～40歳未満	221	12.7	<b>52.9</b>	7.7	0.0	4.5	0.0
	40歳以上～65歳未満	330	4.8	<b>25.5</b>	17.3	5.5	6.4	0.0
	65歳以上～75歳未満	135	0.0	2.2	<b>45.2</b>	9.6	7.4	0.0
	75歳以上	314	0.3	0.0	31.2	<b>33.1</b>	4.1	0.3
障害別	肢体不自由	227	1.3	8.8	<b>30.0</b>	20.3	3.5	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	66	1.5	18.2	<b>25.8</b>	15.2	4.5	0.0
	視覚障害	106	1.9	7.5	<b>26.4</b>	15.1	4.7	0.0
	聴覚・平衡機能障害	94	0.0	4.3	<b>29.8</b>	24.5	2.1	1.1
	内部障害	153	0.0	2.6	<b>30.7</b>	28.1	4.6	0.7
	知的障害	198	10.6	<b>56.1</b>	1.5	0.0	8.6	0.0
	発達障害	105	12.4	<b>58.1</b>	4.8	0.0	3.8	0.0
	精神障害	259	6.6	<b>22.4</b>	16.2	4.2	9.3	0.0
	高次脳機能障害	26	0.0	15.4	<b>26.9</b>	11.5	7.7	0.0
	難病(特定疾病)	181	0.6	9.4	<b>40.9</b>	19.3	2.8	0.0
	その他	18	11.1	16.7	11.1	<b>22.2</b>	0.0	0.0

(単位:%)		n	その他親族	ホームヘルパー	ボランティア	グループホームの世話人	その他	無回答
年代別	全体	1031	1.2	8.3	0.4	3.4	7.5	12.2
	18歳以上～40歳未満	221	0.0	0.9	0.0	3.6	5.0	12.7
	40歳以上～65歳未満	330	1.2	11.5	0.6	3.6	10.3	13.3
	65歳以上～75歳未満	135	0.7	11.9	0.0	2.2	7.4	13.3
	75歳以上	314	2.2	8.6	0.6	3.2	6.1	10.2
障害別	肢体不自由	227	1.3	13.2	0.0	4.8	4.8	11.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	66	0.0	3.0	0.0	9.1	6.1	16.7
	視覚障害	106	0.9	14.2	0.9	2.8	9.4	16.0
	聴覚・平衡機能障害	94	1.1	7.4	0.0	3.2	13.8	12.8
	内部障害	153	3.3	7.8	0.0	1.3	11.1	9.8
	知的障害	198	0.5	0.0	0.5	11.1	1.0	10.1
	発達障害	105	0.0	1.9	1.0	0.0	7.6	10.5
	精神障害	259	0.4	10.8	1.2	3.1	10.4	15.4
	高次脳機能障害	26	0.0	15.4	0.0	0.0	11.5	11.5
	難病(特定疾病)	181	1.7	7.2	1.1	1.1	7.7	8.3
	その他	18	0.0	11.1	0.0	5.6	11.1	11.1

年代別にみると、“18歳以上～40歳未満”と“40～65歳未満”では「母親」が最も高く、特に“18歳以上～40歳未満”では52.9%と5割を超えています。

“65歳以上～75歳未満”では「配偶者」が45.2%と最も高くなっています。

“75歳以上”では「子」が33.1%と最も高くなっています。

障害別にみると、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”では「母親」が最も高く、特に“知的障害”と“発達障害”では5割を超えています。

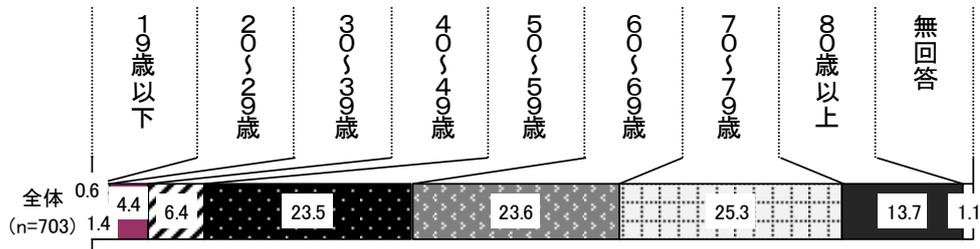
“その他”では「子」が22.2%と最も高くなっています。

それ以外の障害では「配偶者」が最も高くなっています。

### (13) 主な介助者・支援者の年代

問 15 で家族や親族と回答された方にお聞きします。

問 15-1 あなたを主に介助・支援している人は何歳ですか。(○はひとつ)



主な介助者・支援者の年代は、「70～79歳」が25.3%と最も高く、次いで「60～69歳」が23.6%、「50～59歳」が23.5%、「80歳以上」が13.7%と続いています。

#### 【クロス集計】 介助者別・障害別

	n	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	無回答	
(単位:%)											
全体	703	0.6	1.4	4.4	6.4	23.5	23.6	25.3	13.7	1.1	
介助者別	父親	45	0.0	0.0	0.0	4.4	13.3	33.3	33.3	11.1	4.4
	母親	209	0.0	0.0	0.0	1.9	23.0	30.6	25.4	17.7	1.4
	配偶者	243	0.0	0.0	6.6	7.0	13.2	14.8	35.8	21.4	1.2
	子	138	2.9	7.2	7.2	13.0	42.8	21.7	5.1	0.0	0.0
	兄弟・姉妹	55	0.0	0.0	7.3	7.3	29.1	27.3	25.5	3.6	0.0
	祖父母	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他親族	12	0.0	0.0	8.3	0.0	25.0	50.0	16.7	0.0	0.0
障害別	肢体不自由	148	0.7	2.0	5.4	8.8	17.6	22.3	26.4	16.9	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	43	0.0	2.3	2.3	7.0	23.3	25.6	25.6	11.6	2.3
	視覚障害	60	1.7	0.0	6.7	5.0	23.3	28.3	20.0	13.3	1.7
	聴覚・平衡機能障害	59	0.0	0.0	1.7	1.7	33.9	18.6	22.0	20.3	1.7
	内部障害	107	1.9	0.9	3.7	5.6	28.0	22.4	23.4	14.0	0.0
	知的障害	153	0.0	0.0	1.3	2.6	32.0	31.4	17.6	13.7	1.3
	発達障害	83	0.0	0.0	1.2	8.4	32.5	31.3	16.9	7.2	2.4
	精神障害	153	0.7	2.6	7.8	11.1	17.6	22.2	27.5	8.5	2.0
	高次脳機能障害	16	0.0	0.0	0.0	18.8	12.5	25.0	37.5	6.3	0.0
	難病(特定疾病)	135	1.5	4.4	5.9	5.2	21.5	17.8	28.1	15.6	0.0
その他	11	0.0	0.0	0.0	9.1	27.3	9.1	45.5	9.1	0.0	

介助者別にみると、いずれの介助者も50歳以上が高くなっており、「父親」、「母親」では「60～69歳」と「70～79歳」が3割を超えて高く、「配偶者」では「70～79歳」と「80歳以上」が他の介助者よりも高くなっています。

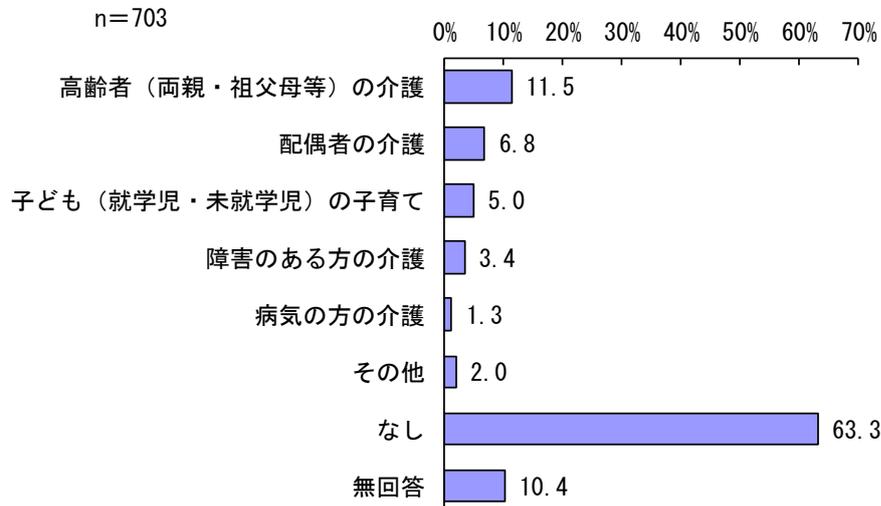
障害別にみると、「聴覚・平衡機能障害」、「内部障害」、「知的障害」、「発達障害」では「50～59歳」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「60～69歳」と「70～79歳」の高齢者層で最も高くなっています。

#### (14) 主な介助者による介護状況

問 15 で家族や親族と回答された方にお聞きします。

問 16 主な介助者は、あなた以外の方の世話や介護をされていますか。(あてはまるものすべてに○)



主な介助者のその他の介護状況は、「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が 11.5%と 1 割を超えて最も高く、次いで「配偶者の介護」が 6.8%、「子ども（就学児・未就学児）の子育て」が 5.0%と続いています。

一方、「なし」が 63.3%と 6 割を超えています。

【クロス集計】 介助者別・障害別

	(単位:%)	n	高齢者(両親・祖父母等)の介護	配偶者の介護	子ども(就学児・未就学児)の子育て	病気の方の介護	障害のある方の介護	その他	なし	無回答
全体		703	11.5	6.8	5.0	1.3	3.4	2.0	<b>63.3</b>	10.4
介助者別	父親	45	15.6	11.1	2.2	2.2	8.9	2.2	<b>60.0</b>	6.7
	母親	209	19.1	7.2	2.9	1.9	5.3	2.9	<b>60.3</b>	6.7
	配偶者	243	4.9	5.8	6.6	0.8	1.2	1.6	<b>67.1</b>	12.8
	子	138	7.2	8.7	6.5	1.4	2.9	0.7	<b>65.2</b>	11.6
	兄弟・姉妹	55	16.4	3.6	3.6	0.0	3.6	1.8	<b>60.0</b>	12.7
	祖父母	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>100.0</b>	0.0	0.0
	その他親族	12	25.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	<b>50.0</b>	16.7
	肢体不自由	148	7.4	6.1	5.4	1.4	2.7	2.0	<b>65.5</b>	12.8
障害別	音声・言語・そしゃく機能障害	43	16.3	4.7	2.3	7.0	2.3	2.3	<b>58.1</b>	7.0
	視覚障害	60	6.7	11.7	3.3	0.0	5.0	1.7	<b>63.3</b>	10.0
	聴覚・平衡機能障害	59	5.1	10.2	1.7	0.0	3.4	1.7	<b>67.8</b>	11.9
	内部障害	107	10.3	13.1	5.6	2.8	3.7	2.8	<b>54.2</b>	12.1
	知的障害	153	19.0	5.9	3.3	0.0	4.6	2.6	<b>60.8</b>	7.8
	発達障害	83	14.5	6.0	6.0	0.0	6.0	1.2	<b>62.7</b>	6.0
	精神障害	153	17.0	6.5	8.5	2.6	3.3	3.3	<b>57.5</b>	9.2
	高次脳機能障害	16	0.0	18.8	6.3	0.0	18.8	6.3	<b>50.0</b>	12.5
	難病(特定疾病)	135	8.9	8.9	5.9	1.5	2.2	0.7	<b>65.9</b>	8.9
	その他	11	9.1	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	<b>63.6</b>	9.1

介助者別にみると、“祖父母”を除くいずれの介助者も「なし」が5割以上で最も高くなっています。「なし」以外では、“配偶者”では「子ども(就学児・未就学児)の子育て」、「子」では「配偶者の介護」が最も高くなっており、それ以外の介助者では「高齢者(両親・祖父母等)の介護」が最も高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害も「なし」が5割以上で最も高くなっています。

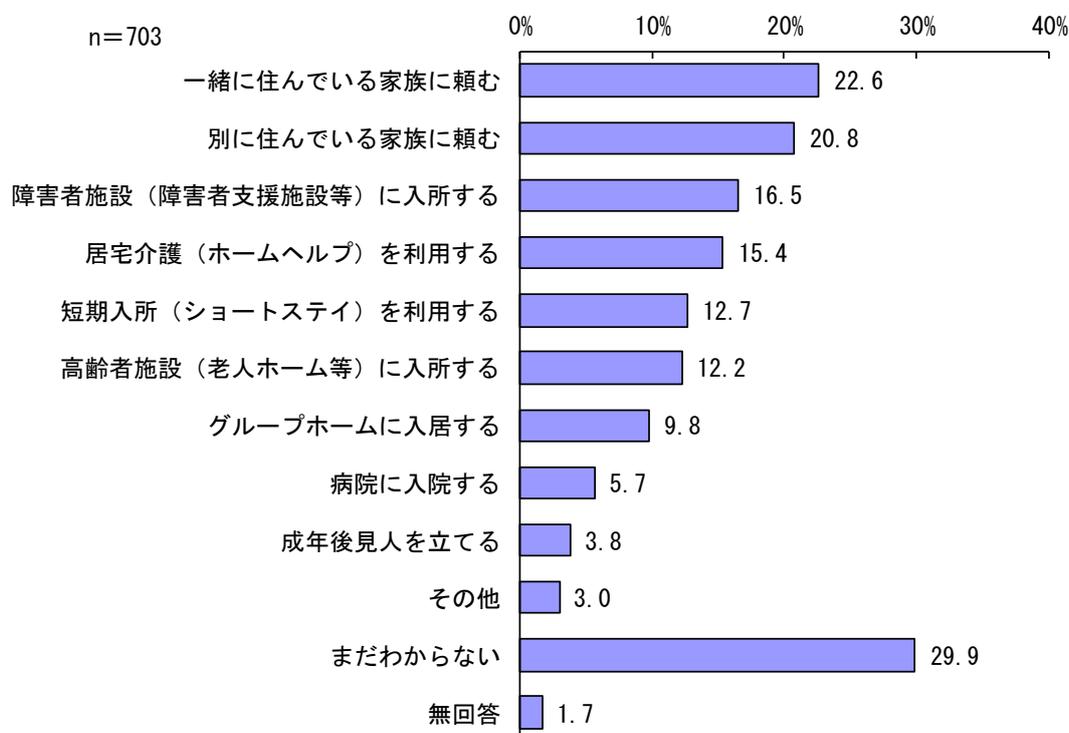
「なし」以外では、いずれの障害でも「高齢者(両親・祖父母等)の介護」か「配偶者の介護」が最も高くなっています

“高次脳機能障害”では「障害のある方の介護」が18.8%と他の障害に比べて高くなっています。

### (15) 主な介助者が支援できなくなったときの対応

問 15 で家族や親族と回答された方にお聞きします。

問 17 主な介助者があなたを介助・支援できなくなった場合はどうしますか。(〇は3つまで)



主な介助者が支援できなくなったときの対応は、「一緒に住んでいる家族に頼む」が22.6%と2割を超えて最も高く、次いで「別に住んでいる家族に頼む」が20.8%、「障害者施設（障害者支援施設等）に入所する」が16.5%と続いています。

一方、「まだわからない」が29.9%と3割を占めています。

【クロス集計】 介助者別・障害別

(単位: %)	n	一緒に住んでいる家族に頼む	別に住んでいる家族に頼む	居宅介護(ホームヘルプ)を利用する	短期入所(ショートステイ)を利用する	障害者施設(障害者支援施設等)に入所する	高齢者施設(老人ホーム等)に入所する
全体	703	22.6	20.8	15.4	12.7	16.5	12.2
介助者別							
父親	45	17.8	15.6	15.6	11.1	<b>28.9</b>	2.2
母親	209	<b>31.1</b>	18.2	10.0	17.2	26.8	1.4
配偶者	243	17.7	24.3	18.9	9.9	9.5	16.9
子	138	21.0	25.4	16.7	12.3	6.5	21.0
兄弟・姉妹	55	21.8	5.5	18.2	7.3	23.6	14.5
祖父母	1	0.0	<b>100.0</b>	0.0	0.0	0.0	0.0
その他親族	12	16.7	25.0	8.3	25.0	16.7	<b>33.3</b>
障害別							
肢体不自由	148	22.3	16.2	19.6	19.6	14.9	20.9
音声・言語・そしゃく機能障害	43	18.6	25.6	18.6	<b>34.9</b>	23.3	9.3
視覚障害	60	23.3	<b>31.7</b>	20.0	13.3	18.3	15.0
聴覚・平衡機能障害	59	20.3	<b>39.0</b>	16.9	15.3	8.5	20.3
内部障害	107	15.0	<b>28.0</b>	23.4	13.1	13.1	24.3
知的障害	153	32.0	12.4	7.8	26.8	<b>43.1</b>	5.2
発達障害	83	26.5	15.7	7.2	19.3	<b>31.3</b>	0.0
精神障害	153	18.3	19.0	9.2	3.9	15.7	3.9
高次脳機能障害	16	18.8	25.0	12.5	18.8	12.5	25.0
難病(特定疾病)	135	20.0	20.0	21.5	12.6	8.1	20.0
その他	11	27.3	18.2	18.2	0.0	9.1	9.1

(単位: %)	n	病院に入院する	グループホームに同居する	成年後見人を立てる	その他	まだわからない	無回答
全体	703	5.7	9.8	3.8	3.0	<b>29.9</b>	1.7
介助者別							
父親	45	0.0	17.8	11.1	2.2	<b>28.9</b>	4.4
母親	209	1.9	20.1	9.1	3.3	25.8	1.0
配偶者	243	6.6	1.6	0.4	2.5	<b>32.9</b>	1.6
子	138	9.4	3.6	0.0	3.6	<b>29.0</b>	1.4
兄弟・姉妹	55	9.1	18.2	1.8	1.8	<b>38.2</b>	3.6
祖父母	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他親族	12	16.7	0.0	8.3	8.3	16.7	0.0
障害別							
肢体不自由	148	4.7	5.4	0.7	0.7	<b>29.7</b>	1.4
音声・言語・そしゃく機能障害	43	4.7	11.6	0.0	2.3	20.9	0.0
視覚障害	60	3.3	6.7	3.3	1.7	25.0	3.3
聴覚・平衡機能障害	59	6.8	1.7	0.0	1.7	22.0	3.4
内部障害	107	13.1	3.7	0.0	1.9	26.2	0.9
知的障害	153	0.7	32.0	9.2	0.0	14.4	1.3
発達障害	83	0.0	24.1	10.8	3.6	26.5	1.2
精神障害	153	5.9	6.5	5.9	7.8	<b>43.8</b>	2.6
高次脳機能障害	16	6.3	0.0	0.0	12.5	<b>31.3</b>	0.0
難病(特定疾病)	135	9.6	1.5	0.0	3.0	<b>31.1</b>	1.5
その他	11	9.1	9.1	9.1	9.1	<b>36.4</b>	0.0

介助者別にみると、「父親」と「母親」では「障害者施設(障害者支援施設等)に入所する」が28.9%、「母親」では「一緒に住んでいる家族に頼む」が31.1%と3割前後で最も高くなっています。「その他親族」では「高齢者施設(老人ホーム等)に入所する」が最も高くなっています。

障害別にみると、「音声・言語・そしゃく機能障害」では「短期入所(ショートステイ)を利用する」が34.9%と最も高くなっています。

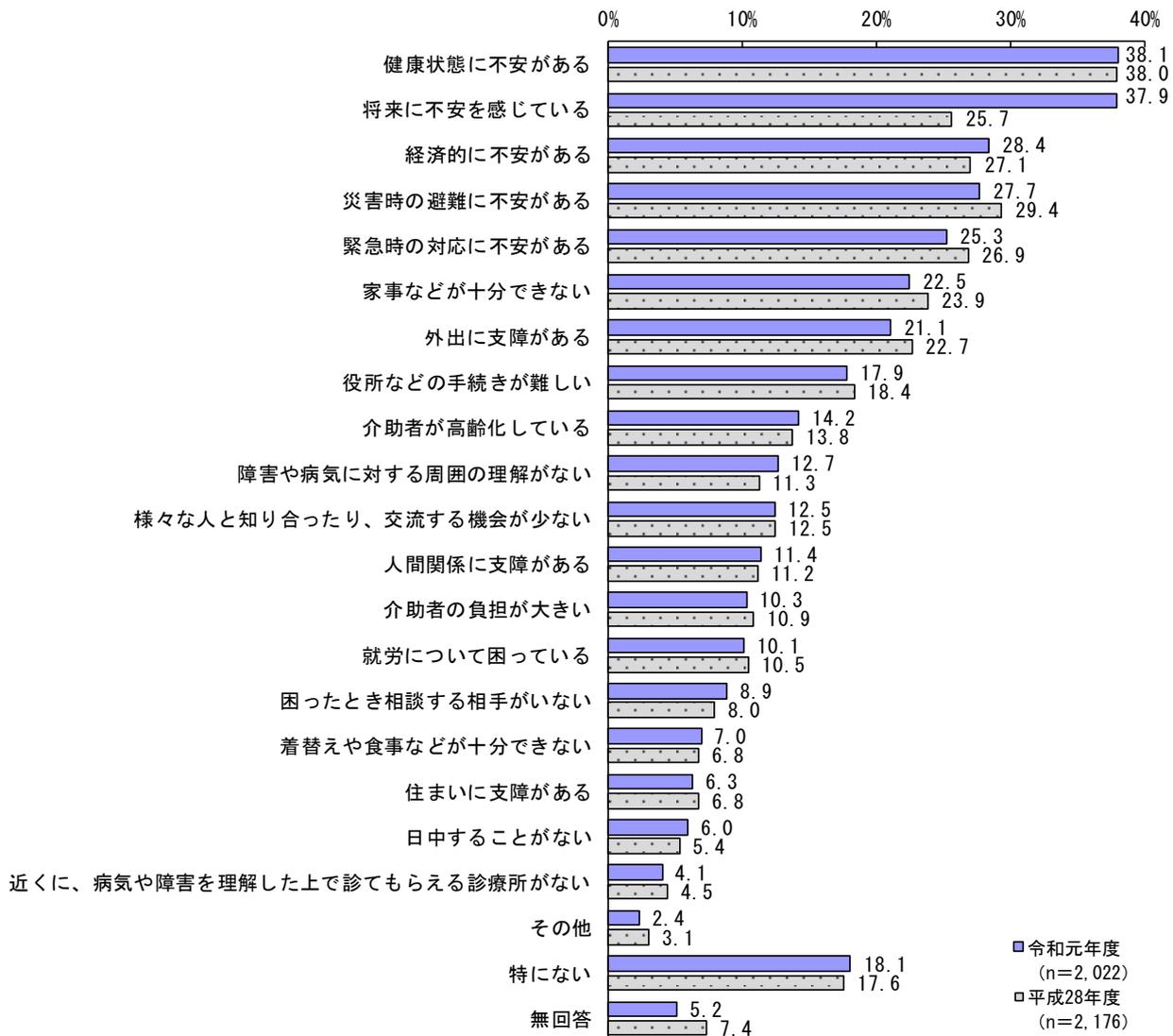
「視覚障害」、「聴覚・平衡機能障害」、「内部障害」では「別に住んでいる家族に頼む」が3割前後で最も高くなっています。

「知的障害」、「発達障害」では「障害者施設(障害者支援施設等)に入所する」が最も高くなっています。

### 3 相談や福祉の情報について

#### (1) 日常生活で困っていること

問 18 あなたには、日常生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)



日常生活で困っていることは、「健康状態に不安がある」が 38.1%、「将来に不安を感じている」が 37.9%と 4 割近くで高く、次いで「経済的に不安がある」が 28.4%、「災害時の避難に不安がある」が 27.7%と続いています。

平成 28 年度と比較すると、「健康状態に不安がある」がともにほぼ同じ割合で最も高くなっています。

「将来に不安を感じている」が平成 28 年度と比べると 12.2 ポイント大きく上がっています。

それ以外の項目では全体的な傾向はあまり変化ありません。

【クロス集計】年代別

(単位：%)		n	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分できない	家事などが十分できない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある
全体	2022		38.1	7.0	22.5	10.3	14.2	21.1
年代別	18歳以上～40歳未満	379	34.0	8.2	27.2	15.8	16.4	21.4
	40歳以上～65歳未満	743	43.3	5.2	20.6	6.1	12.1	15.6
	65歳以上～75歳未満	318	34.6	6.6	18.2	7.2	9.4	16.7
	75歳以上	527	36.1	8.9	24.1	13.9	18.4	31.3

(単位：%)		n	住まいに支障がある	就労について困っている	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない
全体	2022		6.3	10.1	25.3	27.7	11.4	12.7
年代別	18歳以上～40歳未満	379	5.3	18.5	34.8	31.9	23.5	21.6
	40歳以上～65歳未満	743	7.1	16.0	23.0	24.6	14.3	19.0
	65歳以上～75歳未満	318	5.7	1.9	17.0	22.6	5.3	4.1
	75歳以上	527	5.5	0.9	25.4	31.3	2.3	2.8

(単位：%)		n	困ったとき相談する相手がいない	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない
全体	2022		8.9	17.9	4.1	28.4	37.9	6.0
年代別	18歳以上～40歳未満	379	12.9	27.2	7.4	34.0	55.4	7.7
	40歳以上～65歳未満	743	10.9	16.7	3.1	36.6	44.7	5.4
	65歳以上～75歳未満	318	7.2	9.4	3.5	21.7	27.0	5.3
	75歳以上	527	4.2	17.6	2.8	15.7	22.0	6.3

(単位：%)		n	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特にない	無回答
全体	2022		12.5	2.4	18.1	5.2
年代別	18歳以上～40歳未満	379	18.7	2.9	14.8	2.1
	40歳以上～65歳未満	743	13.1	3.2	14.9	3.6
	65歳以上～75歳未満	318	8.5	1.9	25.5	5.3
	75歳以上	527	9.5	1.1	21.4	8.3

年代別にみると、“18歳以上～40歳未満”と“40歳以上～65歳未満”では「将来に不安を感じている」が最も高く、特に“18歳以上～40歳未満”の若年層では55.4%と5割半ばを超えています。

“65歳以上～75歳未満”と“75歳以上”では「健康状態に不安がある」が3割を超えて最も高くなっています。

【クロス集計】同居家族別

(単位：%)	n	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分できない	家事などが十分できない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある
全体	2022	38.1	7.0	22.5	10.3	14.2	21.1
同居家族別							
家族等と同居	1464	37.4	6.8	22.7	12.9	17.8	21.8
ひとり暮らし	466	40.3	6.7	21.5	2.6	4.7	18.7
グループホーム等での集団生活	52	36.5	21.2	38.5	7.7	15.4	28.8
その他	44	40.9	4.5	18.2	15.9	13.6	18.2

(単位：%)	n	住まいに支障がある	就労について困っている	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない
全体	2022	6.3	10.1	25.3	27.7	11.4	12.7
同居家族別							
家族等と同居	1464	4.8	10.1	25.5	28.2	11.2	11.5
ひとり暮らし	466	10.9	10.9	24.5	26.8	12.4	16.5
グループホーム等での集団生活	52	3.8	5.8	30.8	30.8	11.5	13.5
その他	44	4.5	9.1	22.7	22.7	9.1	13.6

(単位：%)	n	困ったとき相談する相手がいない	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない
全体	2022	8.9	17.9	4.1	28.4	37.9	6.0
同居家族別							
家族等と同居	1464	7.4	18.5	3.7	26.8	37.1	6.1
ひとり暮らし	466	14.2	14.6	4.9	34.5	41.6	5.6
グループホーム等での集団生活	52	5.8	34.6	9.6	21.2	32.7	3.8
その他	44	9.1	20.5	2.3	27.3	31.8	11.4

(単位：%)	n	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特になし	無回答
全体	2022	12.5	2.4	18.1	5.2
同居家族別					
家族等と同居	1464	12.8	2.3	18.9	4.7
ひとり暮らし	466	12.2	2.8	17.2	5.4
グループホーム等での集団生活	52	11.5	7.7	11.5	9.6
その他	44	13.6	0.0	15.9	4.5

同居家族別にみると、“家族等と同居”と“その他”では「健康状態に不安がある」が最も高くなっています。

“ひとり暮らし”では「将来に不安を感じている」が41.6%と4割を超えて最も高くなっています。

“グループホーム等での集団生活”では「家事などが十分できない」が38.5%と4割近くで最も高くなっています。

【クロス集計】障害別

(単位：%)	n	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分できない	家事などが十分できない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある
全体	2022	38.1	7.0	22.5	10.3	14.2	21.1
障害別							
肢体不自由	338	40.5	12.7	28.4	16.6	18.9	31.7
音声・言語・そしゃく機能障害	87	42.5	29.9	34.5	26.4	23.0	37.9
視覚障害	145	26.9	9.7	22.8	16.6	19.3	40.7
聴覚・平衡機能障害	158	34.2	6.3	19.0	10.8	10.1	24.1
内部障害	334	44.0	8.1	19.5	9.6	11.1	21.3
知的障害	235	25.5	15.3	39.6	20.9	30.6	32.3
発達障害	150	30.7	8.7	38.7	21.3	22.7	24.0
精神障害	425	49.4	9.2	30.8	11.1	17.9	18.8
高次脳機能障害	31	48.4	22.6	41.9	25.8	19.4	29.0
難病（特定疾病）	606	46.2	5.6	17.0	6.9	8.7	19.5
その他	24	37.5	8.3	16.7	20.8	12.5	33.3

(単位：%)	n	住まいに支障がある	就労について困っている	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない
全体	2022	6.3	10.1	25.3	27.7	11.4	12.7
障害別							
肢体不自由	338	9.5	4.7	28.1	38.5	3.6	5.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	10.3	9.2	43.7	46.0	11.5	10.3
視覚障害	145	4.1	6.2	37.9	43.4	6.9	13.1
聴覚・平衡機能障害	158	3.8	6.3	39.2	43.0	6.3	8.2
内部障害	334	6.9	5.7	22.8	25.7	4.5	9.9
知的障害	235	7.2	11.1	54.0	49.4	21.7	16.6
発達障害	150	9.3	26.7	43.3	38.0	38.7	28.7
精神障害	425	13.2	23.1	27.1	27.8	32.5	27.1
高次脳機能障害	31	12.9	9.7	29.0	32.3	16.1	22.6
難病（特定疾病）	606	2.5	7.4	16.2	20.1	2.5	9.7
その他	24	12.5	4.2	16.7	20.8	20.8	16.7

(単位：%)	n	困ったとき相談する相手がいない	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない
全体	2022	8.9	17.9	4.1	28.4	37.9	6.0
障害別							
肢体不自由	338	6.5	14.8	3.8	20.4	26.3	5.0
音声・言語・そしゃく機能障害	87	13.8	20.7	8.0	17.2	27.6	12.6
視覚障害	145	6.9	26.2	2.8	18.6	35.2	4.8
聴覚・平衡機能障害	158	6.3	22.8	3.2	13.9	28.5	7.6
内部障害	334	8.1	12.3	4.8	24.3	30.8	6.0
知的障害	235	14.0	42.6	8.9	26.0	42.6	9.8
発達障害	150	18.7	34.0	11.3	46.0	64.0	10.0
精神障害	425	16.7	22.6	4.7	52.7	58.8	9.6
高次脳機能障害	31	16.1	22.6	6.5	29.0	35.5	16.1
難病（特定疾病）	606	3.6	9.7	2.6	22.8	35.0	2.6
その他	24	8.3	16.7	12.5	41.7	41.7	8.3

(単位：%)	n	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特になし	無回答
全体	2022	12.5	2.4	18.1	5.2
障害別					
肢体不自由	338	8.0	2.4	15.4	7.7
音声・言語・そしゃく機能障害	87	23.0	1.1	9.2	5.7
視覚障害	145	11.0	4.8	13.8	6.2
聴覚・平衡機能障害	158	12.0	1.3	17.7	4.4
内部障害	334	9.6	1.2	21.6	5.7
知的障害	235	19.1	2.6	12.3	4.7
発達障害	150	26.7	2.7	6.0	2.7
精神障害	425	22.4	3.5	7.3	3.1
高次脳機能障害	31	25.8	6.5	12.9	6.5
難病（特定疾病）	606	5.3	1.5	24.8	2.8
その他	24	16.7	16.7	12.5	16.7

障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“視覚障害”、“聴覚・平衡機能障害”では「災害時の避難に不安がある」が最も高く、次いで「緊急時の対応に不安がある」が続いています。

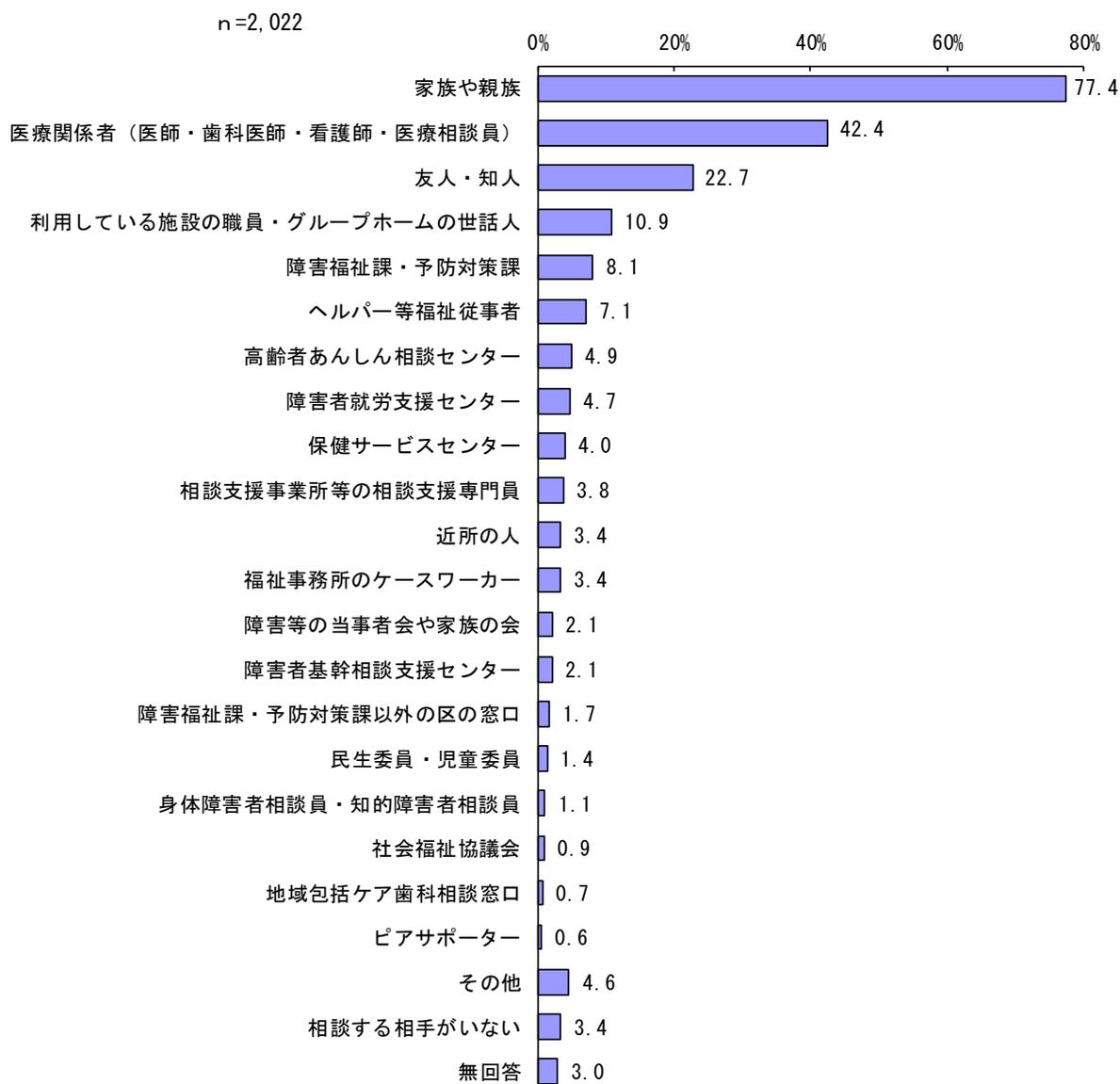
“知的障害”では「緊急時の対応に不安がある」が54.0%と5割を超えて最も高くなっています。また、「災害時の避難に不安がある」は49.4%と約5割で高くなっています。

“発達障害”と“精神障害”では「将来に不安を感じている」が最も高く、次いで「経済的に不安がある」が続いています。また、“その他”では「将来に不安を感じている」と「経済的に不安がある」が41.7%と同じ割合で最も高くなっています。

それ以外の障害では「健康状態に不安がある」が最も高くなっています。

## (2) 困ったときの相談相手

問 19 あなたが困ったときに相談する相手は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)



困ったときの相談相手は、「家族や親族」が77.4%と7割半ばを超えて突出して高く、次いで「医療関係者 (医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」が42.4%、「友人・知人」が22.7%、「利用している施設の職員・グループホームの世話人」が10.9%と続いており、それ以外の項目は1割を切っています。

一方、「相談する相手がない」は3.4%となっています。

【クロス集計】年代別

(単位:%)		n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会
全体		2022	77.4	3.4	22.7	0.6	1.4	2.1
年代別	18歳以上～40歳未満	379	85.2	2.9	26.4	0.5	1.3	4.0
	40歳以上～65歳未満	743	72.0	1.9	26.6	0.9	1.2	3.2
	65歳以上～75歳未満	318	74.2	5.0	25.8	0.0	1.3	0.9
	75歳以上	527	82.2	4.7	13.9	0.4	1.9	0.2

(単位:%)		n	身体障害者相談員・知的障害者相談員	ヘルパー等福祉従事者	利用している施設の職員・グループホームの世話人	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者(医師・歯科医師・看護師・医療相談員)	地域包括ケア歯科相談窓口
全体		2022	1.1	7.1	10.9	3.8	42.4	0.7
年代別	18歳以上～40歳未満	379	2.1	2.9	19.0	6.6	43.0	0.5
	40歳以上～65歳未満	743	1.3	4.7	10.5	4.0	46.0	0.0
	65歳以上～75歳未満	318	0.0	7.2	4.7	1.6	43.7	0.3
	75歳以上	527	0.9	13.3	9.9	2.3	38.0	1.9

(単位:%)		n	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター	福祉事務所のケースワーカー	障害者就労支援センター
全体		2022	8.1	1.7	4.0	2.1	3.4	4.7
年代別	18歳以上～40歳未満	379	10.8	2.4	4.2	4.2	1.3	11.6
	40歳以上～65歳未満	743	10.4	1.6	6.9	2.3	4.8	6.3
	65歳以上～75歳未満	318	5.7	1.3	2.2	0.6	3.8	0.0
	75歳以上	527	4.7	1.7	0.9	0.9	2.7	0.2

(単位:%)		n	社会福祉協議会	高齢者あんしん相談センター	その他	相談する相手がいない	無回答
全体		2022	0.9	4.9	4.6	3.4	3.0
年代別	18歳以上～40歳未満	379	0.3	0.0	6.6	2.1	1.8
	40歳以上～65歳未満	743	0.9	0.8	5.8	5.4	2.3
	65歳以上～75歳未満	318	1.6	8.5	2.5	3.1	3.5
	75歳以上	527	1.1	12.3	2.8	1.7	3.8

年代別にみると、いずれの年代も「家族や親族」が7割を超えて最も高く、次いで「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」、「友人・知人」が続いています。

【クロス集計】障害別

(単位：%)	n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会
全体	2022	77.4	3.4	22.7	0.6	1.4	2.1
障害別							
肢体不自由	338	79.9	4.1	22.8	0.3	1.8	2.1
音声・言語・そしゃく機能障害	87	81.6	5.7	29.9	0.0	1.1	4.6
視覚障害	145	76.6	6.9	25.5	1.4	3.4	4.8
聴覚・平衡機能障害	158	81.0	5.7	25.9	1.3	2.5	2.5
内部障害	334	76.6	3.0	18.9	0.6	1.8	0.0
知的障害	235	83.0	3.4	8.1	0.9	2.1	7.7
発達障害	150	80.0	2.7	17.3	2.0	1.3	3.3
精神障害	425	67.8	2.6	24.5	0.9	1.9	1.9
高次脳機能障害	31	83.9	9.7	19.4	3.2	3.2	6.5
難病（特定疾病）	606	82.2	2.1	29.0	0.5	0.3	2.0
その他	24	75.0	4.2	12.5	4.2	0.0	0.0

(単位：%)	n	身体障害者相談員・知的障害者相談員	ヘルパー等福祉従事者	利用している施設の職員・グループホームの世話人	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）	地域包括ケア歯科相談窓口
全体	2022	1.1	7.1	10.9	3.8	42.4	0.7
障害別							
肢体不自由	338	0.9	14.5	11.8	2.1	38.8	2.1
音声・言語・そしゃく機能障害	87	2.3	12.6	21.8	4.6	36.8	2.3
視覚障害	145	0.7	17.9	9.0	2.8	34.5	0.7
聴覚・平衡機能障害	158	1.3	7.6	8.2	3.2	29.1	0.6
内部障害	334	0.9	8.1	6.0	2.1	50.3	1.2
知的障害	235	5.5	7.2	43.0	10.2	29.4	1.3
発達障害	150	0.0	3.3	26.7	10.0	44.7	0.0
精神障害	425	1.6	6.1	13.9	7.5	54.8	0.0
高次脳機能障害	31	0.0	19.4	16.1	3.2	45.2	3.2
難病（特定疾病）	606	0.5	5.1	4.5	1.0	52.3	0.3
その他	24	0.0	12.5	16.7	4.2	45.8	0.0

(単位：%)	n	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター	福祉事務所のケースワーカー	障害者就労支援センター
全体	2022	8.1	1.7	4.0	2.1	3.4	4.7
障害別							
肢体不自由	338	6.5	3.0	1.5	1.5	3.3	0.9
音声・言語・そしゃく機能障害	87	12.6	2.3	3.4	1.1	3.4	1.1
視覚障害	145	11.7	2.1	0.7	2.8	4.1	3.4
聴覚・平衡機能障害	158	10.8	2.5	1.3	2.5	3.8	2.5
内部障害	334	6.3	1.5	1.8	0.6	2.4	1.2
知的障害	235	18.3	3.4	2.1	6.0	2.6	13.6
発達障害	150	16.7	2.0	6.7	7.3	3.3	18.0
精神障害	425	12.5	1.2	12.9	2.8	8.2	9.4
高次脳機能障害	31	16.1	0.0	3.2	0.0	9.7	6.5
難病（特定疾病）	606	4.0	1.2	3.1	0.3	1.3	0.8
その他	24	4.2	4.2	4.2	0.0	4.2	16.7

(単位：%)	n	社会福祉協議会	高齢者あんしん相談センター	その他	相談する相手がいない	無回答
全体	2022	0.9	4.9	4.6	3.4	3.0
障害別						
肢体不自由	338	0.6	9.2	3.0	3.3	3.8
音声・言語・そしゃく機能障害	87	1.1	10.3	3.4	3.4	1.1
視覚障害	145	4.1	5.5	4.8	2.8	4.1
聴覚・平衡機能障害	158	2.5	12.7	5.1	1.9	3.8
内部障害	334	0.6	7.8	2.1	4.5	2.7
知的障害	235	0.4	0.9	4.3	0.9	2.6
発達障害	150	1.3	1.3	7.3	4.0	2.0
精神障害	425	1.2	2.1	7.5	4.9	2.8
高次脳機能障害	31	6.5	6.5	3.2	3.2	3.2
難病（特定疾病）	606	0.0	5.0	4.0	3.1	1.7
その他	24	4.2	0.0	4.2	0.0	8.3

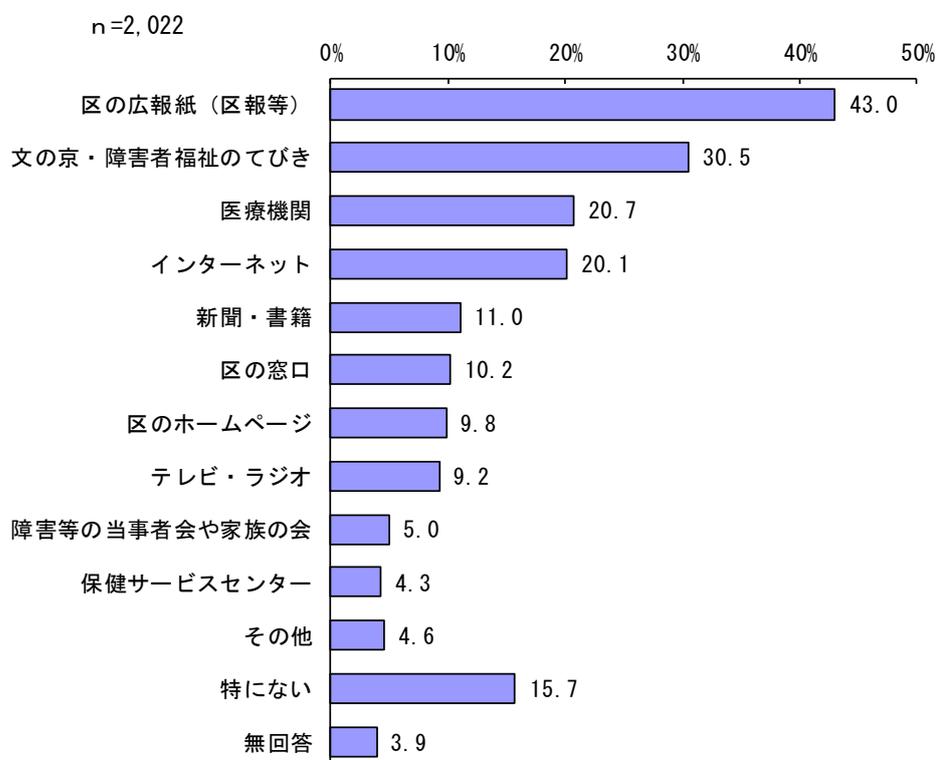
障害別にみると、いずれの障害も「家族や親族」が最も高くなっています。

“知的障害”では「利用している施設の職員・グループホームの世話人」が43.0%と4割を超えて高くなっています。一方、「友人・知人」や「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」は他の障害に比べ低くなっています。

“精神障害”では「家族や親族」が67.8%と他の障害に比べ低くなっていますが、「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」や「保健サービスセンター」では他の障害よりも高くなっています。

### (3) 福祉情報の入手先

問 20 あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)



福祉情報の入手先は、「区の広報紙 (区報等)」が 43.0%と 4 割を超えて最も高く、次いで「文の京・障害者福祉のてびき」が 30.5%、「医療機関」が 20.7%、「インターネット」が 20.1%と続いています。一方、「特にない」が 15.7%となっています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	区の広報紙(区報等)	区のホームページ	文の京・障害者福祉のてびき	区の窓口	保健サービスセンター	テレビ・ラジオ	インターネット
全体		2022	43.0	9.8	30.5	10.2	4.3	9.2	20.1
年代別	18歳以上～40歳未満	379	28.8	15.8	29.6	12.7	4.0	2.4	35.1
	40歳以上～65歳未満	743	40.8	12.8	27.5	10.5	6.1	7.7	26.0
	65歳以上～75歳未満	318	50.6	7.2	33.0	10.7	3.1	11.3	14.5
	75歳以上	527	51.8	3.0	33.2	7.4	2.8	15.2	4.0
	全体	2022	43.0	9.8	30.5	10.2	4.3	9.2	20.1
障害別	肢体不自由	338	50.0	6.8	45.3	9.2	2.7	11.8	13.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	42.5	3.4	46.0	16.1	3.4	9.2	9.2
	視覚障害	145	39.3	4.8	37.2	11.7	1.4	22.1	17.2
	聴覚・平衡機能障害	158	46.8	11.4	41.8	10.1	2.5	17.1	17.1
	内部障害	334	48.8	7.8	39.5	6.9	2.7	11.7	15.6
	知的障害	235	45.5	6.0	50.2	16.6	2.1	4.3	10.6
	発達障害	150	38.7	14.7	36.7	19.3	2.7	4.0	37.3
	精神障害	425	34.8	9.6	23.5	11.3	10.4	7.5	21.4
	高次脳機能障害	31	29.0	3.2	19.4	12.9	3.2	9.7	16.1
	難病(特定疾病)	606	42.9	13.4	12.7	10.4	4.8	8.9	29.0
	その他	24	45.8	4.2	33.3	8.3	4.2	8.3	4.2

(単位:%)		n	新聞・書籍	障害等の当事者会や家族の会	医療機関	その他	特にない	無回答
全体		2022	11.0	5.0	20.7	4.6	15.7	3.9
年代別	18歳以上～40歳未満	379	7.7	8.7	18.5	6.9	18.5	1.8
	40歳以上～65歳未満	743	7.7	6.3	23.7	4.3	14.8	3.6
	65歳以上～75歳未満	318	14.8	3.1	18.6	1.9	15.4	3.5
	75歳以上	527	16.1	1.9	19.9	5.3	15.2	5.7
	全体	2022	11.0	5.0	20.7	4.6	15.7	3.9
障害別	肢体不自由	338	12.1	3.8	17.8	4.4	14.2	3.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	9.2	9.2	14.9	11.5	17.2	2.3
	視覚障害	145	9.0	9.7	21.4	6.9	11.7	5.5
	聴覚・平衡機能障害	158	20.3	5.7	17.7	7.0	12.0	2.5
	内部障害	334	16.5	0.9	24.0	4.2	15.0	3.0
	知的障害	235	7.7	17.4	7.7	8.5	16.2	4.7
	発達障害	150	10.7	12.7	20.7	7.3	12.7	2.7
	精神障害	425	8.9	4.0	25.9	6.4	17.4	4.2
	高次脳機能障害	31	16.1	6.5	29.0	6.5	32.3	3.2
	難病(特定疾病)	606	9.7	2.6	28.2	3.5	15.8	2.8
	その他	24	4.2	12.5	16.7	4.2	20.8	16.7

年代別にみると、“18歳以上～40歳未満”では「インターネット」が35.1%と3割半ばで最も高くなっています。それ以外の年代ではいずれも「区の広報紙(区報等)」が最も高くなっています。

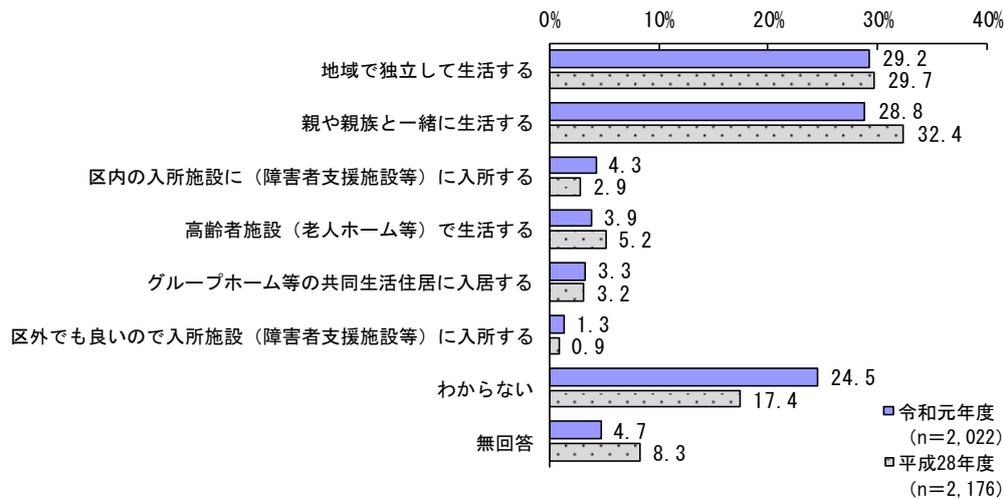
“65歳未満”と“65歳以上”では「区のホームページ」、「テレビ・ラジオ」、「新聞・書籍」といったメディアの違いで割合が分かれる傾向にあります。

障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”と“知的障害”では「文の京・障害者福祉のてびき」が最も高く、それ以外の障害では「区の広報紙(区報等)」が最も高くなっています。

“発達障害”では「インターネット」が37.3%と他の障害に比べ高くなっています。

#### (4) 今後希望する生活

問 21 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(〇はひとつ)



今後希望する生活は、「地域で独立して生活する」が29.2%、「親や親族と一緒に生活する」が28.8%と3割近くで高く、それ以外の項目は1割を切っています。

一方、「わからない」は24.5%と2割半ばを占めています。

平成28年度と比較すると、「親や親族と一緒に生活する」が3.6ポイント下がっており、「わからない」が7.1ポイント上がっています。

#### 【クロス集計】障害別

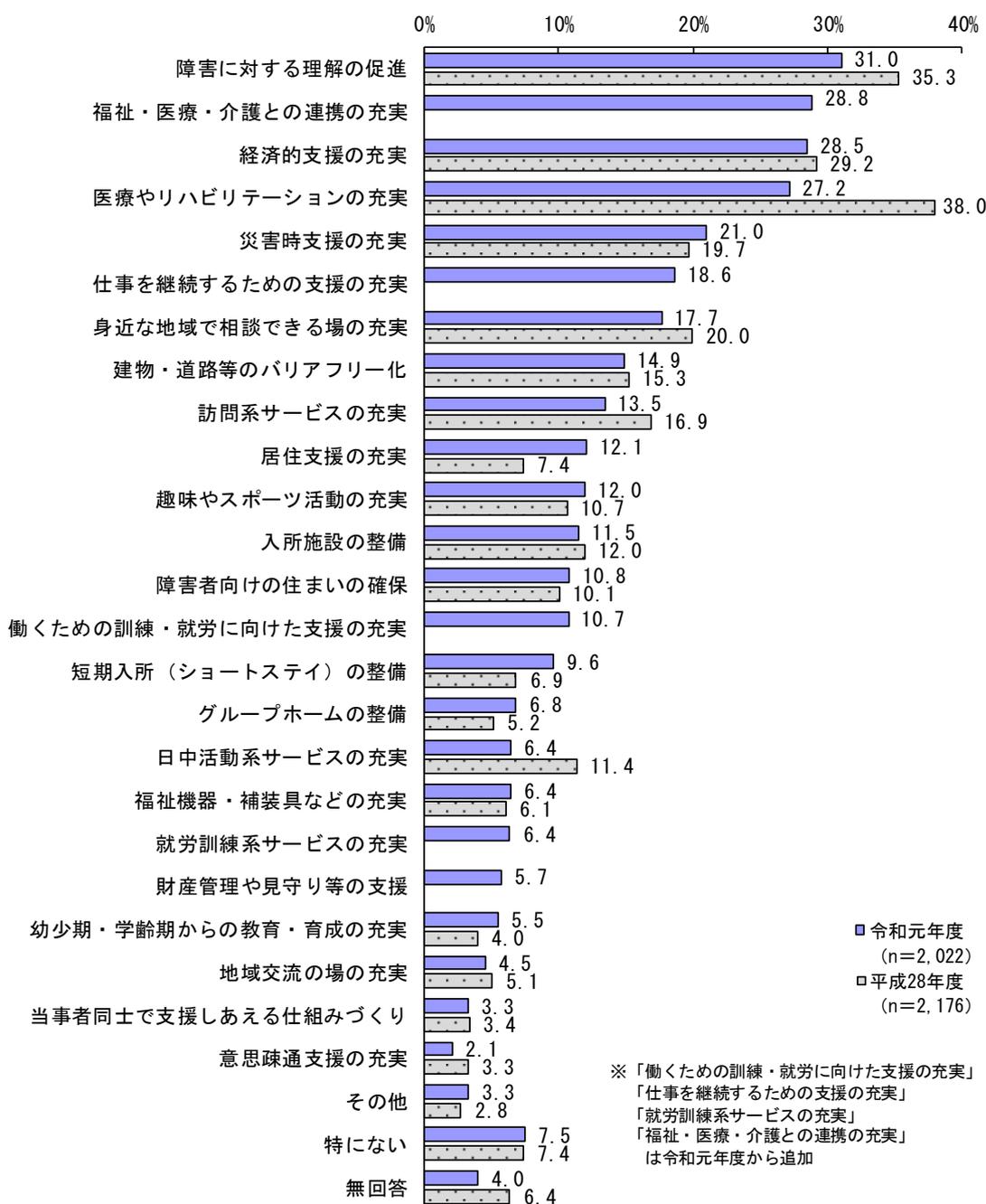
	n	地域で独立して生活する	親や親族と一緒に生活する	グループホーム等の共同生活住居に入居する	区内の入所施設に（障害者支援施設等）に入所する	区外でも良いので入所施設（障害者支援施設等）に入所する	高齢者施設（老人ホーム等）で生活する	わからない	無回答
(単位:%)									
全体	2022	29.2	28.8	3.3	4.3	1.3	3.9	24.5	4.7
障害別									
肢体不自由	338	22.5	28.7	3.6	6.5	1.8	7.4	25.1	4.4
音声・言語・そしゃく機能障害	87	18.4	37.9	5.7	5.7	1.1	6.9	19.5	4.6
視覚障害	145	30.3	31.7	2.8	3.4	3.4	3.4	20.0	4.8
聴覚・平衡機能障害	158	25.3	29.1	0.6	3.8	2.5	5.7	31.0	1.9
内部障害	334	29.0	28.1	0.6	5.1	1.2	6.0	26.0	3.9
知的障害	235	8.1	29.8	18.7	14.5	3.4	2.6	17.0	6.0
発達障害	150	29.3	27.3	6.7	8.0	2.7	0.0	22.7	3.3
精神障害	425	38.4	24.5	2.4	2.4	1.4	1.9	24.5	4.7
高次脳機能障害	31	35.5	32.3	0.0	0.0	0.0	6.5	19.4	6.5
難病（特定疾病）	606	32.3	33.2	0.8	2.6	0.5	4.0	22.4	4.1
その他	24	25.0	25.0	4.2	0.0	4.2	8.3	29.2	4.2

障害別にみると、いずれの障害も「地域で独立して生活する」か「親や親族と一緒に生活する」が最も高くなっています。

“知的障害”では「地域で独立して生活する」が8.1%と1割を切って他の障害よりも低く、「グループホーム等の共同生活住居に入居する」や「区内の入所施設に（障害者支援施設等）に入所する」は1割を超えて他の障害よりも高くなっています。

## (5) 地域で安心して暮らすために必要な施策

問 22 あなたが地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(〇は5つまで)



地域で安心して暮らすために必要な施策は、「障害に対する理解の促進」が31.0%と3割を超えて最も高く、次いで「福祉・医療・介護との連携の充実」が28.8%、「経済的支援の充実」が28.5%、「医療やリハビリテーションの充実」が27.2%と続いています。

平成28年度と比較すると、追加項目があったこともあり、「医療やリハビリテーションの充実」が10.8ポイント大きく下がっています。

【クロス集計】年代別

(単位：%)		n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービス（居宅介護・重度訪問介護・同行支援等）の充実
全体	2022		31.0	27.2	5.5	10.7	18.6	17.7	13.5
年代別	18歳以上～40歳未満	379	42.2	17.2	13.7	19.5	36.7	20.1	6.3
	40歳以上～65歳未満	743	38.4	23.0	4.4	16.4	27.5	20.2	8.5
	65歳以上～75歳未満	318	19.5	34.3	3.5	3.1	6.3	15.4	17.3
	75歳以上	527	20.9	36.4	2.8	0.9	1.3	13.9	23.0

(単位：%)		n	日中活動系サービス（生活介護・自立訓練等）の充実	就労訓練系サービス（就労移行支援・就労継続支援等）の充実	短期入所（ショートステイ）の整備	意思疎通支援（手話通訳者・要約筆記者派遣）の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備
全体	2022		6.4	6.4	9.6	2.1	6.4	6.8	11.5
年代別	18歳以上～40歳未満	379	10.6	13.5	12.1	1.3	3.4	16.4	14.2
	40歳以上～65歳未満	743	4.4	9.2	6.2	1.9	5.4	6.3	9.0
	65歳以上～75歳未満	318	6.3	1.3	8.8	1.9	9.1	2.8	11.9
	75歳以上	527	6.3	0.6	13.3	2.8	8.9	3.0	13.5

(単位：%)		n	障害者向けの住まいの確保	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援	経済的支援の充実
全体	2022		10.8	12.1	14.9	3.3	12.0	5.7	28.5
年代別	18歳以上～40歳未満	379	14.5	9.8	5.5	3.7	15.3	12.4	36.1
	40歳以上～65歳未満	743	12.7	13.1	14.0	4.3	10.9	5.2	36.3
	65歳以上～75歳未満	318	9.7	13.5	20.4	2.2	14.2	5.3	24.2
	75歳以上	527	6.3	11.4	19.4	2.3	10.1	2.1	14.8

(単位：%)		n	災害時支援の充実	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	その他	特になし	無回答
全体	2022		21.0	4.5	28.8	3.3	7.5	4.0
年代別	18歳以上～40歳未満	379	19.0	4.7	20.8	4.2	5.3	1.3
	40歳以上～65歳未満	743	18.3	3.8	24.1	4.6	6.7	3.2
	65歳以上～75歳未満	318	24.5	5.7	35.5	2.8	8.5	3.5
	75歳以上	527	23.1	4.7	37.6	1.3	9.1	6.5

年代別にみると、“18歳以上～40歳未満”と“40歳以上～65歳未満”では「障害に対する理解の促進」が最も高くなっています。

“65歳以上～75歳未満”と“75歳以上”では「福祉・医療・介護との連携の充実」と「医療やリハビリテーションの充実」が3割を超えて高くなっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実
全体	2022	31.0	27.2	5.5	10.7	18.6	17.7	13.5
障害別								
肢体不自由	338	24.6	47.0	3.0	2.7	6.2	11.8	21.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	39.1	34.5	3.4	9.2	4.6	19.5	16.1
視覚障害	145	35.9	24.8	6.2	7.6	16.6	13.8	30.3
聴覚・平衡機能障害	158	38.6	28.5	3.8	5.1	13.3	13.9	20.3
内部障害	334	22.8	30.5	3.6	3.3	9.0	13.5	17.7
知的障害	235	37.0	12.8	6.4	14.9	24.3	17.4	8.9
発達障害	150	50.0	10.7	10.0	23.3	33.3	26.0	4.7
精神障害	425	44.0	16.7	6.4	22.4	26.6	27.8	7.8
高次脳機能障害	31	41.9	45.2	0.0	12.9	12.9	19.4	19.4
難病(特定疾病)	606	23.6	35.3	5.9	7.8	21.8	15.8	14.7
その他	24	12.5	16.7	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5

(単位:%)	n	日中活動系サービス(生活介護・自立訓練等)の充実	就労訓練系サービス(就労移行支援・就労継続支援等)の充実	短期入所(ショートステイ)の整備	意思疎通支援(手話通訳者・要約筆記者派遣)の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備
全体	2022	6.4	6.4	9.6	2.1	6.4	6.8	11.5
障害別								
肢体不自由	338	6.8	1.5	12.1	0.9	13.3	4.1	12.7
音声・言語・そしゃく機能障害	87	6.9	1.1	18.4	5.7	8.0	12.6	19.5
視覚障害	145	7.6	4.8	11.0	2.8	18.6	2.8	9.7
聴覚・平衡機能障害	158	5.7	3.2	12.7	19.0	20.9	5.1	8.9
内部障害	334	4.8	1.2	10.8	0.3	6.0	2.7	15.0
知的障害	235	20.0	11.9	25.5	1.3	2.1	33.2	29.4
発達障害	150	13.3	20.7	20.0	0.7	0.0	19.3	17.3
精神障害	425	4.9	14.1	5.2	0.5	0.9	5.4	5.4
高次脳機能障害	31	12.9	3.2	9.7	3.2	12.9	6.5	19.4
難病(特定疾病)	606	4.6	2.8	8.7	0.5	5.9	2.5	11.7
その他	24	16.7	4.2	12.5	0.0	8.3	4.2	16.7

(単位:%)	n	障害者向けの住まいの確保	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援	経済的支援の充実
全体	2022	10.8	12.1	14.9	3.3	12.0	5.7	28.5
障害別								
肢体不自由	338	10.1	13.6	27.2	0.9	7.7	3.6	20.4
音声・言語・そしゃく機能障害	87	16.1	14.9	16.1	5.7	16.1	8.0	14.9
視覚障害	145	13.8	14.5	26.9	2.1	9.7	2.8	17.2
聴覚・平衡機能障害	158	10.1	13.9	8.2	3.8	10.8	1.9	17.1
内部障害	334	9.6	13.8	18.3	2.4	10.5	2.7	23.4
知的障害	235	17.4	10.2	8.1	2.1	16.6	19.1	20.0
発達障害	150	20.0	10.7	2.0	5.3	14.0	18.0	37.3
精神障害	425	16.5	14.6	4.9	4.2	14.8	6.8	42.4
高次脳機能障害	31	22.6	25.8	19.4	3.2	6.5	9.7	29.0
難病(特定疾病)	606	5.1	11.9	19.1	3.6	9.4	3.0	33.8
その他	24	8.3	16.7	8.3	0.0	12.5	12.5	29.2

		災害時支 援の充実	地域交流 の場の充 実	福祉・医療・ 介護との連携 の充実	その他	特にない	無回答
(単位:%)	n						
全体	2022	21.0	4.5	28.8	3.3	7.5	4.0
障害別							
肢体不自由	338	25.1	3.8	33.4	5.9	6.5	4.7
音声・言語・そしゃく機能障害	87	17.2	6.9	25.3	3.4	5.7	3.4
視覚障害	145	26.9	4.1	24.1	4.8	4.8	4.8
聴覚・平衡機能障害	158	31.0	3.8	32.3	1.9	5.7	2.5
内部障害	334	23.1	5.7	<b>32.3</b>	1.8	9.3	3.6
知的障害	235	20.4	3.8	25.5	3.4	4.7	3.4
発達障害	150	15.3	5.3	18.7	3.3	4.7	0.7
精神障害	425	17.4	4.7	20.7	4.7	4.2	4.2
高次脳機能障害	31	9.7	9.7	25.8	0.0	0.0	3.2
難病（特定疾病）	606	21.8	5.0	<b>36.1</b>	3.1	8.3	2.8
その他	24	12.5	0.0	<b>41.7</b>	8.3	12.5	8.3

障害別にみると、“肢体不自由”と“高次脳機能障害”では「医療やリハビリテーションの充実」が4割を超えて最も高くなっています。

“内部障害”、“難病（特定疾病）”、“その他”では「福祉・医療・介護との連携の充実」が最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「障害に対する理解の促進」が最も高くなっており、特に“発達障害”では50.0%と5割に達しています。

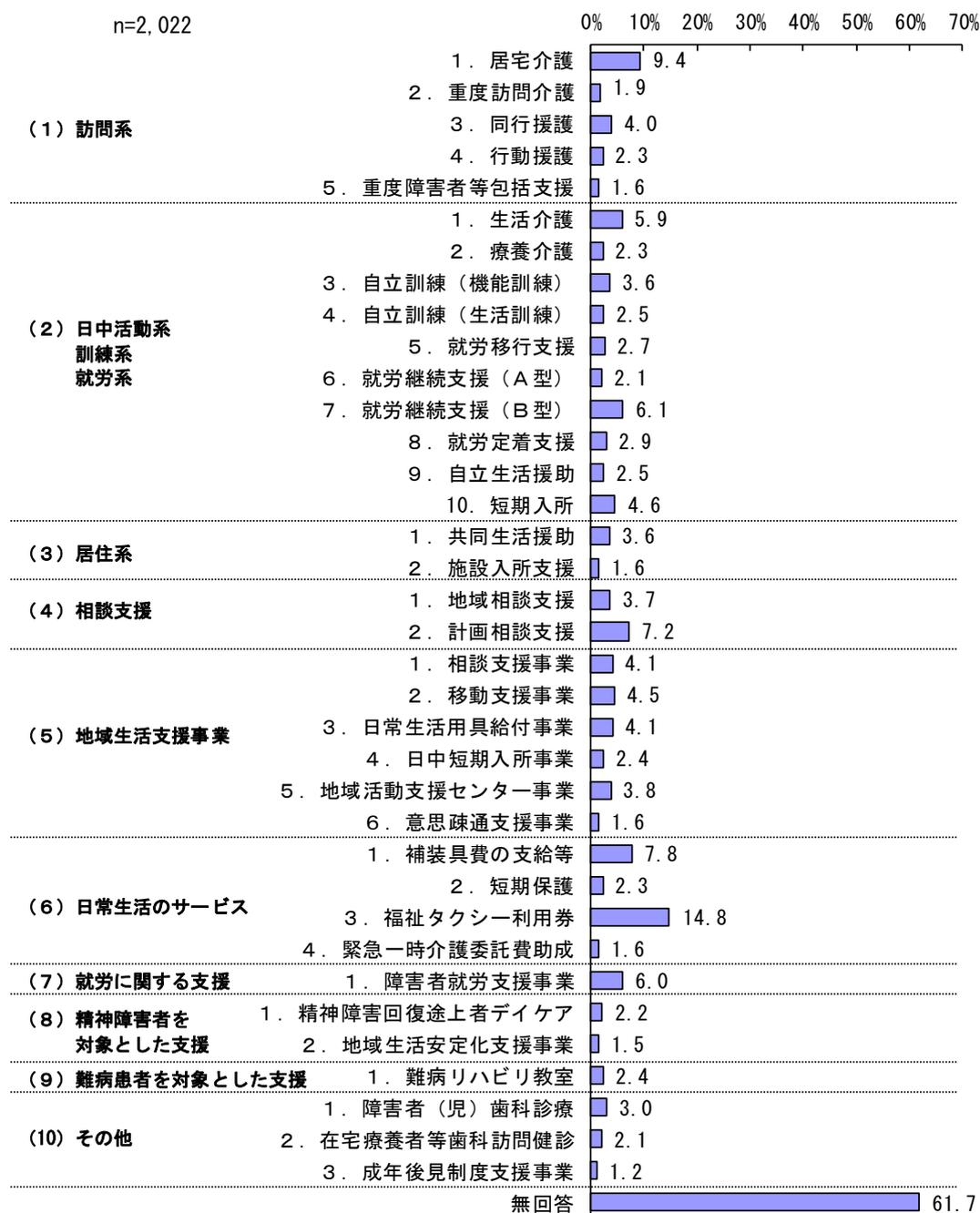
“発達障害”と“精神障害”では、「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」や「仕事を継続するための支援の充実」といった、就労に関する施策が他の障害に比べ高くなっています。

## 4 福祉サービスについて

### (1) 現在利用しているサービス

問 23 障害福祉のサービス等の利用状況と満足度についてお聞きします。

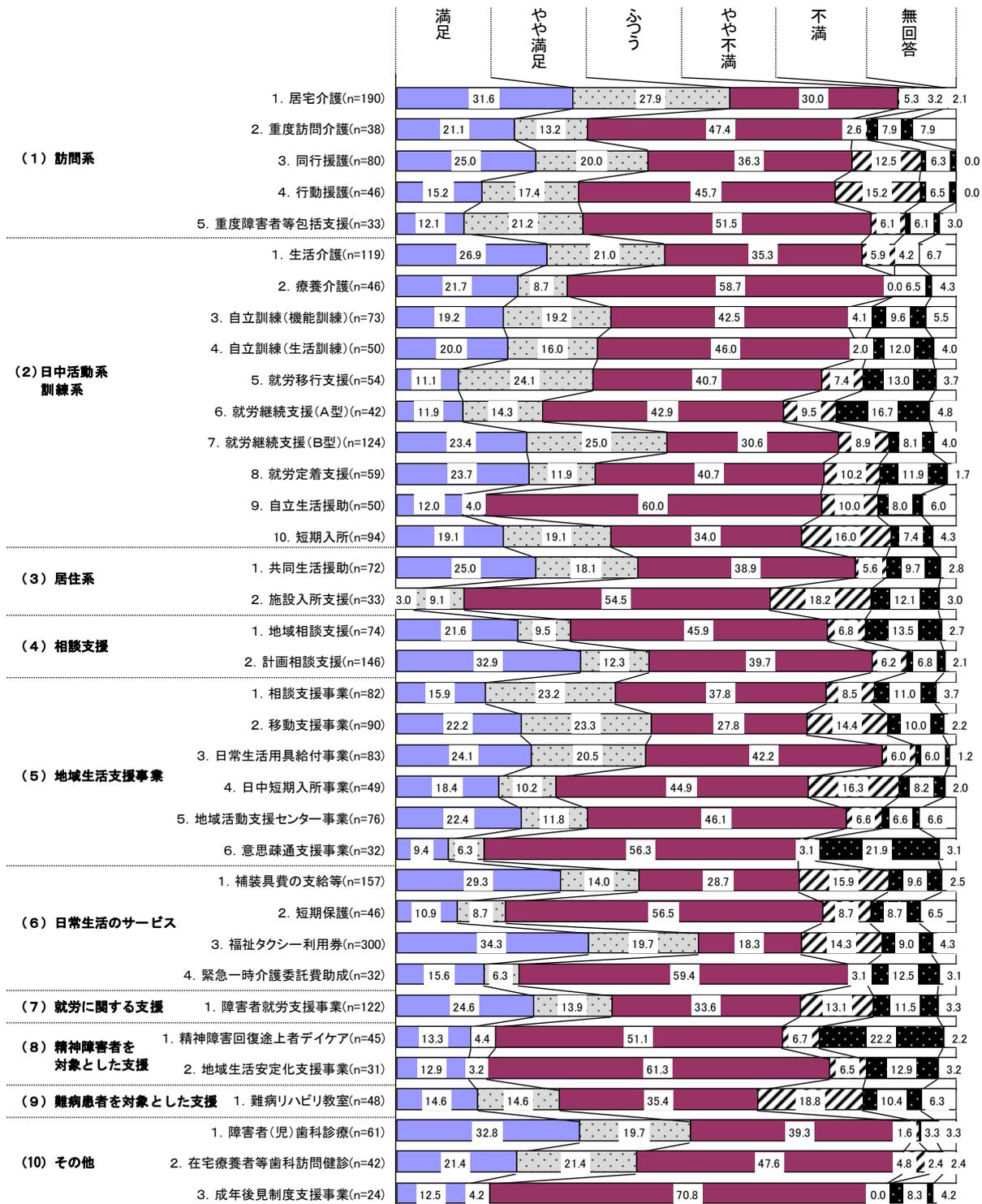
A. 現在利用しているサービスに○をつけてください。



現在利用している障害福祉サービスは、「福祉タクシー利用券」が14.8%と最も高く、次いで「居宅介護」が9.4%、「補装具費等の支給等」が7.8%、「計画相談支援」が7.2%と続いています。

## (2) サービスの満足度

B. 現在利用しているサービスに満足していますか。(〇はひとつ)



利用している障害福祉サービスの「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は、「居宅介護」、「福祉タクシー利用券」、「障害者（児）歯科診療」が5割を超えて高くなっています。

「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は、「施設入所支援」が30.3%と最も高く、「精神障害回復途上者デイケア」と「難病リハビリ教室」も3割近くを占めています。

### (3) サービスの『不満』の理由

B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ方

C. サービスに不満の理由を下の欄からお選びください。(○はいくつでも)

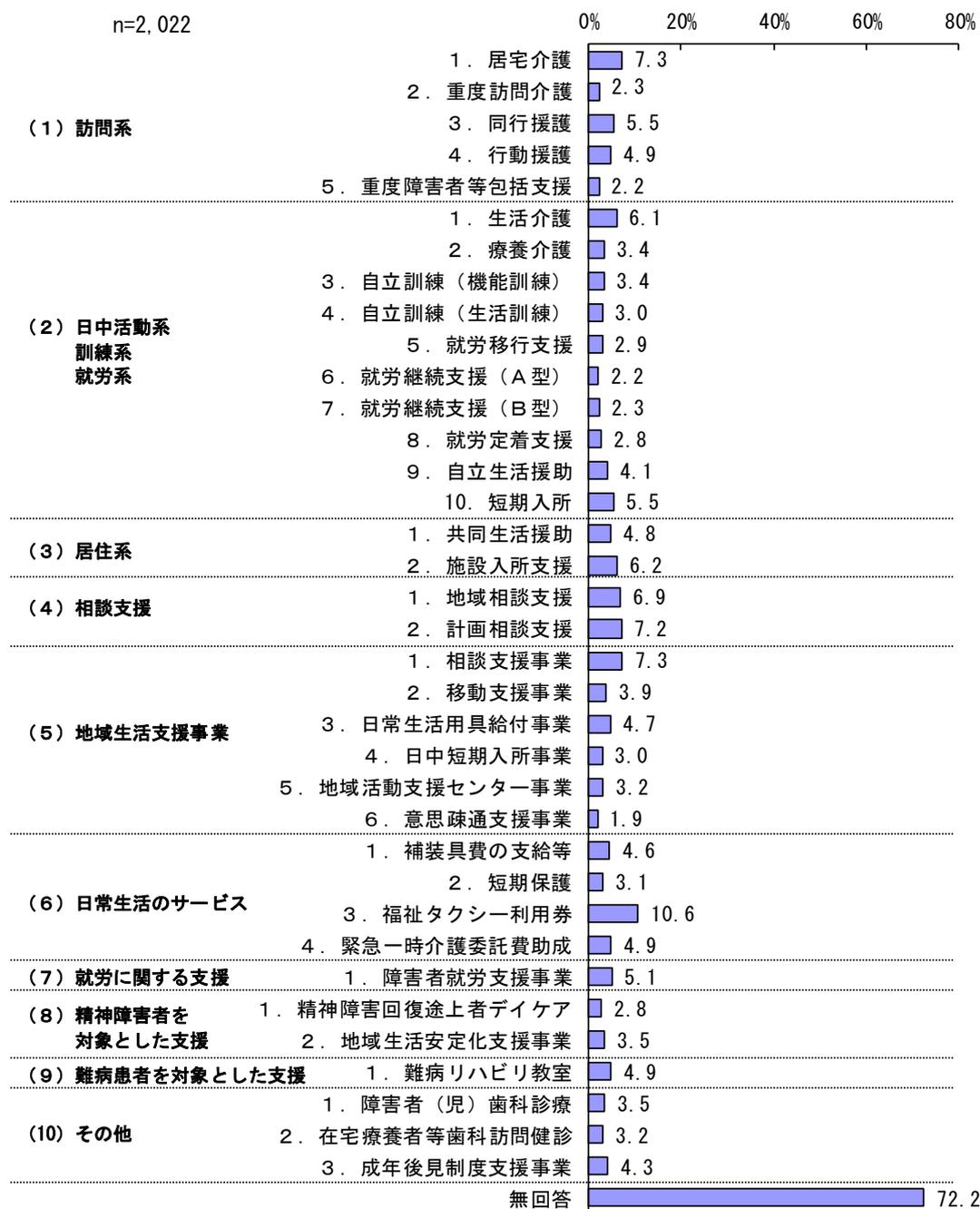
	n	少 利用 でき る回 数や 日数 等が	利 用料 が高 い	少 ない	サ ービ ス提 供事 業所 が	利 用日 時が 合わ ない	サ ービ ス内 容(質) に 不 安を 感じ る	サ ービ ス提 供事 業所 の 対 応が 良く ない	事 業所 と家 族の 連携 が 取 れ て い ない	医 療的 ケア の 対 応が 十 分 で ない	そ の 他	無 回 答
(単位:%)	n											
居宅介護	16	50.0	18.8	18.8	12.5	43.8	12.5	0.0	25.0	18.8	12.5	
重度訪問介護	4	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	
同行援護	15	33.3	6.7	40.0	26.7	20.0	0.0	0.0	6.7	13.3	13.3	
行動援護	10	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	10.0	10.0	20.0	20.0	
重度障害者等包括支援 生活介護	4	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	
療養介護	12	25.0	25.0	8.3	16.7	41.7	8.3	0.0	25.0	8.3	25.0	
療養介護	3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	
自立訓練(機能訓練)	10	30.0	30.0	20.0	10.0	30.0	0.0	0.0	20.0	10.0	20.0	
自立訓練(生活訓練)	7	28.6	28.6	0.0	14.3	42.9	14.3	14.3	14.3	0.0	28.6	
就労移行支援	11	18.2	9.1	9.1	27.3	54.5	27.3	9.1	27.3	18.2	27.3	
就労継続支援(A型)	11	18.2	18.2	27.3	27.3	36.4	18.2	9.1	18.2	27.3	18.2	
就労継続支援(B型)	21	9.5	4.8	19.0	9.5	47.6	23.8	9.5	14.3	33.3	19.0	
就労定着支援	13	7.7	7.7	23.1	15.4	53.8	15.4	7.7	15.4	23.1	23.1	
自立生活援助	9	22.2	22.2	0.0	33.3	33.3	11.1	11.1	33.3	22.2	33.3	
短期入所	22	45.5	9.1	31.8	31.8	40.9	4.5	0.0	13.6	4.5	18.2	
共同生活援助	11	9.1	9.1	9.1	18.2	18.2	9.1	0.0	9.1	18.2	45.5	
施設入所支援	10	10.0	30.0	10.0	20.0	20.0	0.0	0.0	30.0	0.0	30.0	
地域相談支援	15	13.3	13.3	20.0	40.0	53.3	40.0	13.3	26.7	6.7	13.3	
計画相談支援	19	10.5	10.5	15.8	15.8	36.8	15.8	15.8	21.1	21.1	26.3	
相談支援事業	16	18.8	12.5	12.5	31.3	50.0	31.3	12.5	18.8	18.8	12.5	
移動支援事業	22	22.7	4.5	40.9	27.3	13.6	4.5	4.5	9.1	18.2	13.6	
日常生活用具給付事業	10	30.0	20.0	0.0	10.0	40.0	10.0	0.0	10.0	0.0	30.0	
日中短期入所事業	12	41.7	8.3	8.3	25.0	25.0	0.0	0.0	8.3	25.0	16.7	
地域活動支援センター事業	76	3.9	2.6	2.6	6.6	9.2	6.6	2.6	2.6	2.6	82.9	
意思疎通支援事業	32	6.3	3.1	3.1	3.1	9.4	0.0	0.0	3.1	3.1	78.1	
補装具費の支給等	40	27.5	27.5	12.5	5.0	20.0	5.0	2.5	7.5	22.5	17.5	
短期保護	8	50.0	12.5	50.0	62.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	
福祉タクシー利用券	70	34.3	8.6	2.9	5.7	10.0	2.9	1.4	1.4	22.9	32.9	
緊急一時介護委託費助成	5	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	60.0	
障害者就労支援事業	30	23.3	3.3	16.7	20.0	46.7	23.3	6.7	13.3	23.3	16.7	
精神障害回復途上者デイケア	13	30.8	23.1	38.5	23.1	53.8	23.1	0.0	7.7	0.0	15.4	
地域生活安定化支援事業	6	16.7	16.7	33.3	16.7	50.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	
難病リハビリ教室	14	57.1	7.1	7.1	35.7	28.6	7.1	7.1	14.3	21.4	21.4	
障害者(児)歯科診療	3	33.3	66.7	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	
在宅療養者等歯科訪問健診	3	33.3	100.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
成年後見制度支援事業	2	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	

利用している障害福祉サービス等の『不満』の理由を、『不満』と答えた回答者が10人を超えたサービスでみると、「居宅介護」、「難病リハビリ教室」では「利用できる回数や日数等が少ない」が5割を超えて高くなっています。

「就労移行支援」、「就労定着支援」、「地域相談支援」、「相談支援事業」、「精神障害回復途上者デイケア」では「サービス内容(質)に不安を感じる」が5割を超えて高くなっています。

#### (4) 今後利用したいサービス

D. 現在は利用していないが、今後利用したいサービスに○をつけてください。

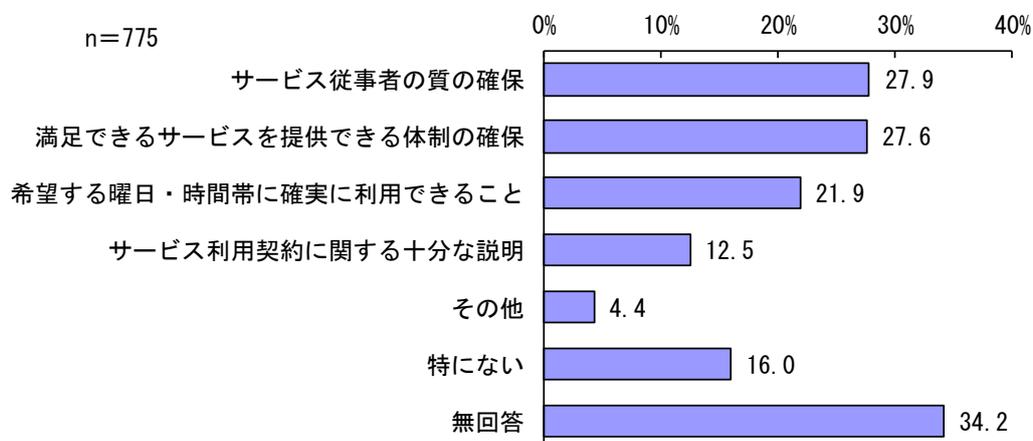


今後利用したい障害福祉サービス等は、「福祉タクシー利用券」が10.6%と最も高く、次いで「居宅介護」と「相談支援事業」が7.3%、「計画相談支援」が7.2%、「地域相談支援」が6.9%と続いています。

## (5) サービス提供事業者に望むこと

問 23 にあるいずれかの障害福祉サービスで「A 現在利用している」に○をつけた方にお聞きします。

問 24 サービス提供事業者に望むことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



現在障害福祉サービスを利用している方がサービス提供事業者に望むことは、「サービス従事者の質の確保」が 27.9%、「満足できるサービスを提供できる体制の確保」が 27.6%と 2 割半ばを超えて高く、次いで「希望する曜日・時間帯に確実に利用できること」が 21.9%、「サービス利用契約に関する十分な説明」が 12.5%と続いています。

一方、「特にない」が 16.0%と 1 割半ば近くを占めています。

【クロス集計】障害福祉サービス等別

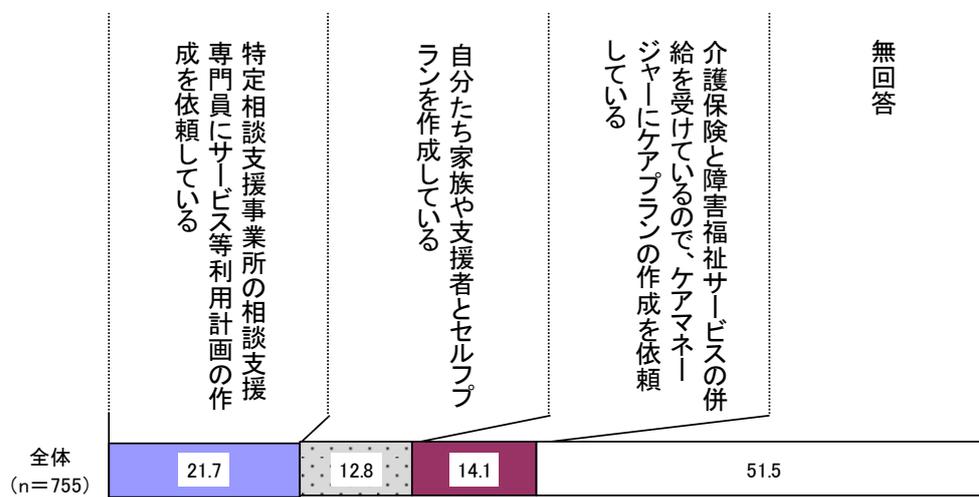
(単位:%)	n	サービス利用契約に関する十分な説明	希望する曜日・時間帯に確実に利用できること	サービス従事者（ホームヘルパー、施設職員など）の質の確保	満足できるサービスを提供できる体制の確保	その他	特になし	無回答
全体	775	12.5	21.9	27.9	27.6	4.4	16.0	34.2
障害福祉サービス等別								
住宅介護	190	10.5	26.3	36.8	26.3	2.1	17.9	28.9
重度訪問介護	38	21.1	15.8	31.6	34.2	7.9	10.5	28.9
同行援護	80	13.8	41.3	35.0	41.3	2.5	11.3	23.8
行動援護	46	10.9	32.6	34.8	37.0	6.5	10.9	28.3
重度障害者等包括支援	33	21.2	24.2	21.2	24.2	12.1	12.1	33.3
生活介護	119	15.1	31.1	41.2	31.9	4.2	12.6	23.5
療養介護	46	21.7	23.9	19.6	19.6	6.5	15.2	41.3
自立訓練（機能訓練）	73	19.2	27.4	35.6	24.7	5.5	11.0	38.4
自立訓練（生活訓練）	50	20.0	28.0	36.0	24.0	8.0	8.0	38.0
就労移行支援	54	24.1	18.5	20.4	31.5	16.7	9.3	29.6
就労継続支援（A型）	42	19.0	16.7	14.3	26.2	11.9	19.0	40.5
就労継続支援（B型）	124	14.5	25.8	34.7	35.5	6.5	18.5	25.8
就労定着支援	59	20.3	23.7	23.7	37.3	11.9	16.9	27.1
自立生活援助	50	20.0	24.0	30.0	26.0	8.0	14.0	34.0
短期入所	94	18.1	43.6	46.8	41.5	4.3	8.5	23.4
共同生活援助	72	12.5	18.1	29.2	31.9	5.6	20.8	26.4
施設入所支援	33	21.2	12.1	18.2	18.2	3.0	18.2	48.5
地域相談支援	74	21.6	25.7	33.8	39.2	4.1	12.2	28.4
計画相談支援	146	21.2	31.5	43.2	40.4	4.1	14.4	19.2
相談支援事業	82	17.1	29.3	29.3	32.9	7.3	23.2	20.7
移動支援事業	90	17.8	52.2	50.0	41.1	4.4	8.9	15.6
日常生活用具給付事業	83	16.9	32.5	33.7	32.5	4.8	16.9	20.5
日中短期入所事業	49	22.4	34.7	40.8	36.7	6.1	16.3	24.5
地域活動支援センター事業	76	18.4	15.8	30.3	27.6	5.3	19.7	28.9
意思疎通支援事業	32	25.0	21.9	21.9	18.8	6.3	18.8	31.3
補装具費の支給等	157	14.0	23.6	26.1	26.8	2.5	15.3	38.2
短期保護	46	23.9	43.5	43.5	39.1	6.5	8.7	23.9
福祉タクシー利用券	300	14.0	25.0	28.7	26.3	3.7	13.7	37.7
緊急一時介護委託費助成	32	18.8	25.0	28.1	34.4	9.4	15.6	28.1
障害者就労支援事業	122	20.5	20.5	23.0	33.6	8.2	16.4	27.0
精神障害回復途上者デイケア	45	20.0	13.3	22.2	35.6	4.4	17.8	28.9
地域生活安定化支援事業	31	29.0	12.9	9.7	16.1	3.2	25.8	35.5
難病リハビリ教室	48	18.8	25.0	14.6	22.9	6.3	10.4	50.0
障害者（児）歯科診療	61	16.4	26.2	36.1	24.6	4.9	18.0	29.5
在宅療養者等歯科訪問健診	42	16.7	16.7	26.2	23.8	4.8	19.0	35.7
成年後見制度支援事業	24	20.8	12.5	16.7	20.8	4.2	20.8	41.7

利用している障害福祉サービス等別にみると、多くのサービス利用者で「サービス従事者（ホームヘルパー、施設職員など）の質の確保」、「満足できるサービスを提供できる体制の確保」、「希望する曜日・時間帯に確実に利用できること」が高くなっていますが、「施設入所支援」、「意思疎通支援」、「地域生活安定化支援事業」、「成年後見制度支援事業」では「サービス利用契約に関する十分な説明」が最も高くなっています。

## (6) サービス等利用計画の作成手段

問 23 にあるいずれかの障害福祉サービスで「A 現在利用している」に○をつけた方にお聞きします。

問 25 どのようにサービス等利用計画を作成しましたか。(○はひとつ)



サービス等利用計画の作成手段は、「特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している」が 21.7%と 2 割を超えて最も高く、次いで「介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している」が 14.1%と、「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」が 12.8%と続いています。

【クロス集計】障害福祉サービス等別

		特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している	自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している	介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している	無回答
(単位：%)	n				
全体	775	21.7	12.8	14.1	51.5
障害福祉サービス等別					
居宅介護	190	20.0	13.7	28.9	37.4
重度訪問介護	38	7.9	21.1	23.7	47.4
同行援護	80	20.0	26.3	12.5	41.3
行動援護	46	21.7	21.7	21.7	34.8
重度障害者等包括支援	33	6.1	30.3	15.2	48.5
生活介護	119	36.1	12.6	25.2	26.1
療養介護	46	13.0	15.2	26.1	45.7
自立訓練（機能訓練）	73	11.0	16.4	28.8	43.8
自立訓練（生活訓練）	50	20.0	22.0	16.0	42.0
就労移行支援	54	29.6	16.7	7.4	46.3
就労継続支援（A型）	42	16.7	14.3	9.5	59.5
就労継続支援（B型）	124	44.4	17.7	3.2	34.7
就労定着支援	59	30.5	22.0	6.8	40.7
自立生活援助	50	20.0	16.0	16.0	48.0
短期入所	94	40.4	18.1	13.8	27.7
共同生活援助	72	43.1	15.3	11.1	30.6
施設入所支援	33	21.2	24.2	9.1	45.5
相談支援事業	82	36.6	15.9	13.4	34.1
移動支援事業	90	52.2	18.9	6.7	22.2
日常生活用具給付事業	83	13.3	18.1	30.1	38.6
日中短期入所事業	49	34.7	18.4	16.3	30.6
地域活動支援センター事業	76	23.7	15.8	13.2	47.4
意思疎通支援事業	32	9.4	28.1	6.3	56.3

利用している障害福祉サービス等別にみると、「同行援護」、「重度障害者等包括支援」、「自立訓練（生活訓練）」、「施設入所支援」、「意思疎通支援事業」では「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」が最も高くなっています。

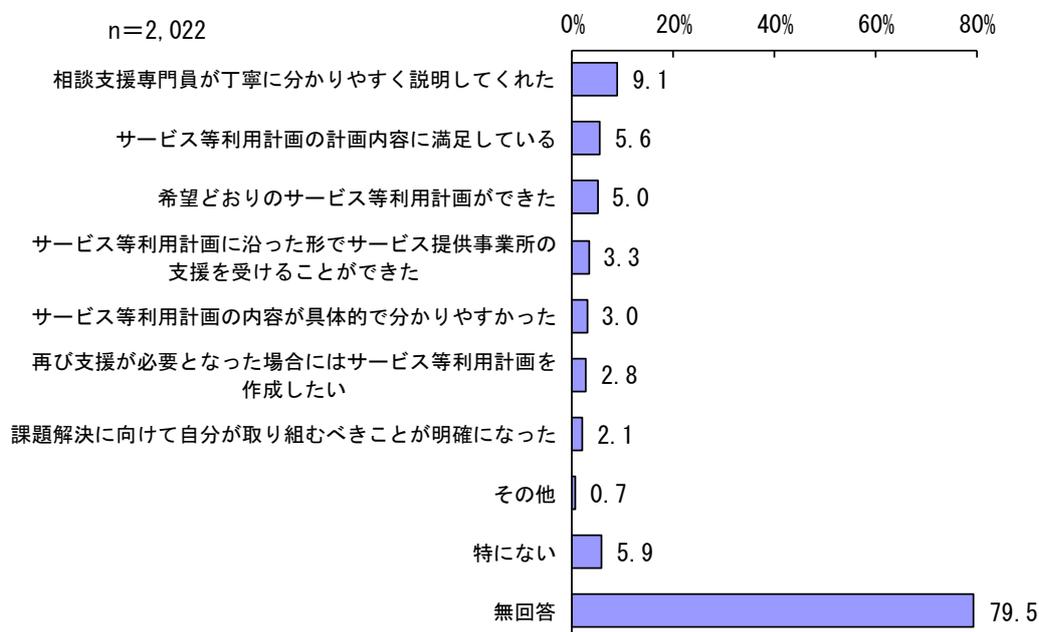
「居宅介護」、「重度訪問介護」、「療養介護」、「自立訓練（機能訓練）」、「日常生活用具給付事業」では「介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している」が最も高くなっています。

それ以外のサービスでは「特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している」が最も高く、特に「移動支援事業」では52.2%と5割を超えています。

「行動援護」では、「特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している」、「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」がいずれも21.7%と同じ割合となっています。

### (7) サービス等利用計画の作成時に満足したこと

問 26 サービス等利用計画を作成して満足したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)



サービス等利用計画を作成して満足したことは、「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」が9.1%と最も高く、次いで「サービス等利用計画の計画内容に満足している」が5.6%、「希望どおりのサービス等利用計画ができた」が5.0%と続いています。

一方、「特にない」は5.9%となっています。

## 【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた	希望どおりのサービス等利用計画ができた	サービス等利用計画の計画内容に満足している	再び支援が必要となった場合にはサービス等利用計画を作成したい	サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた
全体	2022	9.1	5.0	5.6	2.8	3.3
障害別						
肢体不自由	338	13.0	7.1	7.7	3.3	4.4
音声・言語・そしゃく機能障害	87	18.4	8.0	12.6	2.3	6.9
視覚障害	145	7.6	5.5	5.5	4.1	2.1
聴覚・平衡機能障害	158	8.9	5.1	5.7	3.8	1.3
内部障害	334	5.1	3.6	3.3	2.7	1.8
知的障害	235	23.4	11.5	17.0	4.3	11.1
発達障害	150	18.7	8.0	11.3	6.0	6.0
精神障害	425	12.9	7.5	7.5	6.8	5.9
高次脳機能障害	31	12.9	12.9	12.9	9.7	3.2
難病（特定疾病）	606	4.6	2.6	2.5	1.2	1.8
その他	24	16.7	12.5	12.5	0.0	0.0

(単位:%)	n	サービス等利用計画の内容が具体的に分かりやすかった	課題解決に向けて自分に取り組むべきことが明確になった	その他	特にない	無回答
全体	2022	3.0	2.1	0.7	5.9	79.5
障害別						
肢体不自由	338	3.6	2.7	1.2	6.2	72.5
音声・言語・そしゃく機能障害	87	5.7	3.4	1.1	4.6	69.0
視覚障害	145	1.4	1.4	1.4	4.1	81.4
聴覚・平衡機能障害	158	3.2	1.3	0.6	5.1	79.1
内部障害	334	1.2	1.2	0.9	5.4	84.4
知的障害	235	6.0	3.0	2.1	11.9	50.6
発達障害	150	4.7	5.3	0.0	9.3	63.3
精神障害	425	5.4	5.2	0.9	7.3	72.7
高次脳機能障害	31	6.5	3.2	0.0	12.9	58.1
難病（特定疾病）	606	1.3	0.8	0.0	3.5	90.1
その他	24	4.2	0.0	0.0	12.5	58.3

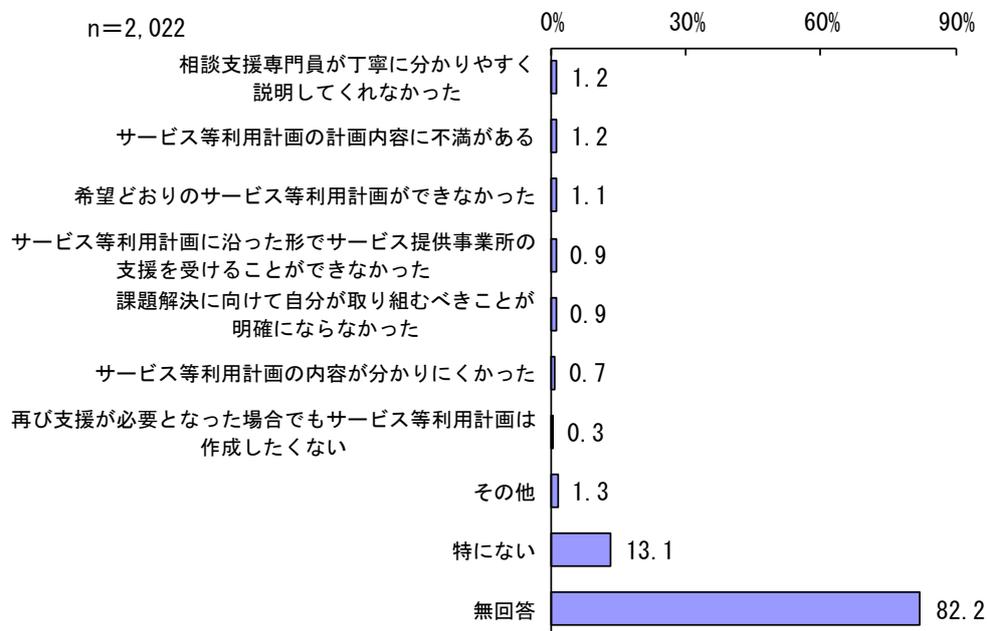
障害別にみると、いずれの障害でも「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」が他の項目よりも高くなっています。

“知的障害”では、いずれの項目も他の障害より高い割合となっています。

“高次脳機能障害”では、「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」、「希望どおりのサービス等利用計画ができた」、「サービス等利用計画の計画内容に満足している」がいずれも12.9%と同じ割合となっています。

## (8) サービス等利用計画の作成時に満足できなかったこと

問 27 サービス等利用計画を作成して満足できなかったことはありますか。(あてはまるものすべてに○)



サービス等利用計画を作成して満足できなかったことは、「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった」と「サービス等利用計画の計画内容に不満がある」がともに 1.2%と最も高く、次いで「希望どおりのサービス等利用計画ができなかった」が 1.1%と続いています。

一方、「特にない」は 13.1%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)		n	相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった	希望どおりのサービス等利用計画ができなかった	サービス等利用計画の計画内容に不満がある	再び支援が必要となった場合でもサービス等利用計画は作成したくない	サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった
全体		2022	1.2	1.1	1.2	0.3	0.9
障害別	肢体不自由	338	1.5	1.8	2.1	0.0	1.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	2.3	4.6	2.3	1.1	2.3
	視覚障害	145	1.4	0.7	1.4	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	158	3.8	1.9	2.5	0.0	1.9
	内部障害	334	1.5	2.4	1.2	0.6	1.2
	知的障害	235	1.3	1.3	3.0	0.0	2.1
	発達障害	150	1.3	2.0	2.0	1.3	2.7
	精神障害	425	1.9	2.4	1.6	0.5	1.6
	高次脳機能障害	31	6.5	6.5	9.7	0.0	3.2
	難病（特定疾病）	606	1.2	0.2	0.5	0.2	0.5
その他	24	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	

(単位:%)		n	サービス等利用計画の内容が分かりにくかった	課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確にならなかった	その他	特にない	無回答
全体		2022	0.7	0.9	1.3	13.1	82.2
障害別	肢体不自由	338	0.3	1.5	1.8	14.8	78.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	2.3	3.4	1.1	14.9	75.9
	視覚障害	145	0.0	0.7	0.7	13.1	82.8
	聴覚・平衡機能障害	158	1.9	1.9	0.0	9.5	84.2
	内部障害	334	0.9	1.8	1.5	9.6	85.3
	知的障害	235	0.0	2.1	3.8	29.8	59.1
	発達障害	150	2.0	5.3	2.0	24.0	67.3
	精神障害	425	1.9	1.9	2.4	16.9	75.8
	高次脳機能障害	31	3.2	6.5	0.0	29.0	54.8
	難病（特定疾病）	606	0.5	0.2	0.0	7.1	90.8
その他	24	4.2	0.0	4.2	25.0	66.7	

障害別にみると、“聴覚・平衡機能障害”と“難病（特定疾病）”では、「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった」が最も高くなっています。

“肢体不自由”、“知的障害”、“高次脳機能障害”では、「サービス等利用計画の計画内容に不満がある」が最も高く、特に“高次脳機能障害”では9.7%と他の障害よりも高くなっています。

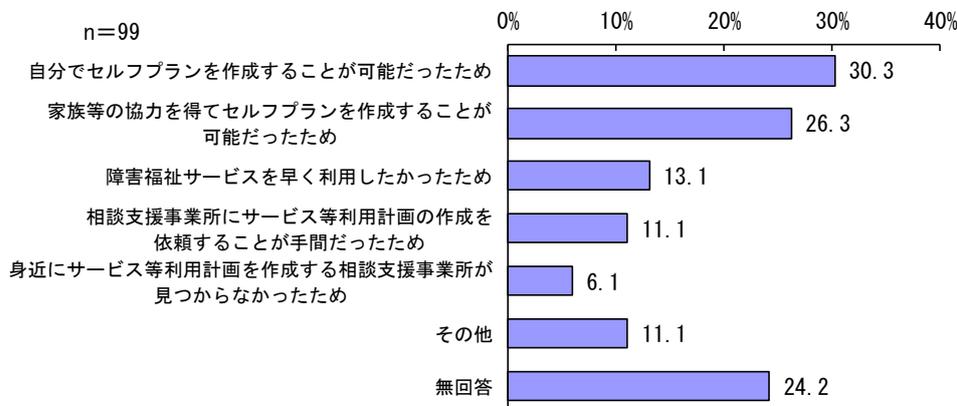
“発達障害”では、「サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった」が2.7%と最も高くなっています。

“視覚障害”では、「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった」と「サービス等利用計画の計画内容に不満がある」がともに1.4%、“その他”では「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった」と「サービス等利用計画の内容が分かりにくかった」がともに4.2%と同じ割合となっています。

## (9) セルフプランにした理由

問 25 で「セルフプランを作成している」と回答した方にお聞きします。

問 28 セルフプランとした理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)



セルフプランを作成した理由は、「自分でセルフプランを作成することが可能だったため」が30.3%と最も高く、次いで「家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため」が26.3%、「障害福祉サービスを早く利用したかったため」が13.1%と続いています。

### 【クロス集計】障害別

	n	相談支援事業所にサービス等利用計画の作成を依頼することが手間だったため	身近にサービス等利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため	障害福祉サービスを早く利用したかったため	家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため	自分でセルフプランを作成することが可能だったため	その他	無回答
(単位: %)								
全体	99	11.1	6.1	13.1	26.3	<b>30.3</b>	11.1	24.2
障害別								
肢体不自由	15	0.0	13.3	<b>20.0</b>	13.3	13.3	<b>20.0</b>	33.3
音声・言語・そしゃく機能障害	7	0.0	0.0	14.3	<b>28.6</b>	0.0	14.3	42.9
視覚障害	13	15.4	15.4	15.4	0.0	<b>38.5</b>	15.4	15.4
聴覚・平衡機能障害	4	0.0	0.0	25.0	25.0	<b>50.0</b>	0.0	50.0
内部障害	9	0.0	11.1	0.0	33.3	<b>44.4</b>	0.0	33.3
知的障害	28	10.7	0.0	7.1	<b>46.4</b>	10.7	3.6	32.1
発達障害	19	15.8	0.0	10.5	<b>26.3</b>	<b>26.3</b>	15.8	26.3
精神障害	26	19.2	0.0	23.1	23.1	<b>38.5</b>	7.7	11.5
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	<b>100.0</b>	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	11	<b>18.2</b>	<b>18.2</b>	0.0	<b>18.2</b>	<b>18.2</b>	<b>18.2</b>	36.4
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

障害別にみると、「肢体不自由」では「障害福祉サービスを早く利用したかったため」が最も高くなっています。

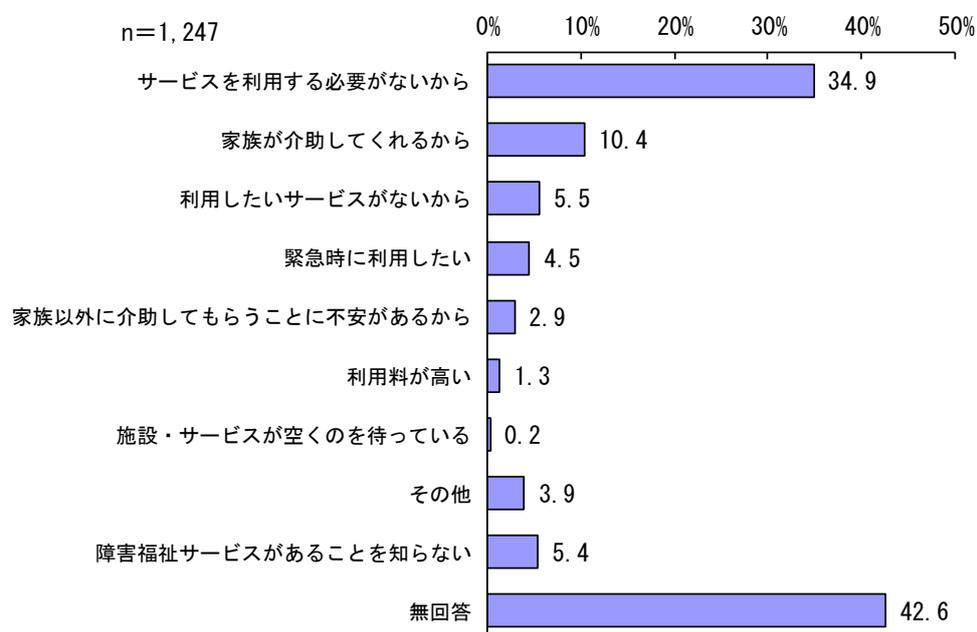
「難病(特定疾病)」では、「障害福祉サービスを早く利用したかったため」を除くいずれの項目も18.2%と同じ割合になっています。

それ以外の障害では、「家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため」か「自分でセルフプランを作成することが可能だったため」が最も高くなっています。

## (10) 障害福祉サービスを利用していない理由

問 23 にあるいずれの障害福祉サービスも利用していない方にお聞きします

問 29 障害福祉サービスを利用しない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)



障害福祉サービスを利用していない理由は、「サービスを利用する必要がないから」が 34.9%と 3 割半ばで最も高く、次いで「家族が介助してくれるから」が 10.4%、「利用したいサービスがないから」が 5.5%と続いています。

一方、「障害福祉サービスがあることを知らない」は 5.4%となっています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	サービスを利用する必要がないから	利用したいサービスがないから	家族が介助してくれるから	家族以外に介助してもらうことに不安があるから	施設・サービスが空くのを待っている
年代別	全体	1247	34.9	5.5	10.4	2.9	0.2
	18歳以上～40歳未満	186	41.4	9.1	7.0	4.8	0.5
	40歳以上～65歳未満	484	36.2	6.8	8.3	2.7	0.0
	65歳以上～75歳未満	211	41.7	4.3	11.4	1.9	0.9
	75歳以上	335	27.2	2.7	14.9	2.4	0.0
障害別	肢体不自由	162	36.4	6.2	16.0	1.9	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	40	25.0	5.0	22.5	0.0	2.5
	視覚障害	68	20.6	2.9	20.6	2.9	0.0
	聴覚・平衡機能障害	100	27.0	8.0	18.0	5.0	0.0
	内部障害	202	33.7	3.5	10.4	3.0	0.0
	知的障害	63	15.9	4.8	20.6	9.5	0.0
	発達障害	54	20.4	11.1	14.8	7.4	1.9
	精神障害	245	22.9	9.4	12.2	6.9	0.4
	高次脳機能障害	11	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	499	44.9	4.8	6.0	0.6	0.0
	その他	11	27.3	9.1	9.1	0.0	0.0

(単位:%)		n	緊急時に利用したい	利用料が高い	その他	障害福祉サービスがあることを知らない	無回答
年代別	全体	1247	4.5	1.3	3.9	5.4	42.6
	18歳以上～40歳未満	186	4.8	0.5	5.9	3.8	36.0
	40歳以上～65歳未満	484	4.5	1.4	5.2	6.8	39.3
	65歳以上～75歳未満	211	3.8	1.9	1.9	4.7	39.8
	75歳以上	335	4.2	1.2	2.4	4.5	51.0
障害別	肢体不自由	162	6.8	2.5	4.3	6.8	35.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	40	2.5	10.0	7.5	0.0	45.0
	視覚障害	68	5.9	0.0	8.8	2.9	47.1
	聴覚・平衡機能障害	100	5.0	2.0	5.0	4.0	45.0
	内部障害	202	7.4	1.5	3.5	5.0	45.0
	知的障害	63	6.3	0.0	7.9	1.6	47.6
	発達障害	54	7.4	3.7	9.3	9.3	35.2
	精神障害	245	3.7	2.4	6.1	9.4	40.8
	高次脳機能障害	11	9.1	0.0	18.2	18.2	45.5
	難病(特定疾病)	499	4.6	0.8	3.4	4.4	39.5
	その他	11	9.1	9.1	0.0	0.0	63.6

年代別にみると、いずれの年代も「サービスを利用する必要がないから」が最も高くなっています。

また、「家族が介助してくれるから」は年代が上がるにつれて高くなる傾向にあります。

障害別にみると、「知的障害」では「家族が介助してくれるから」が20.6%と最も高くなっています。

「視覚障害」では、「サービスを利用する必要がないから」と「家族が介助してくれるから」がともに20.6%と最も高くなっています。

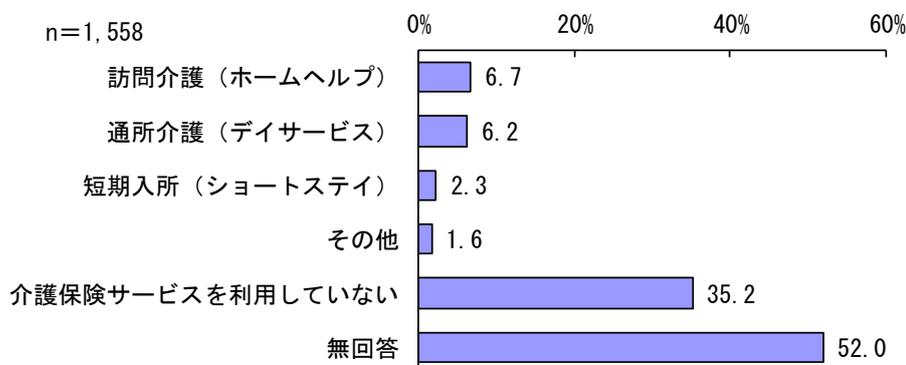
「高次脳機能障害」では「その他」と「障害福祉サービスがあることを知らない」がともに18.2%と最も高くなっています。

それ以外の障害では「サービスを利用する必要がないから」が最も高くなっています。

## (11) 介護保険サービスの利用状況

40歳以上の方にお聞きします

問 30 障害福祉サービスと併用している介護保険サービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)



介護保険サービスの利用状況は、「訪問介護 (ホームヘルプ)」が6.7%と最も高く、次いで「通所介護 (デイサービス)」が6.2%、「短期入所 (ショートステイ)」が2.3%と続いています。一方、「介護保険サービスを利用していない」は35.2%と3割半ばを占めています。

### 【クロス集計】年代別・障害別

(単位: %)		n	訪問介護 (ホームヘルプ)	通所介護 (デイサービス)	短期入所 (ショートステイ)	その他	介護保険サービスを利用していない	無回答
全体		1588	6.7	6.2	2.3	1.6	35.2	52.0
年代別	40歳以上～65歳未満	743	4.0	1.9	1.3	0.9	45.2	48.0
	65歳以上～75歳未満	318	8.2	4.4	1.3	2.2	35.8	50.3
	75歳以上	527	9.5	13.5	4.2	2.3	20.7	58.4
	障害別							
	肢体不自由	301	11.6	14.3	6.3	3.3	28.6	46.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	74	9.5	18.9	6.8	1.4	18.9	54.1
	視覚障害	127	9.4	11.0	3.1	1.6	33.9	47.2
	聴覚・平衡機能障害	142	9.2	9.9	2.8	2.1	27.5	52.8
	内部障害	304	6.9	6.6	3.0	1.6	30.9	55.6
	知的障害	102	3.9	8.8	6.9	2.9	29.4	52.9
	発達障害	46	2.2	2.2	2.2	0.0	47.8	45.7
	精神障害	312	8.0	3.2	1.6	1.9	40.1	47.4
	高次脳機能障害	29	17.2	27.6	10.3	3.4	17.2	37.9
	難病 (特定疾病)	502	5.6	4.6	1.4	1.0	41.4	49.6
	その他	19	21.1	15.8	0.0	0.0	15.8	57.9

年代別にみると、“75歳以上”では「通所介護 (デイサービス)」が13.5%と1割を超えて最も高く、それ以外の年代では「訪問介護 (ホームヘルプ)」が最も高くなっています。

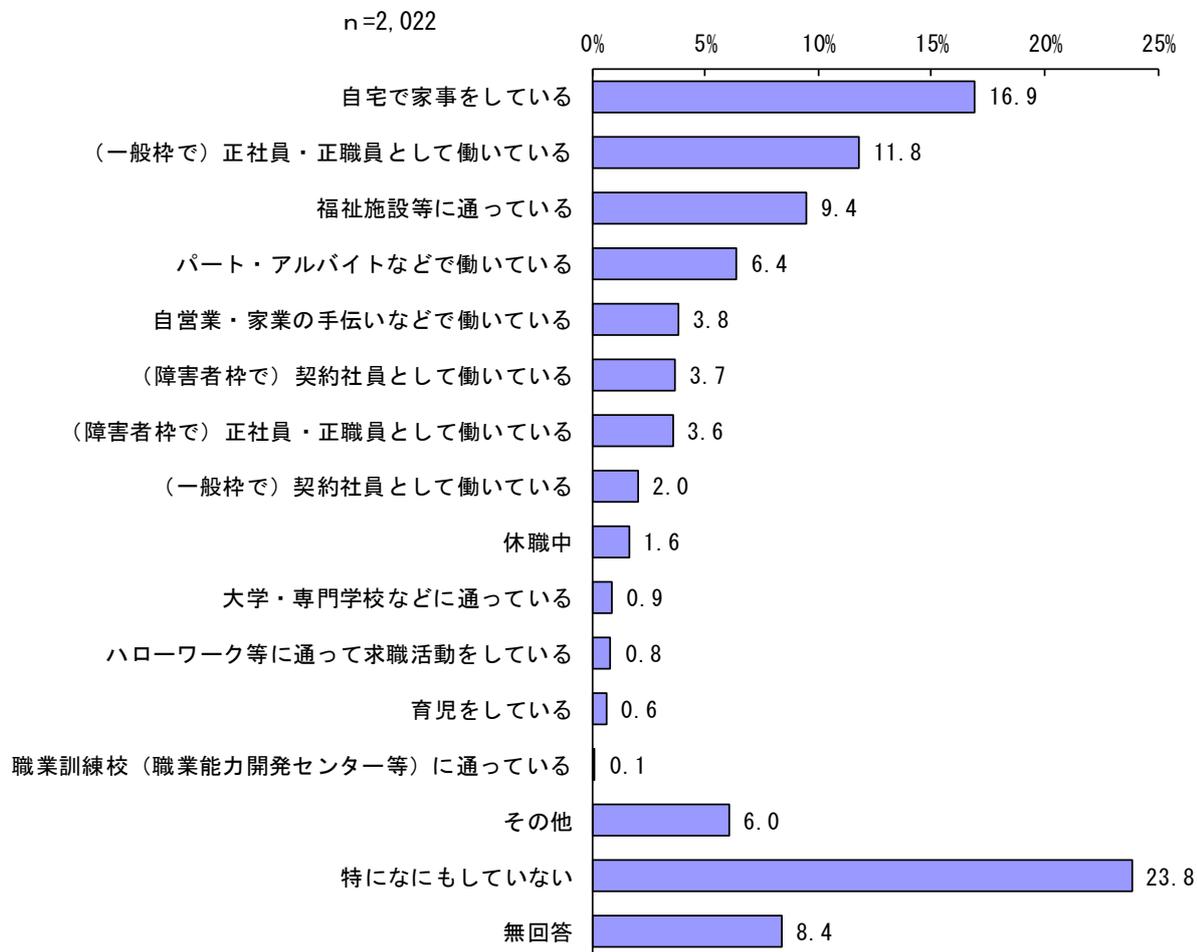
障害別にみると、“内部障害”、“精神障害”、“難病 (特定疾病)”、“その他”では「訪問介護 (ホームヘルプ)」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「通所介護 (デイサービス)」が最も高く、特に“高次脳機能障害”では27.6%と2割半ばを超えています。

## 5 日中活動や外出について

### (1) 平日の日中の過ごし方

問31 あなたは、平日の日中、主にどのように過ごしていますか。(〇はひとつ)



平日の日中の過ごし方は、「自宅で家事をしている」が16.9%と最も高く、次いで「(一般枠で) 正社員・正職員として働いている」が11.8%、「福祉施設等に通っている」が9.4%と続いています。

一方、「特になにもしていない」は23.8%と2割を超えています。

【クロス集計】障害別

(単位：%)	n	(一般枠で)正社員・正職員として働いている	(障害者枠で)正社員・正職員として働いている	(一般枠で)契約社員として働いている	(障害者枠で)契約社員として働いている	パート・アルバイトなどで働いている	自営業・家業の手伝いなどで働いている	福祉施設等に通っている	大学・専門学校などに通っている
全体	2022	11.8	3.6	2.0	3.7	6.4	3.8	9.4	0.9
障害別									
肢体不自由	338	7.1	1.8	0.9	2.4	2.4	3.0	7.7	0.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	4.6	1.1	0.0	2.3	2.3	2.3	18.4	0.0
視覚障害	145	8.3	4.1	1.4	2.8	2.8	3.4	6.9	3.4
聴覚・平衡機能障害	158	6.3	8.2	0.6	3.2	1.3	3.8	3.2	0.6
内部障害	334	12.6	3.0	2.7	0.6	4.2	5.1	2.4	0.9
知的障害	235	1.7	8.9	1.7	11.5	4.3	0.4	48.1	0.0
発達障害	150	8.0	9.3	0.0	12.0	9.3	0.7	28.7	2.7
精神障害	425	5.2	3.1	0.9	5.6	8.7	1.9	13.9	0.9
高次脳機能障害	31	0.0	3.2	3.2	6.5	0.0	0.0	12.9	0.0
難病(特定疾病)	606	23.9	0.8	4.0	1.0	8.4	6.4	1.3	0.7
その他	24	0.0	4.2	0.0	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0

(単位：%)	n	職業訓練校(職業能力開発センター等)に通っている	ハローワーク等に通って求職活動をしている	自宅で家事をしている	育児をしている	休職中	その他	特にににもしていない	無回答
全体	2022	0.1	0.8	16.9	0.6	1.6	6.0	23.8	8.4
障害別									
肢体不自由	338	0.0	0.6	20.7	0.0	1.2	5.6	33.7	12.4
音声・言語・そしゃく機能障害	87	0.0	0.0	12.6	0.0	1.1	10.3	33.3	11.5
視覚障害	145	0.0	0.0	17.2	0.0	0.7	6.2	30.3	12.4
聴覚・平衡機能障害	158	0.0	0.6	22.8	0.6	1.9	5.7	29.1	12.0
内部障害	334	0.0	0.0	16.8	0.3	1.2	6.9	33.2	10.2
知的障害	235	0.4	0.0	2.1	0.0	1.3	4.3	8.9	6.4
発達障害	150	0.7	1.3	4.7	0.0	0.0	5.3	15.3	2.0
精神障害	425	0.5	2.1	18.4	1.2	4.0	8.0	21.4	4.2
高次脳機能障害	31	0.0	0.0	9.7	0.0	0.0	19.4	35.5	9.7
難病(特定疾病)	606	0.0	0.8	17.0	1.2	1.3	4.6	21.8	6.8
その他	24	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	29.2	25.0

障害別にみると、“難病(特定疾病)”では、「(一般枠で)正社員・正職員として働いている」が23.9%と2割を超えて他の障害よりも高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”、“知的障害”、“発達障害”、“その他”では、「福祉施設等に通っている」が最も高く、特に“知的障害”では48.1%と5割近くとなっています。

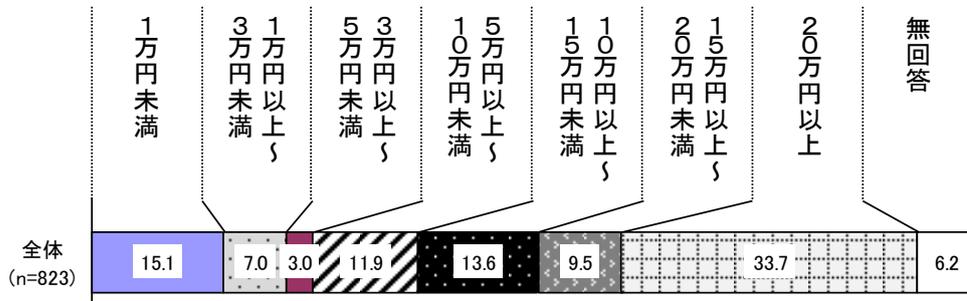
“難病(特定疾病)”では「その他」が19.4%と最も高くなっています。

それ以外の障害では「自宅で家事をしている」が最も高くなっています。

(2) 給与・工賃

問 31 で「正社員」「契約社員」「パート・アルバイト」「福祉施設に通所」と回答された方にお聞きします

問 31-1 給与・工賃の月額をお答え下さい。(〇はひとつ)



給与・工賃の月額は、「20万円以上」が33.7%と3割を超えて最も高く、次いで「1万円未満」が15.1%、「10万円以上～15万円未満」が13.6%、「5万円以上～10万円未満」が11.9%と続いています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位: %)		n	1万円未満	1万円以上～3万円未満	3万円以上～5万円未満	5万円以上～10万円未満	10万円以上～15万円未満	15万円以上～20万円未満	20万円以上	無回答
全体		823	15.1	7.0	3.0	11.9	13.6	9.5	<b>33.7</b>	6.2
年代別	18歳以上～40歳未満	270	23.0	7.4	0.7	10.0	15.2	8.9	<b>30.4</b>	4.4
	40歳以上～65歳未満	414	12.3	7.5	2.7	10.9	13.3	8.9	<b>40.3</b>	4.1
	65歳以上～75歳未満	75	9.3	5.3	12.0	17.3	9.3	14.7	<b>24.0</b>	8.0
	75歳以上	49	4.1	2.0	4.1	<b>22.4</b>	10.2	12.2	18.4	26.5
	肢体不自由	85	21.2	2.4	4.7	12.9	3.5	7.1	<b>36.5</b>	11.8
障害別	音声・言語・そしゃく機能障害	27	48.1	7.4	3.7	3.7	0.0	11.1	18.5	7.4
	視覚障害	43	4.7	4.7	4.7	7.0	18.6	7.0	<b>44.2</b>	9.3
	聴覚・平衡機能障害	42	11.9	7.1	0.0	7.1	9.5	7.1	<b>50.0</b>	7.1
	内部障害	102	3.9	2.9	1.0	10.8	9.8	11.8	<b>52.0</b>	7.8
	知的障害	180	<b>38.9</b>	16.7	1.1	11.7	21.7	1.1	0.6	8.3
	発達障害	102	<b>27.5</b>	11.8	2.0	9.8	18.6	8.8	15.7	5.9
	精神障害	167	<b>25.7</b>	13.2	4.2	12.6	13.8	7.8	17.4	5.4
	高次脳機能障害	8	<b>37.5</b>	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	25.0	12.5
	難病(特定疾病)	278	2.9	1.1	3.2	11.5	9.4	12.9	<b>56.5</b>	2.5
	その他	7	<b>57.1</b>	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0

年代別にみると、“75歳以上”では「5万円以上～10万円未満」が22.4%と2割を超えて最も高く、それ以外の年代では「20万円以上」が最も高くなっています。

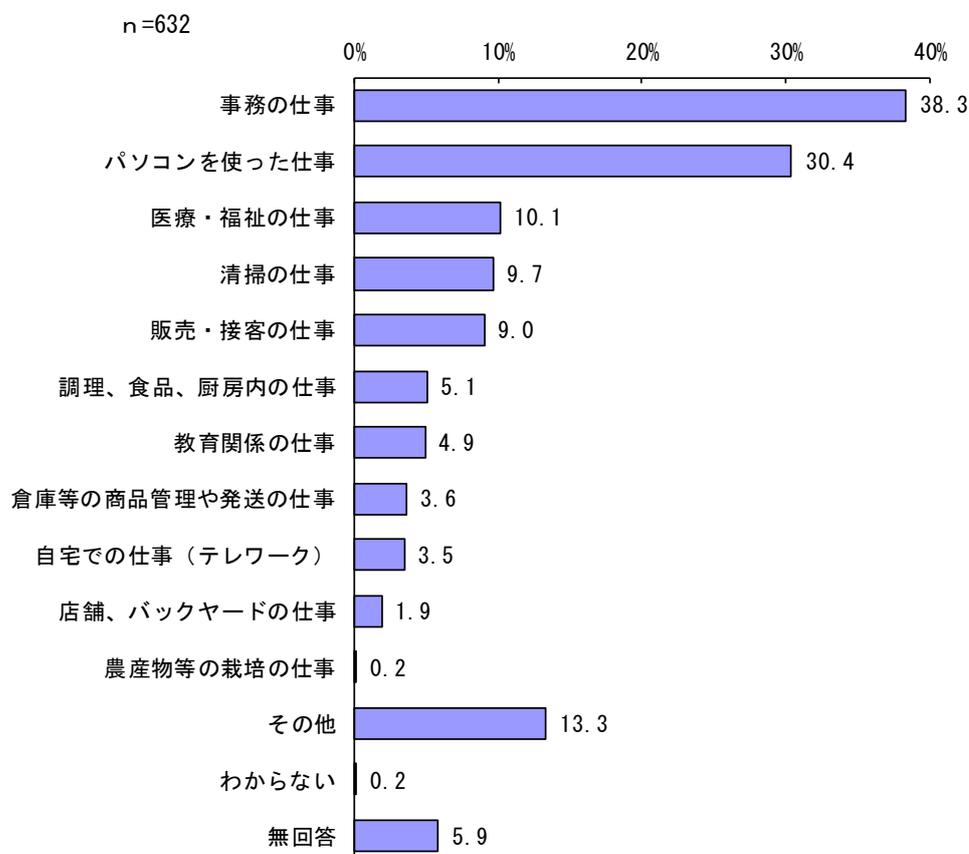
“18歳以上～40歳未満”では、「1万円未満」が23.0%と他の障害に比べ高くなっています。

障害別にみると、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”、“高次脳機能障害”、“その他”では「1万円未満」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「20万円以上」が最も高くなっています。

### (3) 仕事の内容

問31で「正社員」「契約社員」「パート・アルバイト」と回答された方にお聞きします  
問31-2 仕事の内容をお答え下さい。(あてはまるものすべてに○)



仕事の内容は、「事務の仕事」が38.3%と4割近くで最も高く、次いで「パソコンを使った仕事」が30.4%、「医療・福祉の仕事」が10.1%、「清掃の仕事」が9.7%、「販売・接客の仕事」が9.0%と続いています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	事務の仕事	販売・接客の仕事	パソコンを使った仕事	医療・福祉の仕事	教育関係の仕事	倉庫等の商品管理や発送の仕事	清掃の仕事
全体		632	<b>38.3</b>	9.0	30.4	10.1	4.9	3.6	9.7
年代別	18歳以上～40歳未満	179	<b>41.9</b>	3.9	35.2	11.7	2.2	3.9	11.7
	40歳以上～65歳未満	338	<b>38.5</b>	11.2	32.5	11.2	6.5	3.3	7.7
	65歳以上～75歳未満	68	<b>30.9</b>	10.3	17.6	4.4	5.9	0.0	10.3
	75歳以上	37	24.3	13.5	8.1	5.4	2.7	5.4	8.1
	障害別	肢体不自由	59	<b>49.2</b>	10.2	32.2	6.8	8.5	5.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	11	9.1	0.0	<b>18.2</b>	9.1	9.1	9.1	9.1
	視覚障害	33	<b>39.4</b>	3.0	33.3	18.2	12.1	0.0	3.0
	聴覚・平衡機能障害	37	<b>37.8</b>	5.4	24.3	5.4	0.0	5.4	5.4
	内部障害	94	<b>33.0</b>	11.7	20.2	16.0	4.3	1.1	6.4
	知的障害	67	17.9	4.5	13.4	1.5	0.0	14.9	<b>40.3</b>
	発達障害	59	<b>40.7</b>	6.8	33.9	5.1	1.7	8.5	25.4
	精神障害	108	<b>38.9</b>	8.3	34.3	4.6	7.4	4.6	12.0
	高次脳機能障害	4	<b>50.0</b>	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	難病（特定疾病）	270	<b>44.1</b>	11.1	37.4	14.8	6.3	0.7	3.3
	その他	3	<b>33.3</b>	0.0	<b>33.3</b>	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)		n	調理、食品、厨房内の仕事	店舗、パッキヤードの仕事	農産物等の栽培の仕事	自宅での仕事（テレワーク）	その他	わからない	無回答
全体		632	5.1	1.9	0.2	3.5	13.3	0.2	5.9
年代別	18歳以上～40歳未満	179	5.6	2.8	0.6	3.9	12.8	0.0	3.9
	40歳以上～65歳未満	338	4.7	1.5	0.0	3.0	11.5	0.3	5.3
	65歳以上～75歳未満	68	5.9	2.9	0.0	2.9	16.2	0.0	10.3
	75歳以上	37	5.4	0.0	0.0	8.1	<b>27.0</b>	0.0	13.5
	障害別	肢体不自由	59	3.4	1.7	0.0	5.1	11.9	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	11	9.1	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1
	視覚障害	33	3.0	0.0	0.0	3.0	15.2	0.0	6.1
	聴覚・平衡機能障害	37	2.7	2.7	0.0	5.4	16.2	0.0	5.4
	内部障害	94	4.3	1.1	0.0	3.2	17.0	0.0	8.5
	知的障害	67	23.9	7.5	1.5	0.0	10.4	1.5	3.0
	発達障害	59	5.1	5.1	1.7	1.7	20.3	0.0	6.8
	精神障害	108	1.9	0.0	0.0	2.8	15.7	0.0	8.3
	高次脳機能障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	270	3.3	1.5	0.0	5.9	9.6	0.0	5.2
	その他	3	<b>33.3</b>	<b>33.3</b>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

年代別にみると、“75歳以上”では「その他」が27.0%と2割半ばを超えて最も高く、それ以外の年代では「事務の仕事」が3割を超えて最も高くなっています。

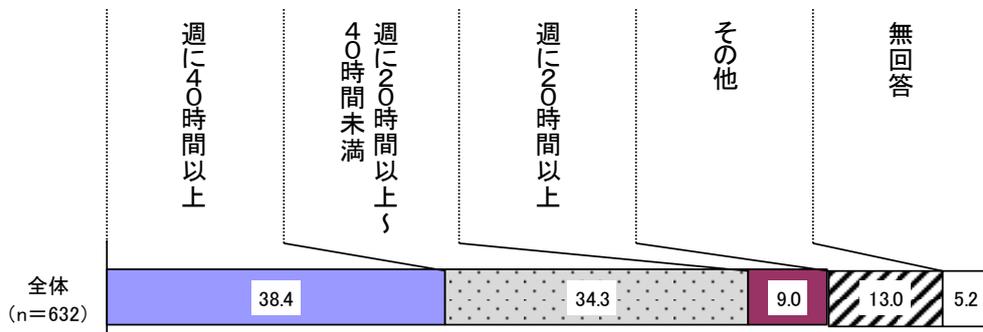
障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”では「パソコンを使った仕事」が18.2%と2割近くで最も高くなっています。

“知的障害”では「清掃の仕事」が40.3%と4割で最も高く、「調理、食品、厨房内の仕事」も23.9%と2割を超えて他の障害に比べ高くなっています。

それ以外の障害では「事務の仕事」が最も高くなっています。

#### (4) 1週間当たりの勤務時間

問31で「正社員」「契約社員」「パート・アルバイト」と回答された方にお聞きします  
問31-3 週当たりの勤務時間をお答え下さい。(〇はひとつ)



1週間当たりの勤務時間は、「週に40時間以上」が38.4%と4割近くで最も高く、次いで「週に20時間以上~40時間未満」が34.3%、「週に20時間以上」が9.0%と続いています。

#### 【クロス集計】年代別・障害別

	n	週に40時間以上	週に20時間以上~40時間未満	週に20時間以上	その他	無回答
(単位:%)						
全体	632	38.4	34.3	9.0	13.0	5.2
年代別						
18歳以上~40歳未満	179	44.1	44.7	5.0	2.8	3.4
40歳以上~65歳未満	338	44.1	30.2	10.4	10.9	4.4
65歳以上~75歳未満	68	16.2	29.4	10.3	36.8	7.4
75歳以上	37	2.7	32.4	16.2	29.7	18.9
障害別						
肢体不自由	59	40.7	28.8	6.8	22.0	1.7
音声・言語・そしゃく機能障害	11	36.4	18.2	0.0	36.4	9.1
視覚障害	33	39.4	30.3	12.1	9.1	9.1
聴覚・平衡機能障害	37	56.8	27.0	8.1	5.4	2.7
内部障害	94	39.4	34.0	10.6	11.7	4.3
知的障害	67	16.4	68.7	7.5	4.5	3.0
発達障害	59	28.8	54.2	6.8	5.1	5.1
精神障害	108	25.0	33.3	13.0	17.6	11.1
高次脳機能障害	4	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	270	47.0	29.6	7.4	11.5	4.4
その他	3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

年代別にみると、「18歳以上~40歳未満」と「75歳以上」では「週に20時間以上~40時間未満」が、「40歳以上~65歳未満」では「週に40時間以上」が、「65歳以上~75歳未満」では「その他」が最も高くなっています。

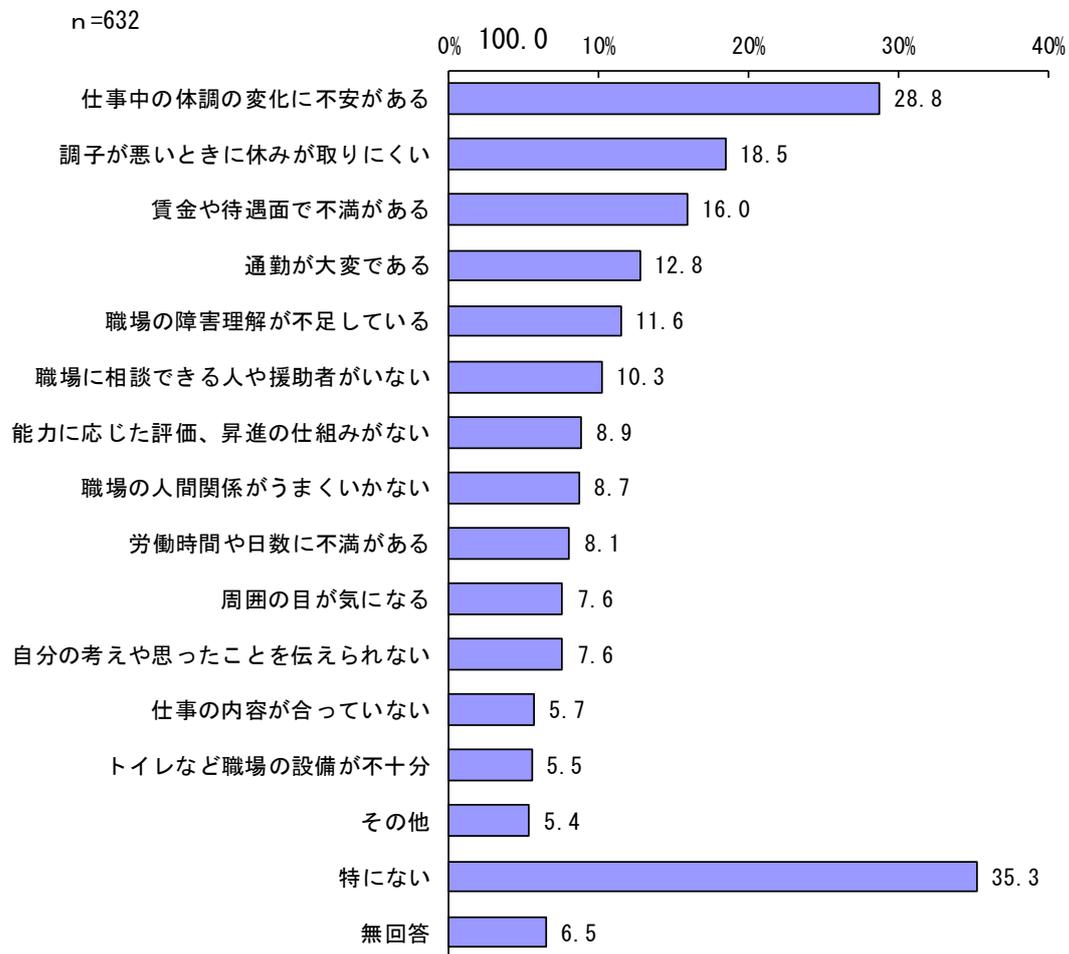
「18歳以上~40歳未満」では、「週に40時間以上」と「週に20時間以上~40時間未満」がともに4割を超え高くなっています。

障害別にみると、「知的障害」、「発達障害」、「精神障害」、「高次脳機能障害」、「その他」では「週に20時間以上~40時間未満」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「週に40時間以上」が最も高くなっています。

## (5) 仕事での困りごと

問31で「正社員」「契約社員」「パート・アルバイト」と回答された方にお聞きします  
問31-4 仕事をする上で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)



仕事での困りごとは、「仕事中の体調の変化に不安がある」が28.8%と3割近くで最も高く、次いで「調子が悪いときに休みが取りにくい」が18.5%、「賃金や待遇面で不満がある」が16.0%と続いています。

一方、「特にない」は35.3%と3割半ばを占めています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	賃金や待遇面で不満がある	仕事中の体調の変化に不安がある	調子が悪いときに休みが取りにくい	労働時間や日数に不満がある	通勤が大変である	職場の人間関係がうまくいかない	職場に相談できる人や援助者がいない	職場の障害理解が不足している
全体	632	16.0	<b>28.8</b>	18.5	8.1	12.8	8.7	10.3	11.6	
年代別	18歳以上～40歳未満	179	17.3	<b>28.5</b>	19.6	7.8	14.0	14.0	12.3	14.0
	40歳以上～65歳未満	338	17.5	<b>34.0</b>	21.9	10.1	13.0	7.7	10.9	13.3
	65歳以上～75歳未満	68	11.8	<b>13.2</b>	5.9	1.5	10.3	1.5	5.9	1.5
	75歳以上	37	2.7	<b>13.5</b>	2.7	0.0	5.4	0.0	0.0	0.0
障害別	肢体不自由	59	15.3	22.0	18.6	3.4	<b>23.7</b>	1.7	5.1	6.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	11	0.0	9.1	18.2	9.1	<b>18.2</b>	0.0	9.1	0.0
	視覚障害	33	21.2	21.2	18.2	9.1	24.2	18.2	18.2	<b>27.3</b>
	聴覚・平衡機能障害	37	13.5	<b>18.9</b>	10.8	8.1	10.8	8.1	13.5	16.2
	内部障害	94	11.7	<b>36.2</b>	20.2	3.2	16.0	1.1	8.5	11.7
	知的障害	67	10.4	6.0	3.0	3.0	6.0	<b>17.9</b>	9.0	9.0
	発達障害	59	<b>33.9</b>	32.2	15.3	11.9	15.3	28.8	16.9	13.6
	精神障害	108	26.9	<b>38.9</b>	25.0	13.0	12.0	16.7	17.6	13.0
	高次脳機能障害	4	<b>25.0</b>	<b>25.0</b>	0.0	0.0	<b>25.0</b>	0.0	<b>25.0</b>	<b>25.0</b>
	難病(特定疾病)	270	12.2	<b>36.3</b>	21.9	8.9	14.8	4.8	8.1	10.4
その他	3	<b>33.3</b>	<b>33.3</b>	<b>33.3</b>	<b>33.3</b>	0.0	<b>33.3</b>	0.0	0.0	

(単位:%)		n	トイレなど職場の設備が不十分	周囲の目が気になる	自分の考えや思ったことを伝えられない	能力に応じた評価、昇進の仕組みがない	仕事の内容が合っていない	その他	特にな	無回答
全体	632	5.5	7.6	7.6	8.9	5.7	5.4	35.3	6.5	
年代別	18歳以上～40歳未満	179	3.9	10.1	12.3	8.4	7.3	5.6	33.0	4.5
	40歳以上～65歳未満	338	6.5	7.7	5.9	11.8	6.2	6.5	31.1	4.4
	65歳以上～75歳未満	68	4.4	0.0	2.9	1.5	1.5	0.0	52.9	10.3
	75歳以上	37	0.0	2.7	5.4	0.0	0.0	0.0	54.1	29.7
障害別	肢体不自由	59	5.1	1.7	5.1	8.5	1.7	5.1	39.0	6.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	11	9.1	0.0	9.1	<b>18.2</b>	9.1	0.0	45.5	18.2
	視覚障害	33	6.1	9.1	9.1	12.1	15.2	3.0	36.4	6.1
	聴覚・平衡機能障害	37	2.7	5.4	10.8	10.8	8.1	5.4	35.1	8.1
	内部障害	94	3.2	5.3	4.3	5.3	6.4	2.1	41.5	8.5
	知的障害	67	6.0	10.4	13.4	3.0	1.5	4.5	44.8	4.5
	発達障害	59	1.7	20.3	<b>33.9</b>	10.2	10.2	10.2	16.9	6.8
	精神障害	108	5.6	16.7	12.0	18.5	13.0	7.4	17.6	10.2
	高次脳機能障害	4	0.0	0.0	<b>25.0</b>	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	難病(特定疾病)	270	7.0	4.8	2.6	6.3	3.0	5.6	34.4	5.2
その他	3	0.0	0.0	<b>33.3</b>	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	

年代別にみると、いずれの年代でも「仕事中の体調の変化に不安がある」が最も高くなっています。

“18歳以上～40歳未満”と“40歳以上～65歳未満”では、それ以上の年代よりも全体的に割合が高い傾向にあります。

障害別にみると、“肢体不自由”と“音声・言語・そしゃく機能障害”では、「通勤が大変である」が最も高くなっています。

“視覚障害”では、「職場の障害理解が不足している」が27.3%と最も高くなっています。

“知的障害”では、「職場の人間関係がうまくいかない」が17.9%と最も高くなっています。

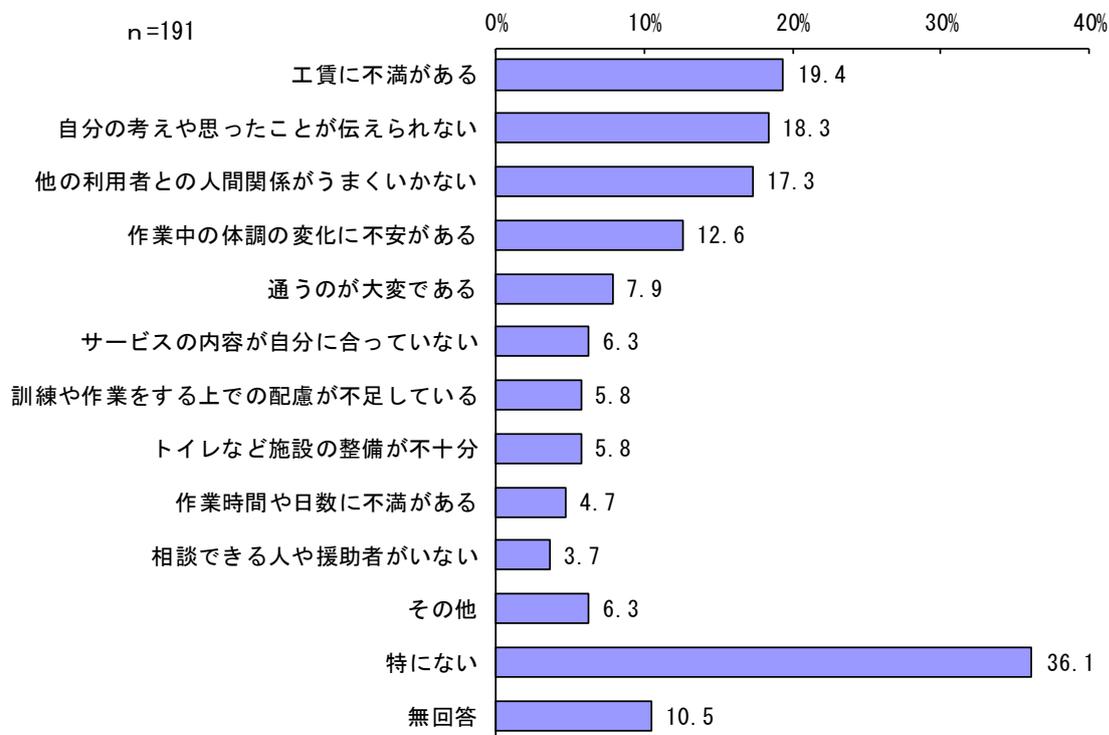
“発達障害”では、「賃金や待遇面で不満がある」と「自分の考えや思ったことを伝えられない」が33.9%と3割を超えて最も高くなっています。

それ以外の障害では「仕事中の体調の変化に不安がある」が最も高くなっています。

## (6) 福祉施設の困りごと

問31で「福祉施設等に通っている」と回答された方にお聞きします

問 31-5 福祉施設に通所する上で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)



福祉施設に通所する上で困っていることは、「工賃に不満がある」が 19.4%、「自分の考えや思ったことが伝えられない」が 18.3%、「他の利用者との人間関係がうまくいかない」が 17.3%と 2 割近くで高くなっています。

一方、「特にない」は 36.1%と 3 割半ばを超えています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	サービスの 内容が自分 に合ってい ない	作業時間や 日数に不満 がある	工賃に不 満がある	訓練や作業 をする上で の配慮が不 足している	他の利用者 との人間関 係がうまく いかない	通うのが 大変であ る	トイレなど 施設の整備 が不十分
全体		191	6.3	4.7	<b>19.4</b>	5.8	17.3	7.9	5.8
年代別	18歳以上～40歳未満	91	4.4	4.4	17.6	7.7	18.7	9.9	7.7
	40歳以上～65歳未満	76	9.2	5.3	<b>22.4</b>	2.6	13.2	7.9	3.9
	65歳以上～75歳未満	7	14.3	0.0	14.3	14.3	<b>57.1</b>	0.0	14.3
	75歳以上	12	0.0	<b>8.3</b>	<b>8.3</b>	0.0	0.0	0.0	0.0
障害別	肢体不自由	26	11.5	7.7	15.4	3.8	7.7	0.0	<b>23.1</b>
	音声・言語・そしゃく機能障害	16	6.3	0.0	<b>18.8</b>	12.5	6.3	0.0	<b>18.8</b>
	視覚障害	10	0.0	0.0	<b>20.0</b>	<b>20.0</b>	<b>20.0</b>	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	5	0.0	0.0	<b>60.0</b>	20.0	40.0	0.0	20.0
	内部障害	8	0.0	12.5	25.0	12.5	37.5	0.0	12.5
	知的障害	113	4.4	1.8	13.3	6.2	16.8	6.2	4.4
	発達障害	43	4.7	4.7	14.0	7.0	14.0	9.3	7.0
	精神障害	59	6.8	8.5	<b>32.2</b>	6.8	25.4	13.6	8.5
	高次脳機能障害	4	25.0	0.0	<b>50.0</b>	25.0	25.0	0.0	25.0
	難病（特定疾病）	8	0.0	0.0	0.0	<b>12.5</b>	0.0	0.0	0.0
	その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>25.0</b>	<b>25.0</b>

(単位:%)		n	相談できる 人や援助者 がない	作業中の体 調の変化に 不安がある	自分の考え や思ったこ とが伝えら れない	その他	特にな い	無回答
全体		191	3.7	12.6	18.3	6.3	36.1	10.5
年代別	18歳以上～40歳未満	91	2.2	13.2	<b>24.2</b>	12.1	31.9	9.9
	40歳以上～65歳未満	76	5.3	14.5	11.8	1.3	42.1	9.2
	65歳以上～75歳未満	7	0.0	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0
	75歳以上	12	<b>8.3</b>	0.0	<b>8.3</b>	0.0	41.7	25.0
障害別	肢体不自由	26	3.8	3.8	3.8	3.8	26.9	19.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	16	0.0	6.3	<b>18.8</b>	6.3	37.5	18.8
	視覚障害	10	10.0	0.0	10.0	0.0	40.0	20.0
	聴覚・平衡機能障害	5	0.0	40.0	40.0	0.0	20.0	20.0
	内部障害	8	12.5	25.0	<b>50.0</b>	12.5	0.0	12.5
	知的障害	113	0.9	13.3	<b>24.8</b>	8.0	37.2	11.5
	発達障害	43	0.0	11.6	<b>25.6</b>	11.6	34.9	14.0
	精神障害	59	5.1	16.9	8.5	5.1	32.2	5.1
	高次脳機能障害	4	0.0	25.0	<b>50.0</b>	0.0	50.0	0.0
	難病（特定疾病）	8	0.0	<b>12.5</b>	0.0	<b>12.5</b>	75.0	0.0
	その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

年代別にみると、「18歳以上～40歳未満」では、「自分の考えや思ったことが伝えられない」が24.2%と2割を超えて最も高くなっています。

「40歳以上～65歳未満」では、「工賃に不満がある」が22.4%と2割を超えて最も高くなっています。

障害別にみると、「音声・言語・そしゃく機能障害」、「知的障害」、「発達障害」では、「自分の考えや思ったことが伝えられない」が最も高くなっています。

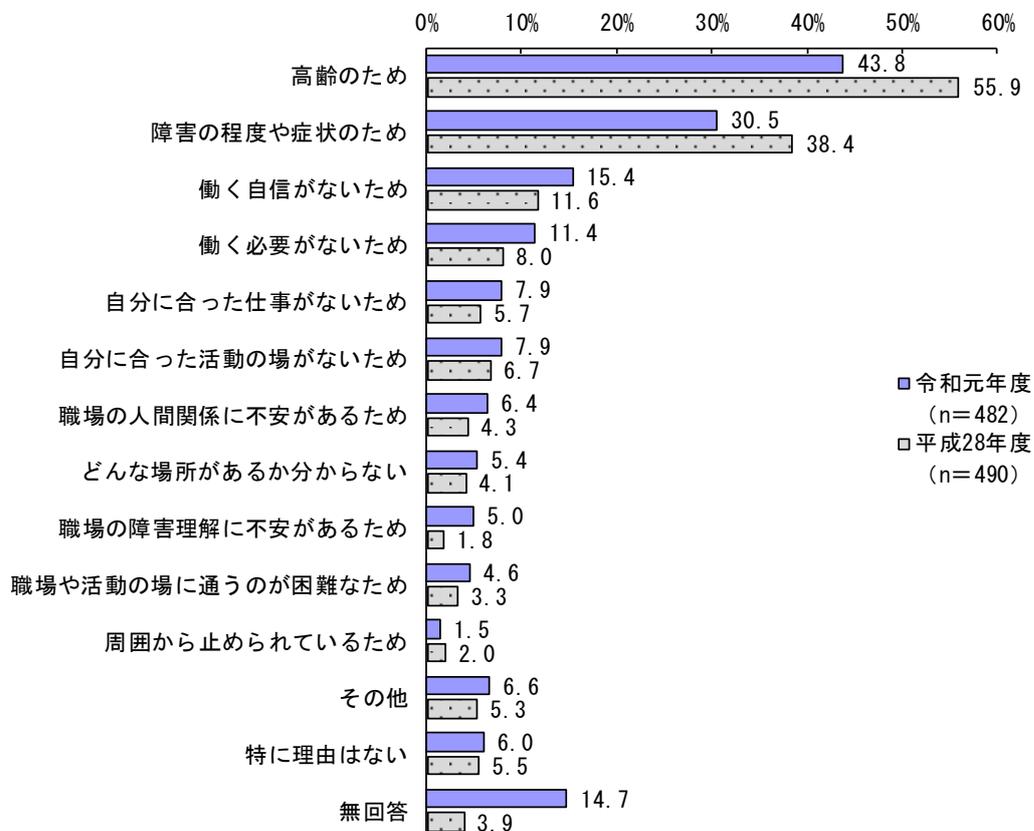
「精神障害」では、「工賃に不満がある」が32.2%と3割を超えて最も高くなっています。

それ以外の障害は全体的に回答数が少ないものの、それぞれの障害に即した困りごとがうかがえます。

## (7) 就労や通所などをしていない理由

問31で「特になにもしていない」と回答された方にお聞きします

問 31-6 あなたが就労や通所などをしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



平日の日中に就労や通所などをしていない理由は、「高齢のため」が43.8%と4割を超えて最も高く、次いで「障害の程度や症状のため」が30.5%、「働く自信がないため」が15.4%と続いています。

一方、「特に理由はない」は6.0%となっています。

平成28年度と比較すると、「高齢のため」が12.1ポイント、「障害の程度や症状のため」が7.9ポイント下がっています。また、「周囲から止められているため」がやや下がっています。

それ以外の項目はいずれも、平成28年度と比べて上がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	障害の程度や症状のため	高齢のため	職場の人間関係に不安があるため	職場の障害理解に不安があるため	職場や活動の場に通うのが困難なため	周囲から止められているため	自分に合った仕事がないため
全体		482	30.5	<b>43.8</b>	6.4	5.0	4.6	1.5	7.9
年代別	18歳以上～40歳未満	29	34.5	0.0	17.2	6.9	10.3	3.4	20.7
	40歳以上～65歳未満	98	<b>57.1</b>	8.2	22.4	18.4	15.3	4.1	21.4
	65歳以上～75歳未満	108	27.8	<b>45.4</b>	1.9	2.8	1.9	0.0	8.3
	75歳以上	230	20.0	<b>64.3</b>	0.0	0.0	0.4	0.9	0.9
障害別	肢体不自由	114	42.1	<b>50.0</b>	3.5	1.8	3.5	0.0	3.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	29	48.3	<b>55.2</b>	3.4	3.4	0.0	0.0	3.4
	視覚障害	44	34.1	<b>54.5</b>	0.0	0.0	2.3	0.0	4.5
	聴覚・平衡機能障害	46	13.0	<b>65.2</b>	2.2	4.3	0.0	2.2	4.3
	内部障害	111	25.2	<b>56.8</b>	1.8	2.7	1.8	0.9	4.5
	知的障害	21	<b>52.4</b>	9.5	19.0	9.5	4.8	0.0	14.3
	発達障害	23	26.1	4.3	34.8	17.4	13.0	4.3	17.4
	精神障害	91	<b>49.5</b>	18.7	23.1	14.3	13.2	5.5	15.4
	高次脳機能障害	11	<b>54.5</b>	36.4	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	132	25.8	<b>45.5</b>	0.8	3.0	3.0	0.8	7.6
	その他	7	<b>28.6</b>	<b>28.6</b>	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0

(単位:%)		n	自分に合った活動の場がないため	働く自信がないため	働く必要がないため	どんな場所があるか分からない	その他	特に理由はない	無回答
全体		482	7.9	15.4	11.4	5.4	6.6	6.0	14.7
年代別	18歳以上～40歳未満	29	24.1	<b>37.9</b>	6.9	13.8	24.1	3.4	6.9
	40歳以上～65歳未満	98	14.3	38.8	10.2	8.2	9.2	5.1	6.1
	65歳以上～75歳未満	108	12.0	10.2	19.4	7.4	4.6	9.3	14.8
	75歳以上	230	1.3	5.2	9.6	2.2	4.8	5.2	18.3
障害別	肢体不自由	114	4.4	5.3	7.9	6.1	7.0	4.4	14.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	29	0.0	6.9	6.9	3.4	10.3	10.3	6.9
	視覚障害	44	2.3	4.5	13.6	0.0	4.5	4.5	22.7
	聴覚・平衡機能障害	46	0.0	4.3	10.9	2.2	6.5	2.2	21.7
	内部障害	111	6.3	10.8	9.9	1.8	3.6	3.6	18.0
	知的障害	21	9.5	9.5	9.5	4.8	9.5	0.0	19.0
	発達障害	23	26.1	<b>56.5</b>	8.7	8.7	8.7	4.3	0.0
	精神障害	91	14.3	39.6	11.0	9.9	8.8	3.3	9.9
	高次脳機能障害	11	18.2	18.2	18.2	9.1	9.1	0.0	27.3
	難病（特定疾病）	132	6.1	9.8	13.6	4.5	7.6	7.6	15.9
	その他	7	0.0	<b>28.6</b>	0.0	14.3	14.3	14.3	28.6

年代別にみると、「18歳以上～40歳未満」では、「働く自信がないため」が37.9%と最も高くなっています。

「40歳以上～65歳未満」では、「障害の程度や症状のため」が57.1%と最も高くなっています。

「65歳以上～75歳未満」と「75歳以上」では「高齢のため」が最も高くなっています。

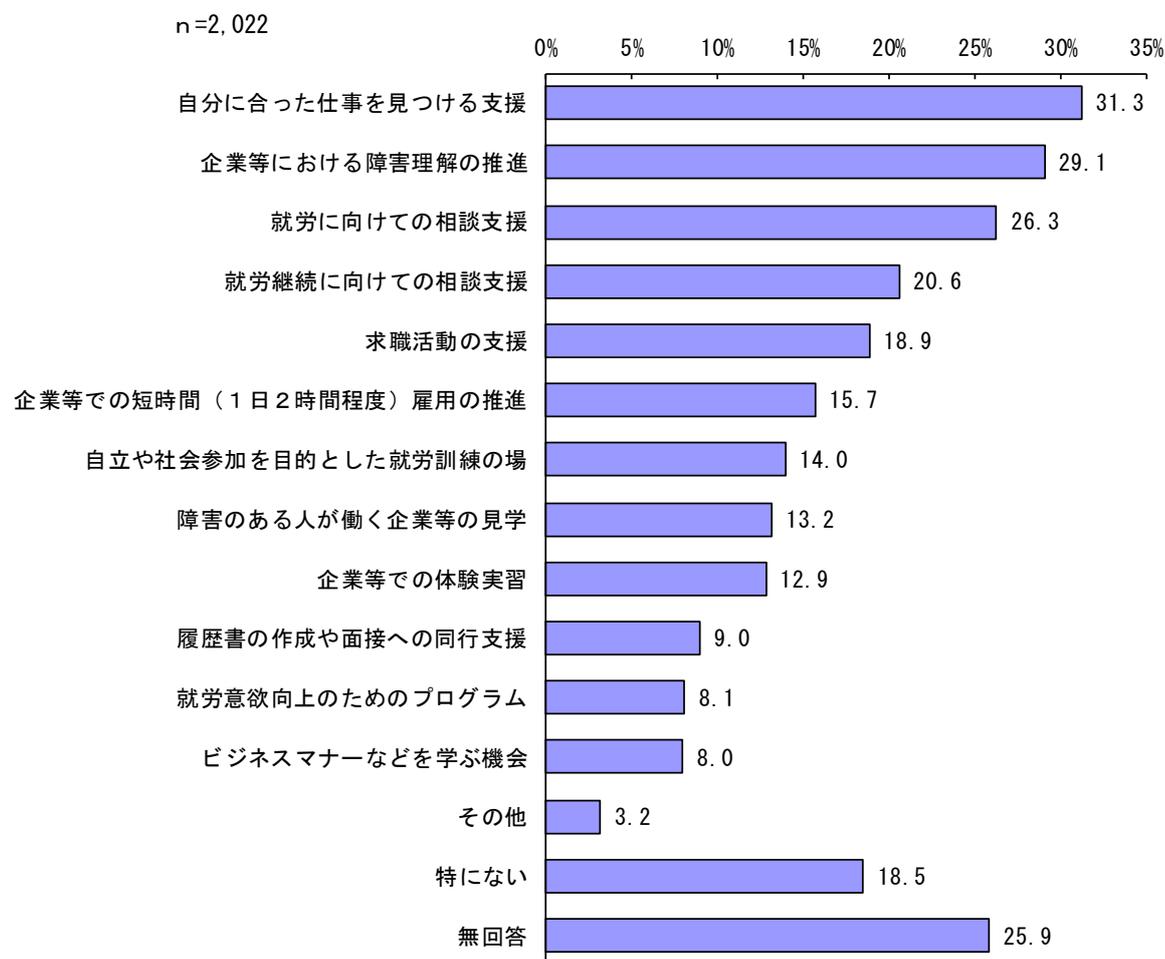
障害別にみると、「知的障害」、「精神障害」、「高次脳機能障害」では、「障害の程度や症状のため」が5割前後で最も高くなっています。

「発達障害」では、「働く自信がないため」が56.5%と5割半ばを超えて最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「高齢のため」が最も高くなっています。

## (8) 就労のために希望する支援

問 32 障害者が一般就労するため希望する支援は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



一般就労するため希望する支援は、「自分に合った仕事を見つける支援」が31.3%と3割を超えて最も高く、次いで「企業等における障害理解の推進」が29.1%、「就労に向けての相談支援」が26.3%と続いています。

一方、「特にない」は18.5%と2割近くとなっています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	就労に向けての相談支援	就労継続に向けての相談支援	障害のある人が働く企業等の見学	企業等での体験実習	自立や社会参加を目的とした就労訓練の場	就労意欲向上のためのプログラム	求職活動の支援	自分に合った仕事を見つける支援
全体	2022	26.3	20.6	13.2	12.9	14.0	8.1	18.9	<b>31.3</b>	
年代別	18歳以上～40歳未満	379	43.5	40.4	24.8	27.2	24.0	15.0	28.5	48.8
	40歳以上～65歳未満	743	30.6	25.3	16.6	14.8	16.6	11.0	23.7	<b>37.8</b>
	65歳以上～75歳未満	318	20.1	10.4	7.5	8.5	11.0	4.4	14.8	<b>26.4</b>
	75歳以上	527	11.8	5.9	3.4	3.0	5.3	1.5	7.4	<b>12.9</b>
障害別	肢体不自由	338	<b>20.1</b>	12.4	8.3	7.7	8.3	3.3	11.8	19.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	20.7	20.7	16.1	12.6	12.6	10.3	10.3	<b>23.0</b>
	視覚障害	145	21.4	13.1	15.2	14.5	15.2	6.9	17.9	19.3
	聴覚・平衡機能障害	158	19.6	16.5	10.8	9.5	8.9	4.4	12.7	<b>26.6</b>
	内部障害	334	17.7	10.8	6.3	4.2	7.5	4.8	12.0	<b>21.9</b>
	知的障害	235	31.5	29.8	16.6	20.9	20.0	11.5	15.7	<b>41.7</b>
	発達障害	150	50.0	50.0	32.0	36.0	30.0	22.7	30.0	<b>55.3</b>
	精神障害	425	34.4	31.8	25.2	22.6	20.5	16.5	26.8	<b>43.3</b>
	高次脳機能障害	31	22.6	19.4	12.9	12.9	22.6	9.7	6.5	<b>38.7</b>
	難病(特定疾病)	606	28.7	21.0	6.8	8.3	12.9	4.5	21.6	28.4
その他	24	12.5	12.5	8.3	20.8	25.0	16.7	20.8	<b>29.2</b>	

(単位:%)		n	ビジネスマナーなどを学ぶ機会	履歴書の作成や面接への同行支援	企業等での短時間(1日2時間程度)雇用の推進	企業等における障害理解の推進	その他	特にない	無回答
全体	2022	8.0	9.0	15.7	29.1	3.2	18.5	25.9	
年代別	18歳以上～40歳未満	379	19.5	21.6	25.3	<b>49.1</b>	5.5	9.0	7.4
	40歳以上～65歳未満	743	8.9	10.1	22.1	36.7	3.4	16.4	14.0
	65歳以上～75歳未満	318	3.1	3.1	11.3	22.0	1.3	25.5	29.9
	75歳以上	527	1.9	2.1	2.5	8.2	2.5	23.9	52.9
障害別	肢体不自由	338	3.8	2.7	8.6	17.8	3.0	19.8	39.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	8.0	5.7	10.3	18.4	4.6	19.5	40.2
	視覚障害	145	9.7	8.3	7.6	<b>28.3</b>	4.1	20.7	34.5
	聴覚・平衡機能障害	158	9.5	5.1	8.9	22.8	1.3	17.7	39.9
	内部障害	334	4.5	4.8	9.9	21.0	1.2	24.9	35.0
	知的障害	235	8.5	14.5	18.3	32.3	4.7	13.6	20.0
	発達障害	150	22.7	26.0	29.3	53.3	4.7	8.0	9.3
	精神障害	425	13.9	19.8	26.4	38.4	5.2	15.5	14.4
	高次脳機能障害	31	9.7	9.7	16.1	25.8	3.2	16.1	32.3
	難病(特定疾病)	606	5.6	5.0	19.3	<b>31.8</b>	2.3	17.7	21.3
その他	24	8.3	12.5	4.2	12.5	0.0	29.2	29.2	

年代別にみると、“18歳以上～40歳未満”では、「企業等における障害理解の推進」が49.1%と5割近くで最も高くなっています。また、いずれの項目も他の年代より高い傾向にあります。

それ以外の年代では、「自分に合った仕事を見つける支援」が最も高くなっています。

障害別にみると、“肢体不自由”では、「就労に向けての相談支援」が20.1%と最も高くなっています。

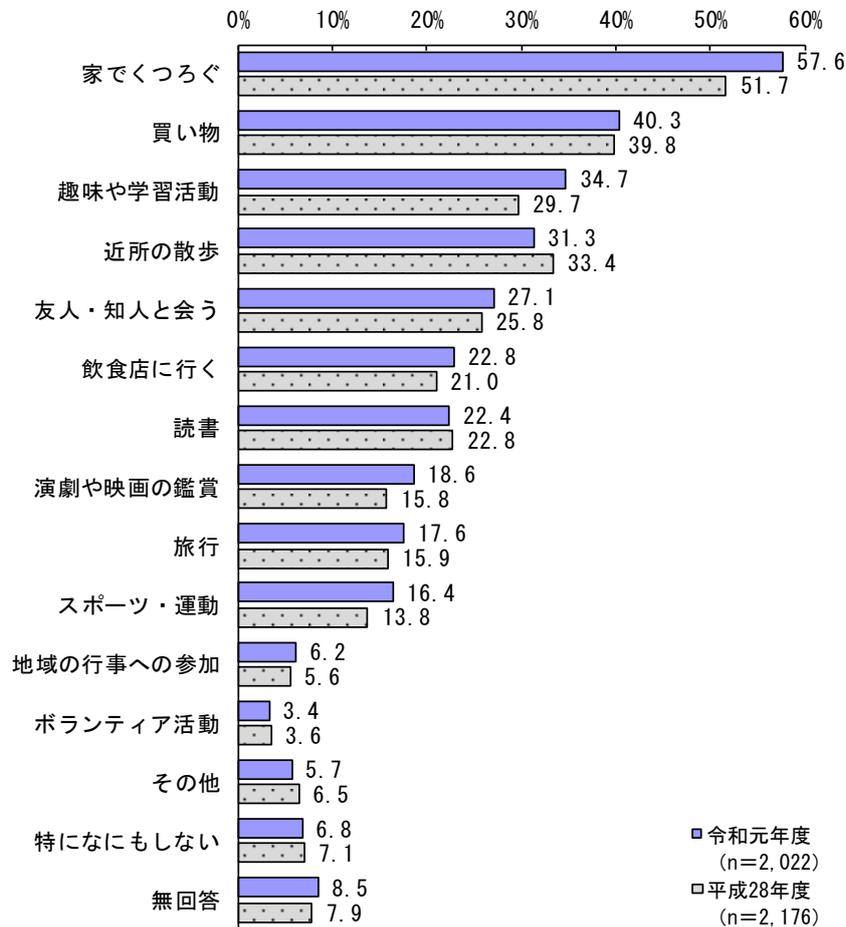
“視覚障害”と“難病(特定疾病)”では、「企業等における障害理解の推進」が最も高くなっています。

“発達障害”では、「就労に向けての相談支援」、「就労継続に向けての相談支援」、「自分に合った仕事を見つける支援」、「企業等における障害理解の推進」で5割を超えて高く、またいずれの項目も全体的に他の障害よりも高い傾向にあります。

それ以外の障害ではいずれも「自分に合った仕事を見つける支援」が最も高くなっています。

(9) 休日の過ごし方

問33 あなたは、休日や余裕のあるときに、どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)



休日の過ごし方は、「家でくつろぐ」が 57.6%と 5 割半ばを超えて最も高く、次いで「買い物」が 40.3%、「趣味や学習活動」が 34.7%、「近所の散歩」が 31.3%と続いています。

一方、「特になにもしない」は 6.8%となっています。

平成 28 年度と比較すると、「家でくつろぐ」が 5.9 ポイント、「趣味や学習活動」が 5.0 ポイント上がっています。それ以外では項目ごとに増減はありますが、大きな差はなく、全体的な傾向はあまり変化ありません。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	趣味や 学習活 動	スポー ツ・運 動	ボラン ティア 活動	友人・ 知人と 会う	演劇や 映画の 鑑賞	買い物	飲食店 に行く	読書
全体	2022	34.7	16.4	3.4	27.1	18.6	40.3	22.8	22.4
障害別									
肢体不自由	338	25.7	11.8	2.4	25.1	13.6	31.7	14.8	22.8
音声・言語・そしゃく機能障害	87	14.9	10.3	2.3	17.2	14.9	35.6	28.7	16.1
視覚障害	145	31.0	17.2	5.5	27.6	15.9	34.5	22.8	15.2
聴覚・平衡機能障害	158	28.5	19.6	6.3	25.9	14.6	39.2	24.7	28.5
内部障害	334	32.9	13.2	4.8	22.8	16.2	30.5	18.6	25.4
知的障害	235	32.3	15.3	0.4	13.6	19.1	43.4	23.0	4.7
発達障害	150	52.7	18.7	2.7	25.3	26.0	43.3	28.7	20.0
精神障害	425	36.5	14.4	2.6	25.6	16.2	44.5	21.6	24.0
高次脳機能障害	31	19.4	9.7	3.2	25.8	19.4	22.6	22.6	25.8
難病（特定疾病）	606	39.3	16.5	3.6	34.7	22.9	45.0	26.9	24.6
その他	24	29.2	4.2	0.0	16.7	4.2	16.7	8.3	8.3

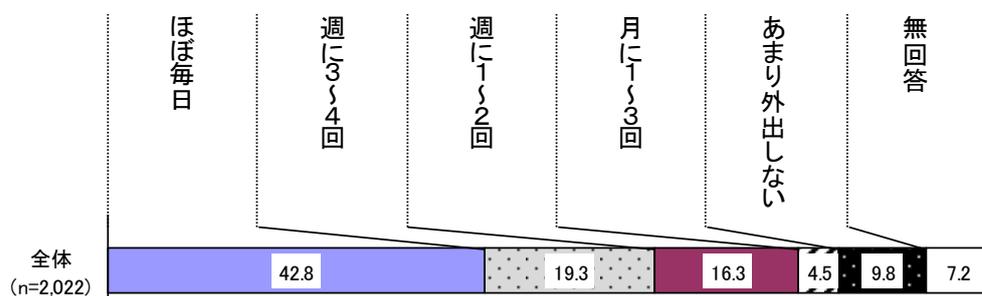
(単位:%)	n	旅行	家でく つろぐ	地域の 行事へ の参加	近所の 散歩	その他	特にな にもし ない	無回答
全体	2022	17.6	<b>57.6</b>	6.2	31.3	5.7	6.8	8.5
障害別								
肢体不自由	338	13.6	<b>50.6</b>	5.3	26.0	4.7	12.4	14.2
音声・言語・そしゃく機能障害	87	18.4	<b>51.7</b>	9.2	36.8	8.0	12.6	12.6
視覚障害	145	17.9	<b>49.0</b>	10.3	29.0	7.6	6.9	16.6
聴覚・平衡機能障害	158	19.0	<b>53.8</b>	8.9	31.6	3.8	6.3	10.8
内部障害	334	15.9	<b>53.6</b>	3.3	32.3	5.1	9.6	11.4
知的障害	235	13.6	<b>68.1</b>	6.4	31.1	8.5	3.4	6.4
発達障害	150	22.0	<b>73.3</b>	6.0	30.7	8.0	2.7	1.3
精神障害	425	9.6	<b>59.3</b>	5.6	29.4	7.5	9.4	4.7
高次脳機能障害	31	16.1	<b>41.9</b>	6.5	38.7	6.5	12.9	16.1
難病（特定疾病）	606	21.1	<b>61.9</b>	4.8	31.5	5.0	4.8	6.9
その他	24	8.3	<b>33.3</b>	8.3	12.5	8.3	16.7	25.0

障害別にみると、いずれの障害も「家でくつろぐ」が最も高くなっています。

“発達障害”では、「趣味や学習活動」が52.7%と5割を超えて他の障害よりも高くなっています。

## (10) 外出の頻度

問 34 あなたはどのくらいの頻度で外出していますか。(○はひとつ)



外出の頻度は、「ほぼ毎日」が42.8%と4割を超えて最も高く、次いで「週に3～4回」が19.3%、「週に1～2回」が16.3%、「あまり外出しない」が9.8%と続いています。

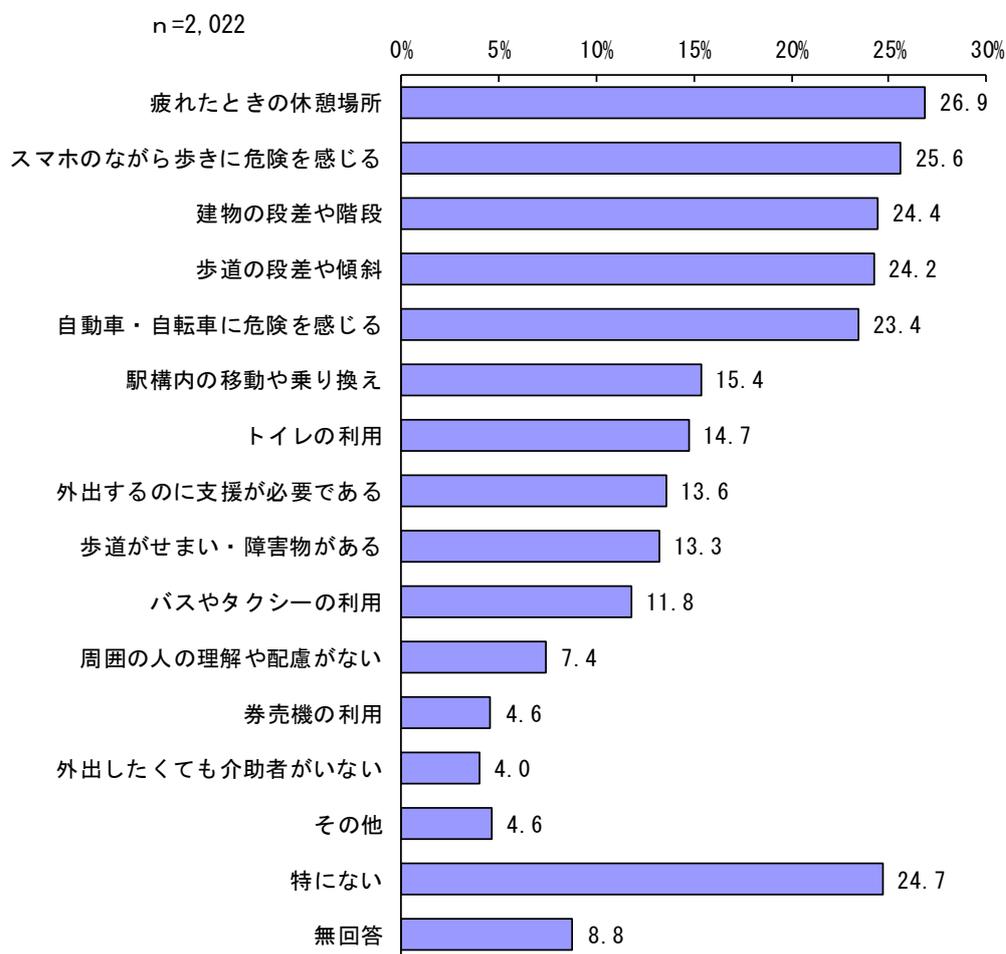
### 【クロス集計】障害別

	n	ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～3回	あまり外出しない	無回答
(単位:%)							
全体	2022	42.8	19.3	16.3	4.5	9.8	7.2
障害別							
肢体不自由	338	26.6	21.6	21.3	4.7	15.4	10.4
音声・言語・そしゃく機能障害	87	27.6	23.0	18.4	3.4	16.1	11.5
視覚障害	145	36.6	17.9	13.8	6.9	12.4	12.4
聴覚・平衡機能障害	158	30.4	27.2	12.7	8.2	12.0	9.5
内部障害	334	39.5	21.6	13.5	5.7	11.1	8.7
知的障害	235	49.8	10.6	18.3	5.1	7.7	8.5
発達障害	150	54.0	18.0	17.3	2.0	6.7	2.0
精神障害	425	44.2	20.0	13.4	4.7	13.2	4.5
高次脳機能障害	31	29.0	22.6	19.4	0.0	16.1	12.9
難病(特定疾病)	606	50.5	16.8	16.3	4.0	6.9	5.4
その他	24	20.8	12.5	25.0	12.5	12.5	16.7

障害別にみると、「その他」を除くいずれの障害でも、「ほぼ毎日」が最も高くなっています。

## (11) 外出時の困りごと

問 35 あなたは、外出に関してどのようなことで困っていますか。(あてはまるものすべてに○)



外出時の困りごとは、「疲れたときの休憩場所」が26.9%と2割半ばを超えて最も高く、次いで「スマホのながら歩きに危険を感じる」が25.6%、「建物の段差や階段」が24.4%、「歩道の段差や傾斜」が24.2%、「自動車・自転車に危険を感じる」が23.4%と2割半ば前後が続いています。

一方、「特にない」は24.7%と2割半ばを占めています。

【クロス集計】障害別

		歩道の 段差や 傾斜	建物の 段差や 階段	バスやタ クシーの 利用	駅構内の 移動や乗 り換え	券売機 の利用	トイレ の利用	歩道がせ まい・障 害物があ る	疲れたと きの休憩 場所
(単位:%)	n								
全体	2022	24.2	24.4	11.8	15.4	4.6	14.7	13.3	<b>26.9</b>
障害別	肢体不自由	338	<b>49.1</b>	43.5	20.7	29.3	3.8	22.2	35.2
	音声・言語・そしやく機能障害	87	28.7	<b>32.2</b>	20.7	23.0	9.2	25.3	26.4
	視覚障害	145	<b>53.8</b>	51.7	18.6	29.0	17.2	22.1	26.9
	聴覚・平衡機能障害	158	28.5	22.8	11.4	17.7	7.0	10.8	25.3
	内部障害	334	<b>30.5</b>	29.9	11.7	12.6	3.3	15.3	29.6
	知的障害	235	14.9	16.6	14.0	16.2	10.6	15.3	18.7
	発達障害	150	8.0	8.7	8.7	15.3	7.3	13.3	22.0
	精神障害	425	11.5	13.9	10.4	10.8	3.1	12.9	<b>32.2</b>
	高次脳機能障害	31	<b>41.9</b>	<b>41.9</b>	25.8	19.4	16.1	22.6	32.3
	難病（特定疾病）	606	24.9	25.2	10.4	13.7	2.1	15.8	<b>28.7</b>
	その他	24	<b>41.7</b>	<b>41.7</b>	20.8	25.0	4.2	25.0	25.0

		自動車・ 自転車に 危険を感じ る	スマホの ながら歩 きに危険 を感じる	外出する のに支援 が必要で ある	外出した くても介 助者がい ない	周囲の人 の理解や 配慮がな い	その他	特にな い	無回答
(単位:%)	n								
全体	2022	23.4	25.6	13.6	4.0	7.4	4.6	24.7	8.8
障害別	肢体不自由	338	27.5	33.1	19.8	8.3	5.0	4.1	11.2
	音声・言語・そしやく機能障害	87	19.5	24.1	29.9	11.5	5.7	2.3	12.6
	視覚障害	145	51.0	42.8	34.5	9.7	15.2	6.9	9.7
	聴覚・平衡機能障害	158	<b>33.5</b>	27.2	12.7	6.3	3.2	5.7	12.7
	内部障害	334	22.5	23.4	11.1	3.6	5.7	5.1	10.5
	知的障害	235	21.3	17.4	<b>38.7</b>	7.7	12.3	2.6	8.5
	発達障害	150	<b>25.3</b>	18.0	24.0	6.7	14.0	7.3	5.3
	精神障害	425	17.6	21.4	10.1	3.5	9.9	8.2	8.5
	高次脳機能障害	31	32.3	19.4	22.6	6.5	6.5	0.0	16.1
	難病（特定疾病）	606	21.1	25.2	9.2	2.0	4.0	2.8	6.3
	その他	24	20.8	33.3	20.8	12.5	16.7	16.7	12.5

障害別にみると、身体障害をお持ちの方では、「歩道の段差や傾斜」や「建物の段差や階段」といった移動の際の困難が高い傾向にあり、特に“視覚障害”では、「歩道の段差や傾斜」、「建物の段差や階段」、「自動車・自転車に危険を感じる」で5割を超えて高くなっています。

“聴覚・平衡機能障害”と“発達障害”では、「自動車・自転車に危険を感じる」が最も高くなっています。

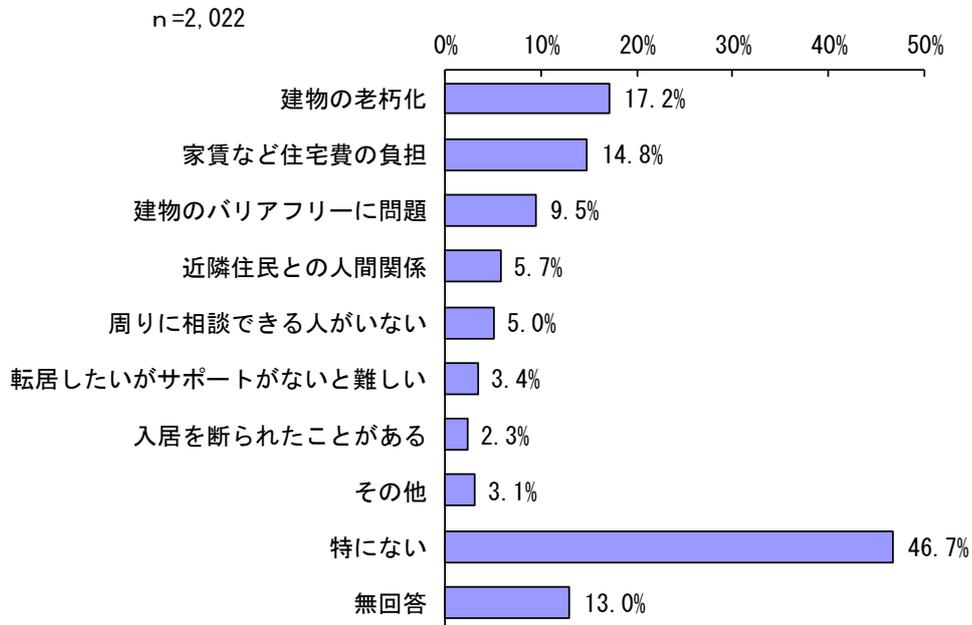
“知的障害”では、「外出するのに支援が必要である」が38.7%と4割近くで、他の障害に比べ高くなっています。また、“視覚障害”でも34.5%と3割半ばになっています。

“精神障害”と“難病（特定疾病）”では、「疲れたときの休憩場所」が最も高くなっています。また、“肢体不自由”と“高次脳機能障害”でも3割を超えて高くなっています。

## 6 住まいについて

### (1) 住まいでの困りごと

問 36 あなたは、住まいに関してどのようなことで困っていますか。(あてはまるものすべてに○)



住まいでの困りごとは、「建物の老朽化」が17.2%と最も高く、次いで「家賃など住宅費の負担」が14.8%、「建物のバリアフリーに問題」が9.5%と続いています。

一方、「特にない」は46.7%と4割半ばを超えています。

【クロス集計】同居家族別・障害別

	(単位:%)	n	建物のバリアフリーに問題	建物の老朽化	家賃など住宅費の負担	近隣住民との人間関係	転居したいがサポートがないと難しい
全体		2022	9.5	17.2	14.8	5.7	3.4
同居家族別							
家族等と同居		1464	9.8	17.6	11.7	4.8	2.1
ひとり暮らし		466	9.2	17.4	25.3	9.2	7.3
グループホーム等での集団生活		52	3.8	3.8	5.8	1.9	0.0
その他		44	6.8	6.8	13.6	2.3	4.5
障害別							
肢体不自由		338	22.8	16.3	12.7	3.0	2.7
音声・言語・そしゃく機能障害		87	13.8	13.8	5.7	5.7	6.9
視覚障害		145	11.7	15.9	17.2	3.4	3.4
聴覚・平衡機能障害		158	10.1	15.8	10.8	8.2	1.9
内部障害		334	11.1	16.5	12.3	3.3	1.5
知的障害		235	6.0	12.3	7.7	5.1	2.1
発達障害		150	4.0	18.0	17.3	14.7	4.0
精神障害		425	6.8	26.6	20.5	14.8	10.4
高次脳機能障害		31	16.1	16.1	19.4	6.5	3.2
難病（特定疾病）		606	9.4	16.2	15.7	2.6	1.0
その他		24	16.7	25.0	16.7	8.3	8.3

	(単位:%)	n	周りに相談できる人がいない	入居を断られたことがある	その他	特にない	無回答
全体		2022	5.0	2.3	3.1	46.7	13.0
同居家族別							
家族等と同居		1464	3.1	0.8	2.5	50.4	12.7
ひとり暮らし		466	12.0	5.8	5.4	35.2	11.4
グループホーム等での集団生活		52	0.0	5.8	1.9	55.8	26.9
その他		44	4.5	6.8	2.3	52.3	18.2
障害別							
肢体不自由		338	3.6	0.9	1.2	40.2	18.0
音声・言語・そしゃく機能障害		87	6.9	1.1	3.4	41.4	25.3
視覚障害		145	4.1	2.1	1.4	44.1	17.2
聴覚・平衡機能障害		158	7.0	1.9	3.8	39.2	21.5
内部障害		334	5.4	0.9	1.5	49.1	15.6
知的障害		235	3.8	3.8	4.7	52.8	17.4
発達障害		150	9.3	2.7	8.0	42.0	10.0
精神障害		425	11.5	6.1	6.4	35.3	8.5
高次脳機能障害		31	6.5	3.2	0.0	35.5	22.6
難病（特定疾病）		606	2.3	0.8	2.5	52.1	9.4
その他		24	4.2	8.3	12.5	33.3	12.5

同居家族別に見ると、“家族と同居”では、「建物の老朽化」が17.6%と最も高くなっています。

それ以外ではいずれも「家賃など住宅費の負担」が最も高く、“グループホーム等での集団生活”では「入居を断られたことがある」も同じ割合で最も高くなっています。

“ひとり暮らし”では、「周りに相談できる人がいない」が12.0%と他の住まいの人に比べ高くなっています。

障害別にみると、“肢体不自由”と“音声・言語・そしゃく機能障害”では、「建物のバリアフリーに問題」が最も高くなっています。

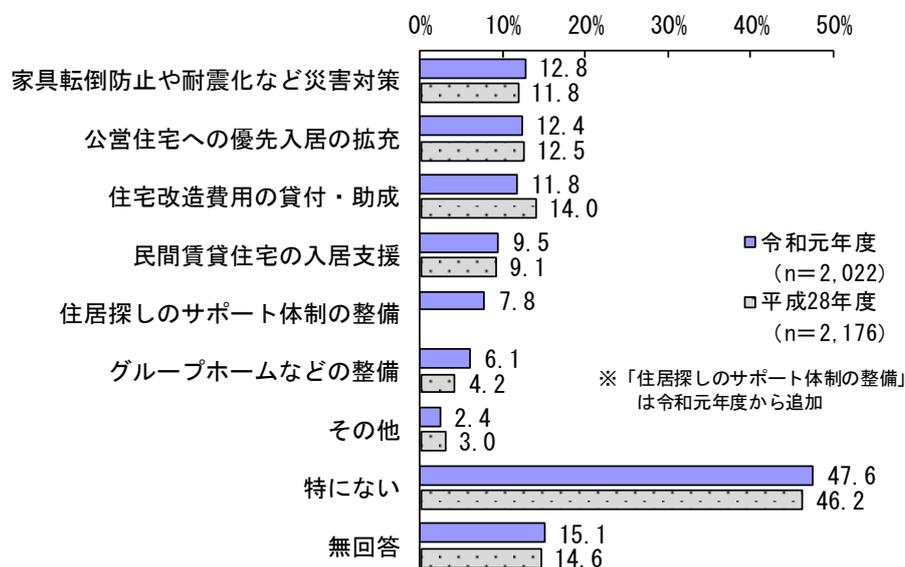
“視覚障害”と“高次脳機能障害”では、「家賃など住宅費の負担」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「建物の老朽化」が最も高くなっています。

また、“発達障害”と“精神障害”では「近隣住民との人間関係」が他の障害に比べて高くなっています。

## (2) 住まいで必要な支援

問37 あなたは、住まいに関してどのような支援を必要としていますか。(あてはまるものすべてに○)



住まいで必要な支援は、「家具転倒防止や耐震化など災害対策」が 12.8%、「公営住宅への優先入居の拡充」が 12.4%、「住宅改造費用の貸付・助成」が 11.8%と 1 割台が続いています。

一方、「特にない」は 47.6%と 4 割半ばを超えています。

平成 28 年度と比較すると、「住宅改造費用の貸付・助成」が 2.2 ポイント下がっているなど、項目ごとに増減はありますが、大きな差はなく、全体的な傾向はあまり変化がありません。

【クロス集計】同居家族別・障害別

(単位:%)	n	住宅改造費用の貸付・助成	家具転倒防止や耐震化など災害対策	公営住宅への優先入居の拡充	民間賃貸住宅の入居支援	グループホームなどの整備
全体	2022	11.8	12.8	12.4	9.5	6.1
同居家族別						
家族等と同居	1464	13.0	13.3	9.5	7.3	6.4
ひとり暮らし	466	10.1	12.4	22.3	16.5	3.9
グループホーム等での集団生活	52	0.0	5.8	5.8	5.8	32.7
その他	44	4.5	4.5	9.1	4.5	0.0
障害別						
肢体不自由	338	14.8	14.2	10.7	6.8	5.0
音声・言語・そしゃく機能障害	87	8.0	10.3	8.0	6.9	9.2
視覚障害	145	12.4	15.2	11.7	10.3	3.4
聴覚・平衡機能障害	158	10.8	17.1	9.5	6.3	3.2
内部障害	334	14.7	12.3	10.8	8.7	2.4
知的障害	235	6.4	4.7	9.4	6.4	27.7
発達障害	150	8.0	14.0	17.3	17.3	19.3
精神障害	425	13.4	17.9	23.3	17.6	7.5
高次脳機能障害	31	9.7	19.4	16.1	3.2	3.2
難病（特定疾病）	606	12.0	10.1	8.6	6.9	2.1
その他	24	20.8	12.5	20.8	8.3	8.3

(単位:%)	n	住居探しのサポート体制の整備	その他	特にない	無回答
全体	2022	7.8	2.4	47.6	15.1
同居家族別					
家族等と同居	1464	6.1	2.0	50.6	14.3
ひとり暮らし	466	13.3	4.1	39.9	15.7
グループホーム等での集団生活	52	0.0	3.8	36.5	21.2
その他	44	4.5	2.3	52.3	27.3
障害別					
肢体不自由	338	5.9	2.4	43.8	18.3
音声・言語・そしゃく機能障害	87	6.9	5.7	42.5	25.3
視覚障害	145	9.0	0.0	40.7	23.4
聴覚・平衡機能障害	158	2.5	3.2	40.5	25.9
内部障害	334	5.4	2.4	45.8	18.3
知的障害	235	10.2	1.7	41.3	17.0
発達障害	150	18.7	2.7	38.0	10.0
精神障害	425	16.2	4.7	39.8	11.1
高次脳機能障害	31	9.7	0.0	45.2	25.8
難病（特定疾病）	606	5.1	1.5	58.7	11.4
その他	24	12.5	4.2	33.3	20.8

同居家族別に見ると、“家族と同居”では、「家具転倒防止や耐震化など災害対策」が13.3%と最も高くなっています。

“グループホーム等での集団生活”では「グループホームなどの整備」が32.7%と3割を超えて最も高くなっています。

“ひとり暮らし”と“その他”では、「公営住宅への優先入居の拡充」が最も高くなっていますが、特に“ひとり暮らし”では22.3%と2割を超えており、また「民間賃貸住宅の入居支援」も16.5%と他の住まいの人に比べ高くなっています。

障害別にみると、“精神障害”と“その他”では、「公営住宅への優先入居の拡充」が最も高くなっています。

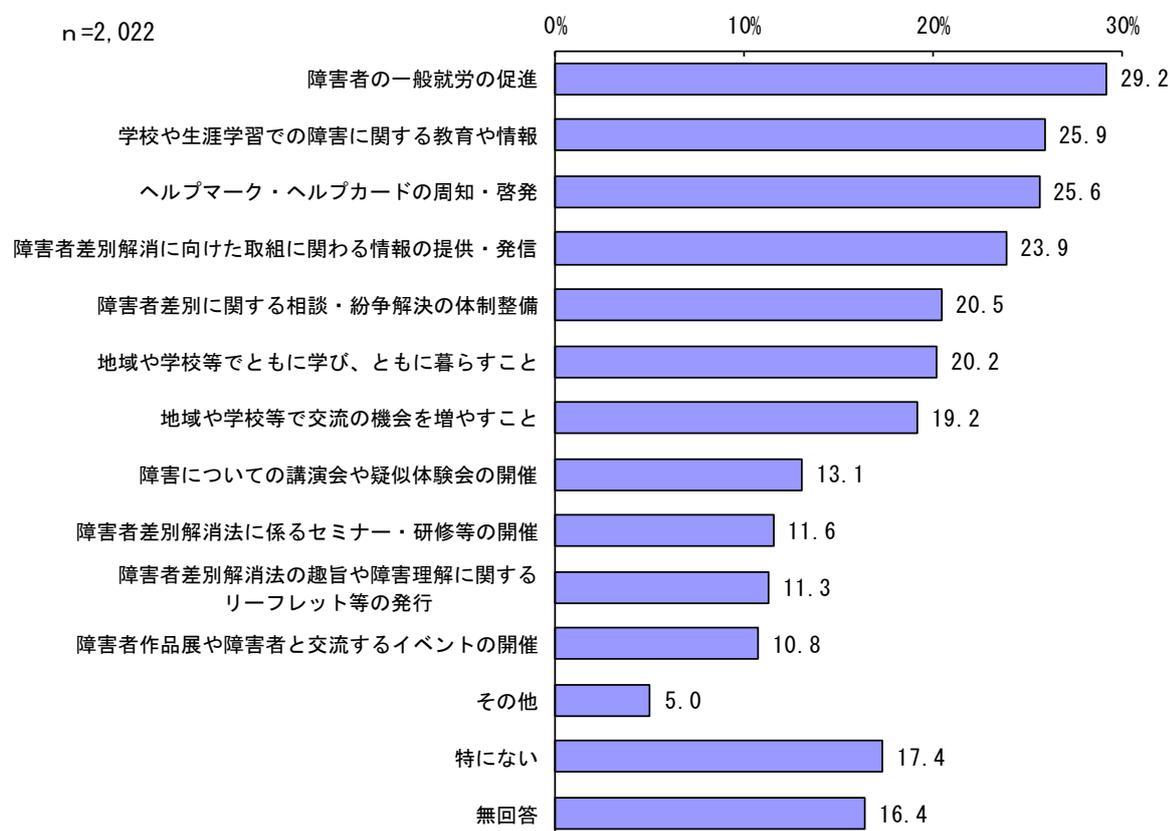
“知的障害”と“発達障害”では、「グループホームなどの整備」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「住宅改造費用の貸付・助成」か「家具転倒防止や耐震化など災害対策」が最も高くなっています。

## 7 差別解消について

### (1) 差別解消に必要なこと

問 38 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



障害者の差別解消を進めていくために必要なことは、「障害者の一般就労の促進」が29.2%と約3割で最も高く、次いで「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が25.9%、「ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発」が25.6%と2割半ばで続いています。

一方、「特にない」は17.4%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備	障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信	障害者差別解消に係るセミナー・研修等の開催	障害者差別解消の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行	障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催	地域や学校等で交流の機会を増やすこと	地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
全体	2022	20.5	23.9	11.6	11.3	10.8	19.2	20.2
障害別								
肢体不自由	338	17.2	19.5	7.1	6.5	8.0	15.1	17.8
音声・言語・そしゃく機能障害	87	23.0	<b>24.1</b>	11.5	8.0	13.8	23.0	<b>24.1</b>
視覚障害	145	19.3	29.0	12.4	17.9	13.1	23.4	20.7
聴覚・平衡機能障害	158	20.3	17.7	11.4	11.4	10.8	16.5	16.5
内部障害	334	15.6	21.9	5.4	6.3	7.2	13.5	14.4
知的障害	235	24.3	26.8	16.2	15.3	23.0	30.6	<b>33.2</b>
発達障害	150	36.7	38.0	22.0	23.3	21.3	27.3	30.0
精神障害	425	26.6	28.5	16.7	15.5	11.1	15.8	15.8
高次脳機能障害	31	12.9	<b>25.8</b>	12.9	12.9	12.9	22.6	16.1
難病(特定疾病)	606	18.0	23.4	9.9	9.4	8.3	22.9	23.8
その他	24	12.5	16.7	8.3	16.7	12.5	20.8	12.5

(単位:%)	n	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報の提供	障害についての講演会や疑似体験会の開催	障害者の一般就労の促進	ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発	その他	特になし	無回答
全体	2022	25.9	13.1	<b>29.2</b>	25.6	5.0	17.4	16.4
障害別								
肢体不自由	338	<b>21.9</b>	10.1	20.4	21.3	3.6	18.3	22.5
音声・言語・そしゃく機能障害	87	20.7	8.0	21.8	<b>24.1</b>	3.4	19.5	24.1
視覚障害	145	<b>29.7</b>	19.3	24.1	22.8	4.8	17.9	20.0
聴覚・平衡機能障害	158	19.6	17.1	<b>24.7</b>	20.3	3.2	22.8	23.4
内部障害	334	18.9	9.3	20.1	<b>24.9</b>	3.0	21.3	22.8
知的障害	235	29.4	13.6	29.8	29.4	4.7	13.6	11.9
発達障害	150	36.0	19.3	<b>46.0</b>	35.3	8.0	7.3	7.3
精神障害	425	24.9	15.5	<b>40.0</b>	27.3	8.9	16.0	9.4
高次脳機能障害	31	19.4	16.1	22.6	<b>25.8</b>	6.5	22.6	22.6
難病(特定疾病)	606	<b>32.5</b>	11.9	30.2	28.7	3.6	16.5	14.4
その他	24	20.8	8.3	8.3	<b>25.0</b>	16.7	8.3	33.3

障害別にみると、「音声・言語・そしゃく機能障害」と「高次脳機能障害」では、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が最も高くなっています。

「音声・言語・そしゃく機能障害」と「知的障害」では、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が最も高くなっています。また「発達障害」でも3割と高くなっています。

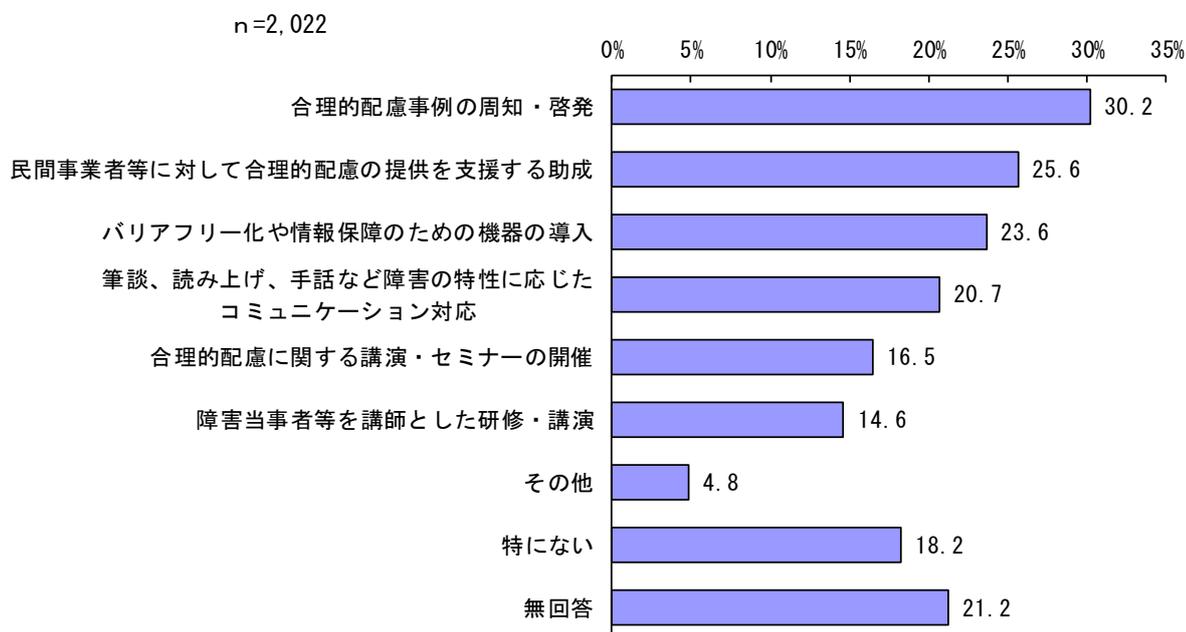
「肢体不自由」、「視覚障害」、「難病(特定疾病)」では、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が最も高くなっています。

「内部障害」、「発達障害」、「精神障害」では、「障害者の一般就労の促進」が最も高く、特に「発達障害」と「精神障害」では4割を超えて他の障害よりも高くなっています。

「ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発」はいずれの障害でも2割を超えて高く、特に「発達障害」では35.3%と3割半ばを超えています。

## (2) 合理的配慮に必要なこと

問 39 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思われるか。(あてはまるものすべてに○)



合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が30.2%と3割で最も高く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が25.6%、「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が23.6%と続いています。

一方、「特にない」は18.2%となっています。

## 【クロス集計】障害別

(単位:%)		合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	合理的配慮事例の周知・啓発	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修・講演	
	n						
全体	2022	16.5	30.2	20.7	23.6	14.6	
障害別	肢体不自由	338	12.7	25.1	16.6	<b>32.0</b>	9.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	16.1	<b>27.6</b>	19.5	26.4	9.2
	視覚障害	145	13.1	30.3	31.7	<b>33.8</b>	17.9
	聴覚・平衡機能障害	158	16.5	20.3	<b>33.5</b>	29.7	14.6
	内部障害	334	11.7	<b>26.6</b>	14.7	23.4	8.7
	知的障害	235	22.1	<b>38.7</b>	23.4	19.6	17.9
	発達障害	150	30.0	47.3	30.0	26.0	25.3
	精神障害	425	21.4	<b>34.6</b>	17.9	16.0	21.2
	高次脳機能障害	31	22.6	<b>29.0</b>	6.5	25.8	12.9
	難病(特定疾病)	606	14.9	<b>32.5</b>	22.3	27.6	13.0
その他	24	<b>20.8</b>	<b>20.8</b>	<b>20.8</b>	<b>20.8</b>	<b>20.8</b>	

(単位:%)		民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成	その他	特にない	無回答	
	n					
全体	2022	<b>25.6</b>	4.8	18.2	21.2	
障害別	肢体不自由	338	20.1	4.1	15.7	25.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	17.2	0.0	14.9	26.4
	視覚障害	145	24.8	1.4	17.9	24.1
	聴覚・平衡機能障害	158	19.0	0.6	15.8	28.5
	内部障害	334	21.0	3.0	21.6	27.5
	知的障害	235	31.9	4.7	18.3	18.7
	発達障害	150	<b>48.0</b>	8.7	12.0	9.3
	精神障害	425	28.9	8.0	20.2	15.8
	高次脳機能障害	31	22.6	9.7	16.1	29.0
	難病(特定疾病)	606	28.2	4.3	17.3	18.2
その他	24	16.7	12.5	16.7	33.3	

障害別にみると、“聴覚・平衡機能障害”では、「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」が33.5%と最も高く、“視覚障害”と“発達障害”でも3割を超えて他の障害よりも高くなっています。

“肢体不自由”と“視覚障害”では、「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が3割を超えて最も高くなっています。

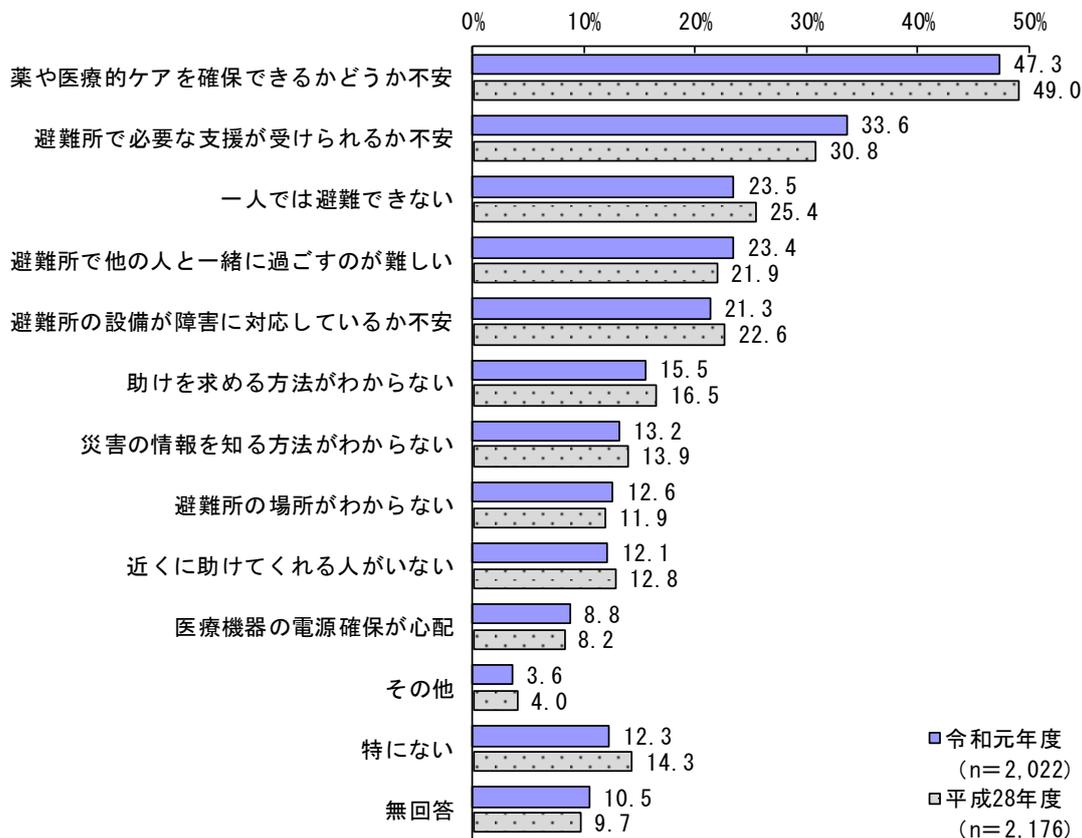
“発達障害”では「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が48.0%と最も高くなっています。

それ以外の障害では「合理的配慮事例の周知・啓発」が最も高くなっています。

## 8 災害対策について

### (1) 災害発生時の困りごと

問 40 あなたが、地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



災害発生時の困りごとは、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が47.3%と4割半ばを超えて最も高く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が33.6%、「一人では避難できない」が23.5%、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が23.4%と続いています。

一方、「特になし」は12.3%となっています。

平成28年度と比較すると、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が2.8ポイント上がっているなど、項目ごとに増減はありますが、大きな差はなく、全体的な傾向はあまり変化ありません。

【クロス集計】障害別

(単位：%)	n	災害の情報を 知る方法がわ からない	助けを求め る方法がわ からない	避難所の 場所がわ からない	近くに助け てくれる人 がいない	一人では 避難でき ない	避難所の設備 が障害に対応 しているか不 安	避難所で必要 な支援が受け られるか不安
全体	2022	13.2	15.5	12.6	12.1	23.5	21.3	33.6
障害別								
肢体不自由	338	10.4	14.8	12.7	13.9	<b>40.5</b>	34.3	35.5
音声・言語・そしゃく機能障害	87	17.2	20.7	14.9	16.1	<b>44.8</b>	26.4	34.5
視覚障害	145	24.1	26.2	17.9	17.2	<b>46.2</b>	31.7	37.2
聴覚・平衡機能障害	158	25.3	15.2	14.6	14.6	28.5	20.9	<b>30.4</b>
内部障害	334	9.0	12.9	9.6	11.1	21.6	18.0	29.9
知的障害	235	29.4	32.3	22.6	13.2	51.5	30.2	<b>46.0</b>
発達障害	150	24.0	32.0	20.0	16.7	30.7	28.7	48.7
精神障害	425	14.8	20.0	17.9	21.4	19.5	19.5	36.5
高次脳機能障害	31	16.1	19.4	22.6	25.8	<b>38.7</b>	29.0	29.0
難病（特定疾病）	606	6.1	7.9	6.8	5.9	14.4	17.5	33.8
その他	24	8.3	20.8	12.5	12.5	29.2	20.8	<b>54.2</b>

(単位：%)	n	避難所で他 の人と一緒 に過ごすの が難しい	薬や医療的 ケアを確保 できるかど うか不安	医療機器 の電源確 保が心配	その他	特になし	無回答
全体	2022	23.4	<b>47.3</b>	8.8	3.6	12.3	10.5
障害別							
肢体不自由	338	21.6	38.2	10.9	2.4	10.1	14.5
音声・言語・そしゃく機能障害	87	26.4	39.1	12.6	3.4	8.0	16.1
視覚障害	145	21.4	27.6	4.1	2.8	9.7	16.6
聴覚・平衡機能障害	158	13.9	27.8	12.7	2.5	12.7	18.4
内部障害	334	15.3	<b>57.5</b>	18.0	1.5	9.0	13.8
知的障害	235	42.1	28.9	5.5	4.3	10.6	9.4
発達障害	150	<b>51.3</b>	37.3	3.3	4.0	12.0	5.3
精神障害	425	36.2	<b>60.0</b>	6.1	5.2	11.1	5.4
高次脳機能障害	31	16.1	<b>38.7</b>	16.1	0.0	9.7	19.4
難病（特定疾病）	606	17.0	<b>62.5</b>	9.4	4.3	12.2	6.4
その他	24	20.8	41.7	0.0	0.0	12.5	8.3

障害別にみると、「肢体不自由」、「音声・言語・そしゃく機能」、「視覚障害」、「高次脳機能障害」では、「一人では避難できない」が4割前後と最も高くなっています。また「知的障害」では51.5%と5割を超えて他の障害よりも高くなっています。

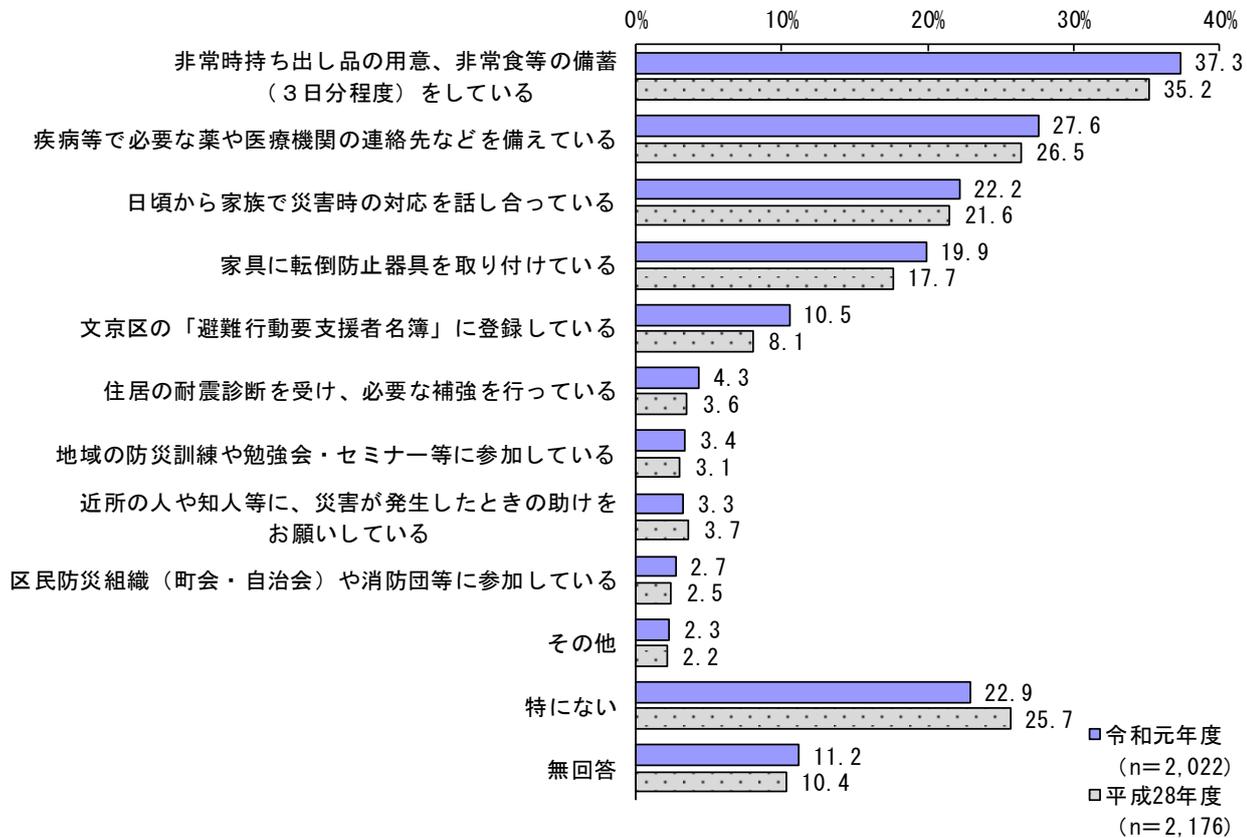
「聴覚・平衡機能障害」、「知的障害」、「その他」では、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が最も高くなっています。また、いずれの障害でも高い割合となっています。

「発達障害」では、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が51.3%と5割を超えて最も高くなっています。また「知的障害」と「精神障害」でも他の障害よりも高くなっています。

「内部障害」、「精神障害」、「高次脳機能障害」、「難病（特定疾病）」では、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が最も高くなっています。特に「内部障害」、「精神障害」、「難病（特定疾病）」では6割前後と高くなっています。また、いずれの障害でも高い割合となっています。

## (2) 災害に対する備え

問 41 あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。(あてはまるものすべてに○)



災害に対する備えは、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日分程度)をしている」が37.3%と3割半ばを超えて最も高く、次いで「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が27.6%、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が22.2%と2割を超えて続いています。

一方、「特にない」は22.9%と2割を超えています。

平成28年度と比較すると、「近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けを願っている」以外は、いずれの備えも上がっており、反対に「特にない」は2.8ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)		n	日頃から家族で災害時の対応を話し合っている	非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日分程度)をしている	疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている	近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている	文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している	家具に転倒防止器具を取り付けている
全体		2022	22.2	<b>37.3</b>	27.6	3.3	10.5	19.9
障害別	肢体不自由	338	18.6	<b>35.5</b>	27.2	3.3	20.1	24.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	9.2	<b>27.6</b>	18.4	6.9	19.5	18.4
	視覚障害	145	26.9	<b>51.0</b>	25.5	7.6	28.3	24.8
	聴覚・平衡機能障害	158	22.8	<b>39.9</b>	16.5	7.0	12.7	24.1
	内部障害	334	21.3	<b>38.9</b>	36.8	2.7	8.7	20.4
	知的障害	235	26.4	<b>36.6</b>	16.2	3.0	28.1	21.3
	発達障害	150	27.3	<b>38.7</b>	20.7	3.3	16.7	17.3
	精神障害	425	17.4	<b>28.2</b>	23.1	1.6	4.7	15.8
	高次脳機能障害	31	25.8	25.8	<b>29.0</b>	12.9	16.1	16.1
	難病(特定疾病)	606	23.6	<b>46.5</b>	40.6	2.1	6.3	21.3
その他	24	12.5	<b>41.7</b>	25.0	4.2	16.7	12.5	

(単位:%)		n	住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている	区民防災組織(町会・自治会)や消防団等に参加している	地域の防災訓練や勉強会・セミナー等に参加している	その他	特になし	無回答
全体		2022	4.3	2.7	3.4	2.3	22.9	11.2
障害別	肢体不自由	338	5.3	2.7	1.8	2.7	19.8	14.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	6.9	1.1	2.3	2.3	26.4	19.5
	視覚障害	145	7.6	4.8	7.6	1.4	13.8	14.5
	聴覚・平衡機能障害	158	5.1	1.9	3.8	3.2	15.8	17.7
	内部障害	334	3.6	3.9	3.3	3.0	18.0	14.7
	知的障害	235	3.8	1.7	2.1	2.6	21.3	11.1
	発達障害	150	5.3	1.3	2.0	1.3	25.3	5.3
	精神障害	425	3.5	2.1	2.4	3.8	33.2	8.5
	高次脳機能障害	31	3.2	9.7	3.2	3.2	22.6	19.4
	難病(特定疾病)	606	4.5	1.8	3.8	1.5	19.0	7.6
その他	24	0.0	4.2	0.0	0.0	29.2	20.8	

障害別にみると、“高次脳機能障害”では、「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が29.0%と最も高くなっています。また、“難病(特定疾病)”では40.6%と4割で他の障害よりも高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日分程度)をしている」が最も高くなっています。

## 9 自由意見

問 42 区の障害者福祉施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見は484件ありました。「福祉」についての意見が22.2%と最も多く、次いで「行政」が14.9%、「生活環境」が11.6%となっています。

主な意見は下記の通りです。

	総数	福祉	行政	生活環境	アンケート	障害理解	情報・相談	将来	雇用・就労	保健・医療	障害・疾患	災害	その他
自由意見	484	22.2	14.9	11.6	8.5	8.3	7.9	5.4	5.0	4.8	4.3	2.3	5.2

### ◆主な意見（内容は要約・省略しています）

#### 1. 福祉（107件）

- ・障害福祉サービスを利用したくても対象疾病外だったり、難病の人間にはまだまだ優しくない。
- ・精神障害者への施策が少ないと思います（特に2級以下）。あと、発達障害への理解もかなり少ないです。
- ・福祉利用に対する条件が年々厳しくなり今まで使えたサービスが使えなくなっている。重度の人はいいが、その手前の症状の人はどんどん見捨てられている感がある。
- ・文京区の支援は充実されているように感じています。ただ、障害者当人だけでなく、その介助にあたるキーポイント（主なる介護者）に対する支援が全国的に不足しているように思います。在宅介護を推進されつつある現在、これからは介護をする家族が（特に老老介護のケース）利用しやすい支援策を充実させていただけることを希望しています。
- ・精神障害は意思疎通が難しいため介助者は大変です。身体障害の方なみの「程度別対象事業」の拡充をお願いしたい。
- ・同行援護や居宅介護の時間数を増やして欲しい。障害者手当やタクシー券の金額を増やして欲しい。各種ヘルパーの待遇改善に力を入れて欲しい。放置自転車、看板等に対して対応して欲しい。点字ブロック、音声信号の設備を更に進めてほしい。家賃補助制度を確立してほしい。
- ・盲ろう者なので手話会や他の障がい者グループとの連携をしてほしい。手話言語条例への理解をより進めて、手話（触手話含む）を増やしてほしい。盲ろう者への支援（区内で盲ろう者が利用できるガイドヘルプサービス）を増やしてほしい。
- ・24時間対応の緊急時相談ダイヤルがほしい。緊急時のショートステイが2床確保されることになっていたが、実際は空いていなければ使えないので確保してほしい。地域生活支援拠点の整備が精神障害者を主に対象とする施設中心に行われる計画になっているが、知的障害者を主に対象とする事業所に入るように対策してほしい。
- ・ショートステイをせめて3泊4日くらい利用出来る施設を増やしてほしい。

## 2. 行政（72件）

- ・手続きの紙が多すぎる。名前、住所等同じ事を何度も書かされる。手続き完了までの期間が長すぎる。ネットやメールで手続きを出来るようになると有り難い。
- ・都営交通乗車証が非常に助かっております。区役所で手帳の交付等の記入や面談スペースが個室になると話しやすくなると思います。
- ・特定医療費（指定難病）受給者証の更新手続きについて、平日は仕事をしているので休日も申請窓口を開設していただけると大変助かります。
- ・窓口の受付時間を月1回でもいいので夜まであけてほしい。仕事の終わる時間に間に合わない。
- ・当事者抜きで行われるサービスや施策の決定を防ぐこと。必要な人に必要なサービスが届く、または情報を届ける。情報にアクセスできる環境を整える事が急務。区のアプリもウェブサイトも使い勝手はかなり悪い。窓口へ出向くのはハードルが高い。充実したサポートの提供をうたっていても、必要なところに届かなければ無意味。福祉等のサポートが必要になった時こそ情報へのリサーチは難しい。入口を分かりやすく皆が他人事ではないと理解して、種々の施策を検討してほしい。
- ・障がい者福祉の予算を増やして下さい。区職員全員に障がい者体験の研修を行って下さい。
- ・インターネットの時代なのに、様々な手続き等で役所に出向かなくてはならず、（障害者手帳、保険など）、また、手続きによっては、有効期限内に、自分で、更新しなければならない等、不便極まりないと思います。自動更新、郵送での処理が望まれます。
- ・申請、更新時の手続きの煩雑さを緩和できるような取組をお願いしたい。就労している自分でも難しいことを、高齢者や高齢介助者、障害のある方には、大変ハードルが高く感じる。

## 3. 生活環境（56件）

- ・障がい者優先のエレベーター等もなく、途中で乗れずに困っていたのを見た。歩道に出ている工事現場が多く、車いすや高齢者が通行するのに不便なことがよく見られた。
- ・令和になってこちらの区に越してきました。以前暮らしていた場所より行政のサポート面では充実していると思います。ですが、住民同士の繋がりの薄さや、外出した際のトイレの少なさなどは困った問題です。
- ・歩きスマホを禁止にする対策（歩きタバコ禁止なみの対策が必要）。自転車のルール整備。お年寄りも多く、電動自転車の若いお母さんたちの運転ですぐに避けたりできないので、ルールを作ってほしいです。
- ・障害（知的・自閉症）者が賃貸で部屋を借りようとすると断られる。区内に住居を探しています。
- ・車椅子利用者にとって電動車椅子と手動の車椅子の使い分けは日常生活において必須です。電動車椅子を補助を受け作製すると、その後手動車椅子作製時に補助が受けられなくなるという制度がありますが、これを撤廃していただきたいと思います。通所施設は築30年以上が経ち老朽化が顕著です。トイレ、洗面は使いにくい上、食堂の出入口は車椅子がギリギリに通れる幅しかなく、災害時には迅速な避難は困難です。新施設の建設または転居を希望しますので、検討していただきたいと思います。

#### 4. アンケート (41 件)

- ・この調査に回答するのに非常に困難でした。内容が難しく回答するために何度も項を行ったりきたりしなくてはなりません。さらに、こうした住民の感じるニーズを政策に活かす道筋はこのアンケートからは見えてきませんでした。郵送式自由記載の調査には限界があり、今回の調査目的には合っていないのではないのでしょうか。社会調査の専門家に関わっていただいた上で計画実施されないと、税金を無駄に使われているように感じます。ご検討をお願いします。
- ・このアンケートがわかりにくいと思います。回答するものとしらないものでもっとわかりやすく判別出来るように工夫出来ればいいのかと思います。
- ・質問の文章にある単語が、すでにむずかしい言い方をしている。もっと分かりやすい文章の書き方をしてほしい。(手続きの書類もいつも、分かりにくい) 精神障害だと見た目では分からないので、気をつかってもらえない。3級だとほとんど受けられるものが限られてしまっていること。
- ・この調査書のすべての漢字にルビが振ってあって障害者に対する配慮のために必要なことはわかっているものの、読みづらくやや煩わしかった。

#### 5. 障害理解 (40 件)

- ・ヘルプマークを付けていても優先席に健常者が気づかないふりをしている人が多いので、もっとしっかりした制度を作っていただけると嬉しいです。
- ・健常者、障がい者と区別することがなく出来るだけ皆が楽しく生きられるような啓発活動のようなことをして頂けると有難いと思います。
- ・本当に意味でバリアフリーを推進していくためには、何よりも子どもの頃からの教育が必要だと思います。講演会やセミナーがあっても大人になってからでは興味・関心のある人しか参加しません。障害を一つの個性として当たり前を受け入れられる人を育てることが行政に望まれる事だと考えています。
- ・4、5年前に参加した文京区の手話講習会では、健常者の講師のもと、主に教科書を主体とした手話の授業が行われ、生徒もほとんどが健常者の方々で内々でのみ使うような閉じられたものでした。一方で三田で行われた手話講習会では、主催者はろう者の方々で、実際に使う生の手話を学ぶことができる様に思われました。前者が学校であるなら、後者はネイティブによる英会話教室と言えます。手話の技術を学ぶことは必要ですが、大事なことはコミュニケーションであり、より活発でひらかれた交流、ろう者の方と実際に触れ合える機会なのではないのでしょうか。

#### 6. 情報・相談 (38 件)

- ・特別な資格がなくてもほんの少しのサポートで十分足りる障害者もいます。ボランティアの方がもっと軽い気持ちで参加できる様な仕組みや告知がほしいです。
- ・どのような制度がどのような形で支援を受けられるのか、わかりにくいところがあるように思います。困った時や就職、結婚、出産等のライフスタイルの変化が起きる場合に備えて、どのような支援を受けられるのか状況ごとに書かれた分かりやすく、かつ読みやすい冊子があると嬉しいです。
- ・一人で孤立した後の手続きは生前に何をしたらいいのか。良い会社の紹介の情報が沢山載っていると思うので、文京区障害者福祉の手引きに書いてあるといい。

- ・広報を見ても自分が対象レベルか分からず、申込みづらい。手当等が自分の対象になるのかや、その手続き、それに伴う別の手当の有無の説明がなく長期補助を受けられないことがあった。広報や町中、区役所の案内をくまなくチェックする体力や気力もない人には、リーフレットや広報だけでは不足。今申請中の手当も資料を自力で集めるだけで大変。管轄が違うのも本当に辛い。

## 7. 将来 (26 件)

- ・細かく分かれすぎて、色々とわからない事が多く、十分な対応がされているのかもよくわかりません。将来に向けて不安ばかりが募るばかりです。
- ・親亡き後の自立支援に向けたサポートやグループホーム等の充実を切に願っております。

## 8. 雇用・就労 (24 件)

- ・精神障害があるが、子育て中なのでなんとか就労している状態です。本当は、就労の負担を軽くしたいですが、保育園に預けられなくなる為仕事を辞められません。障害年金や公的補助が受けられる仕組みについてもよく知らないので、無理をして働いています。働ける範囲で働きながら、援助を受けられるシステムがあるのかどうか学びたいです。
- ・一生懸命に働いたつもりですが、一月の収入が 10 万円にならないこともあります。障害者雇用の法令を満たす条件を超えるとそれ以上働かせてもらえません。時給で働いているので、時間を延ばしてもらいたいですが、聞き入れてもらえません。一人暮らしをして両親が亡くなったとしても生活する慣習を身につけて困らないようにと思っているのですが、自分の現在の収入だと困難です。働いたとしてもあまりに収入が低い場合、仕事先に対して改善するよう話し合ったり、掛け合ってほしい。働いても生活保護を下回るなんてとってしまう。企業に対して条件面で話し合いの場を設置してほしい。

## 10. 障害・疾患 (21 件)

- ・高血圧があり、医薬・酸素の対応に依存。短期に回復は困難。現状維持を目標にしている。歌唱、油絵の趣味は続行中、私的サークル発表会、区展等に参加を心がけ、自立を健康寿命を目標に努力中。
- ・心のケアの充実としてカウンセリングの費用助成をお願いします。私は生まれつきの難病（スタージ・ウェーバー）が原因で緑内障から軽度の視覚障害になりました。血管腫が顔・全身・そして頭部にもあるので、それが原因で発達障害の傾向があると診断を受けました。そのため見た目に大きく影響し社会生活を送るに苦難を強いられ、とても生きづらさを感じる日々を送っています。様々な支援のサービスがみられますが、心の面でも必要だと思います。それがおろそかになると引きこもりや精神障害でにつながり自立にたどり着かないのではないのでしょうか。

## 11. 災害 (11 件)

- ・避難行動要支援者名簿について、情報だけが一人歩きしていませんか？不安があり（マンション内で感じたことあり）登録するのをやめました。支援して下さる方と日頃から顔を合わせていないといざという時無理ではないかと思えます。
- ・今一番心配なのは、難病の薬としてステロイドや免疫抑制剤を飲んでいますが、一生飲んでいかなければならないので地震等で薬が飲めなくなった時、絶対に止めてはいけないと言われているので何日分もある時はいいのですが、無い時にどのようにしたらいいのか心配です。
- ・災害などがあつた時注意を促す広報が街に流れても難聴なため聞き取れない。足も悪く立つことも出来ない。東日本大震災の時も東京で震度 5 強の揺れがあり、一人で居たが何かあつても自ら逃げることが出来ず怖い思いをしました。慢性呼吸器疾患あり、医療機器を使用しているので災害の時は不安な気持ちで一杯になります。どうか安心して暮らせるようお力添えをよろしく願いいたします。

## 12. その他 (25 件)

- ・障がい者自身も「待ち、役所がやるべき」的発想から、まず自分達で何かをやってみようというアクティブ PDCA のきっかけを公的機関がサポートに回る当事者に考え行動してもらい、積極性が必要でしょう。
- ・障害福祉に対して、以前から思っていることです。障害によって物理的な不自由さが増すと、度を超えて、被害者意識を感じるようになります。～して欲しい、を全て真に受けず、毅然と断る姿勢も持つて頂きたい。何でもしてもらえらることに慣れると、自立ができないため。

